

令和8年度 授業概要



S Y L L A B U S

聖園学園短期大学  
保育科



# 目 次

## 1年次

### ◆基礎教養科目

キリスト教人間学ⅠA	1
キリスト教人間学ⅠB	2
くらしと憲法	3
日本語の表現ⅠA	4
日本語の表現ⅠB	5
保育の英語	6
体育講義	7
体育実技	8
情報処理Ⅰ	9
キャリアデザインⅠ	10
児童文学	11
秋田再発見	12
ボランティア活動	13
自然科学入門	14

### ◆専門科目

音楽の理論と合奏	15
声楽ⅠA	16
声楽ⅠB	17
音楽表現ⅠA（ピアノ）	18
音楽表現ⅠB（ピアノ）	19
造形表現Ⅰ	20
教育原理	21
保育者論	22
心身の発達と学習過程	23
特別支援教育総論	24
保育原理	25
子ども家庭福祉	26
社会福祉	27
社会的養護Ⅰ	28

子どもの保健	29
子どもの食と栄養	30
乳児保育Ⅰ	31
子どもの健康と安全	32
子育て支援	33

## 2年次

### ◆基礎教養科目

キリスト教人間学ⅡA	35
キリスト教人間学ⅡB	36
日本語の表現Ⅱ	37
英会話演習	38
身近な数とカタチ	39
情報処理Ⅱ	40

### ◆専門科目

声楽ⅡA	41
声楽ⅡB	42
身体表現Ⅰ	43
音楽表現Ⅱ	44
造形表現Ⅱ	45
保育内容の指導法 健康	46
保育内容の指導法 人間関係	47
保育内容の指導法 環境	48
保育内容の指導法 言葉	49
保育内容の指導法 表現	50
子どもと健康	51
子どもと人間関係	52
子どもと環境	53
子どもと言葉	54

子どもと表現	55
教育制度	56
教育課程・保育の計画と評価	57
幼児指導法	58
幼児理解と教育相談	59
保育・教職実践演習（幼稚園）	60
子ども家庭支援論	61
子ども家庭支援の心理学	62
保育内容総論	63
乳児保育Ⅱ	64
社会的養護Ⅱ	65
卒業研究	66

## 実 習

※実習指導については、2年間を通して行う。

教育実習指導Ⅰ	77	保育実習指導Ⅰ（保育所）	79
教育実習指導Ⅱ	78	保育実習指導Ⅰ（施設）	80
		保育実習指導Ⅱ	81

注. 今年度開講しない科目については省略

# 授業科目ナンバリングについて

## 1. 科目ナンバリングの目的

授業科目に授業内容・レベル等に応じて番号を付し分類することで、学修の段階や順序等をあらわし、教育課程の体系性を明確にすることを目的とする。

## 2. 科目ナンバリングの構成

本学における科目ナンバリングの構成は、次のとおりとする。

### (1) 学科コード（1桁の数字）

区 分	コード
保育科	1

### (2) 分類コード（1文字のアルファベット）

区 分	コード
基礎教養	F (Fundamental Liberal Arts)
専門	E (Early Childhood Education and Care)
その他	O (Others)

### (3) 授業形態コード（1文字のアルファベット）

区 分	コード
講義	L (Lecture)
演習	S (Seminar)
実技・実習	T (Training and Practice)
その他	O (Others)

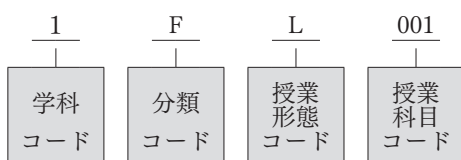
### (4) 授業科目コード（3桁の数字）

区 分	コード
001～999	3桁の任意の数字

## 3. 科目ナンバリングの配置

本学における科目ナンバリングの配置は次のとおりとする。

例) 授業科目コード 01「キリスト教人間学 I」の場合



1 年 次



科目名	キリスト教人間学 I A		科目コード	1FL066	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者	門戸 美智		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				シスターである教員が、聖書をもとに神の人間に対する愛と救いの歴史や、人を愛して生きる生き方を解説する。					
授業のねらいと概要	旧約聖書を通して神の人間に対する愛と救いの歴史を学び、キリスト教の基本的精神を深め、人を愛して生きる生き方を身に付ける。旧約聖書の人間の生き方は現代社会と共通していることに気づき、本学の建学の精神である「真理を求め、人を愛して生きる」生き方を学び、キリスト教の精神で社会に貢献することをねらいとする								
到達目標	(1) 旧約聖書に見られる神の人間に対する愛と救いの歴史を理解できる (2) キリスト教の基本的精神を理解できる (3) 人間と自然、環境の正しいあり方を探り、人も自然も大切にすることを理解し実践できる								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーション 祈り 旧約聖書の使い方 授業の目的				事前 学生便覧p.1～7を読む		60分	
	2	聖書について 旧約聖書 新約聖書				事後 新約聖書p.1～4を読む		60分	
	3	天地創造 初めに神は天と地を創られた				事後 配布プリントを読む		60分	
	4	自然 神はすべてを良しとされた				事前 配布プリントを読む 事後 配布プリントを読む		各60分	
	5	自然 回勅『ラウダート・シ』について(1)				事後 ノートを読む		60分	
	6	自然 回勅『ラウダート・シ』について(2)				事後 ノートを読む		60分	
	7	最初の人間 神はご自分に似せて人を創造された 創世記2:4～25				事後 ノートを読む		60分	
	8	悪・人類最初の罪 アダムとエバとその罪				事後 配布プリントを読む		60分	
	9	み心について(み心のミサについて)				事前「神をたたえて」のみ心の箇所を読む		60分	
	10	み心のミサと講演				事後 ミサと講演について、感想、気づき、等について記述		60分	
	11	悪・人類最初の罪 カインとアベル 創世記4章				事前 配布プリントを読む 事後 配布プリントを読む		各60分	
	12	カリタスジャパンについて カリタスジャパンの活動を知り理解を深める				カリタスジャパンについて関心を持ち世界平和にできる範囲で貢献する		60分	
	13	悪・人類最初の罪 ノアの箱舟 洪水 創世記6章～10章				事前 配布プリントを読む 事後 配布プリントを読む		各60分	
	14	悪・人類最初の罪バベルの塔 創世記11章				事後 配布プリントを読む		60分	
	15	族長物語 アブラハム物語 イサク物語 ヤコブ物語の流れ				事後 配布プリントを読む		60分	
成績評価の方法	試験(30%)、提出課題(30%)、授業態度・意欲(20%)、聖園アワー(20%)								
課題のフィードバック	提出されたリアクションペーパー等、必要があれば学生に連絡し指導する								
テキスト	フランシスコ会聖書研究所訳注：『新約聖書』(サンパウロ) ガエタノ・コンプリ著『ここにひかりを』(ドンボスコ)								
参考文献・資料	授業前に授業で必要なプリント配布								

科目名	キリスト教人間学 I B		科目コード	1FL067	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者	門戸 美智		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				シスターである教員が、聖書をもとに神の人間に対する愛と救いの歴史や、人を愛して生きる生き方を解説する。					
授業のねらいと概要	旧約聖書を通して神の人間に対する愛と救いの歴史を学び、キリスト教の基本的精神を深め、人を愛して生きる生き方を身につける。旧約聖書の人間の生き方は現代社会と共通していることに気づき、本学の建学の精神である「真理を求め、人を愛して生きる」生き方を学び、キリスト教の精神で社会に貢献することをねらいとする								
到達目標	(1) 旧約聖書に見られる神の人間に対する愛と救いの歴史を理解できる (2) キリスト教の基本的精神を理解できる (3) 人間と自然、環境の正しいあり方を探り、人も自然も大切にすることを理解し実践できる								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	アブラハム イサク ヤコブの神 アブラハムの召し出し 創世記12章				事前	プリントを読む	各60分	
	2	アブラハムとイサクの物語 最大の試し 創世記22章				事後	プリントを読む	60分	
	3	アブラハム イサク ヤコブの神 ヤコブ物語 創世記25章19～34章				事後	系図 プリントを見る	60分	
	4	ヨゼフ物語 創世記37章				事後	配布プリントを読む	60分	
	5	ヨゼフ物語 創世記42章				事前	プリントを読む	各60分	
	6	救い モーセと出エジプトの物語 (1)				事前	プリントを読む	各60分	
	7	救い モーセと出エジプトの物語 (2)				事前	プリントを読む	各60分	
	8	救い モーセと出エジプトの物語 (3) 主の過ぎ越し				事前	プリントを読む	各60分	
	9	救い モーセと出エジプトの物語 (4) 律法と十戒				事前	プリントを読む	各60分	
	10	神は預言者によって語られた (1) ヨシュア記 士師記 ルツ記				事後	プリントを読む	60分	
	11	神は預言者によって語られた (2) サムエル記 ダビデ				事後	プリントを読む	60分	
	12	待降節とミサについて				事前	プリントを読む	各60分	
	13	クリスマスミサに参加する				事後	配布されたクリスマス絵本を読み感想を書く	60分	
	14	神は預言者によって語られた (3) 列王記 ソロモン				事後	プリントを読む	60分	
	15	神は預言者によって語られた (4) イザヤ エレミア				事後	プリントを読む	60分	
成績評価の方法	試験 (30%)、提出課題 (30%)、授業態度・意欲 (20%)、聖園アワー (20%)								
課題のフィードバック	提出されたリアクションペーパー等、必要があれば連絡し指導する								
テキスト	フランシスコ会聖書研究所訳注：『新約聖書』(サンパウロ) ガエタノ・コンプリ著『ここにひかりを』(ドンボスコ)								
参考文献・資料	授業前に授業で必要なプリント配布								

科目名	くらしと憲法		科目コード	1FL003	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者	桑原 進之輔		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				弁護士である教員が、憲法の内容と基本的な考え方を解説する。					
授業のねらいと概要	憲法の内容と基本的な考え方を、自らの社会生活に根ざしたものとして理解する。								
到達目標	(1) 憲法の基本的な考え方を理解することができる 1) 憲法の意義について理解することができる 2) 憲法の基本原則を理解することができる (2) 人権について理解することができる 1) 自由権の意義、内容について理解することができる 2) 社会権の意義、内容について理解することができる (3) 成人として必要な法的知識を身につける 1) 選挙制度、立法・行政・司法の役割と関係について理解する 2) 刑事裁判制度、消費者としての知識、身分関係の一般的な法的知識を理解する								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○			○	○	○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーション 身近な法律関係 日常生活において、法律がどのように機能しているのかを理解する				身近に法律トラブルが潜んでいないか考える。		60分	
	2	憲法の意義・歴史 憲法の概要を確認し、その歴史的意義や各法律との関係について理解する				事前：教科書の該当部分を読んでおく。 事後：グループワークの内容を振り返る。		各60分	
	3	幸福追求権 幸福追求権とは何かということについて具体的事例を通して理解を深める				同上		各60分	
	4	法の下での平等 法の下での平等が意味する平等について具体的事例を通して考える				同上		各60分	
	5	内心の自由 内心が制約されていた歴史を踏まえ、内心の自由の不可侵性を理解する				同上		各60分	
	6	表現の自由 表現の自由の重要性、情報の受け手としても保障されていることを理解する				同上		各60分	
	7	経済的自由権 経済的自由権はどのような権利を保障しているかということを説明する				同上		各60分	
	8	人身の自由 刑事手続について説明し、被告人等の基本的人権を保障する意味を考える				同上		各60分	
	9	社会権 生存権や労働権について事例を取り上げ、社会権が保障する内容を説明する				同上		各60分	
	10	国民主権 国民主権の意義を説明し、我々の生活をどのように保障するかを理解する				同上		各60分	
	11	国会・内閣・裁判所 それぞれの権能、三者間の関係について説明し、統治機構の理解を深める				同上		各60分	
	12	地方自治 地方自治の意義について理解を深める				同上		各60分	
	13	平和主義 具体的事例を取り上げながら、憲法9条の意味について考える				同上		各60分	
	14	憲法の保障・最高法規性 憲法が国内の最高法規であることの意味、違憲立法審査権について説明する				同上		各60分	
	15	憲法改正 憲法改正の手続を説明し、憲法改正の必要性について考える				同上		各60分	
成績評価の方法	定期試験（80%）、授業参加態度・意欲（20%）								
課題のフィードバック	試験は採点して返却								
テキスト	東裕・杉山幸一編：『Next 教科書シリーズ 日本国憲法（第2版）』（弘文堂）								
参考文献・資料	各種小六法（ミネルヴァ書房編集部編：『社会福祉小六法』等） 尾崎哲夫著『はじめての憲法総論・人権（第7版）』『はじめての憲法統治（第4版）』（自由国民社）								

科目名	日本語の表現 I A		科目コード	1FL070	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者	大原 かおり		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				中高(国語)教員免許(専修)を有し現場経験のある教員が、社会人・保育者として必要な日本語の知識や技能を解説する。					
授業のねらいと概要	小学校・中学校・高等学校等において身につけてきた国語(日本語)の知識や技能を振り返り、社会人・保育者として、国語を的確に理解し、効果的に表現するための資質・能力を身につける。 講義・演習を通して、自らの言葉の感覚を整え、磨く。								
到達目標	(1) 実社会に必要な国語(日本語)の知識や技能を身につける 1) 正しい表記・文法・敬語・語彙等の基礎知識を身につけ、適切に表現できる 2) 日本語検定3級(高校卒業程度)の合格認定を目指す 3) バランスのよい文字と要点の伝わる文章によって、適切に表現できる (2) 社会人・保育者としてふさわしい言語能力を身につける 1) 文章や手紙を書く際のマナーを身につける 2) 場にふさわしい表現方法や技術を駆使して、効果的に表現できる								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○		○	○	○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーション — 授業の説明 保育者に求められる国語力とは				【事前】シラバス内容を確認し、テキストの「はじめに」を読む。 【事後】テキスト・配付資料を見直す。		各60分	
	2	総合演習1 — 日本語検定過去問(4級)解説				【事前】検定過去問を解く。 【事後】間違ったところを復習する。		各60分	
	3	国語カトレーニング — 敬語とは・尊敬語				【事前】テキストの該当項目を見直す。 【事後】復習する。		各60分	
	4	国語カトレーニング — 謙譲語・丁寧語				【事前】テキストの該当項目を見直す。 【事後】復習する。		各60分	
	5	国語カトレーニング — ささまざまな敬語表現				【事前】テキストの該当項目を見直す。 【事後】復習する。		各60分	
	6	国語カトレーニング — ら抜き表現・さ入れ表現・れたす表現(助動詞)文のねじれ				【事前】テキストの該当項目を見直す。 【事後】復習する。		各60分	
	7	総合演習2 — 日本語検定過去問(3級)解説				【事前】検定過去問を解く。 【事後】復習する。		各60分	
	8	総合演習3 — 日本語検定過去問(3級)解説				【事前】検定過去問を解く。 【事後】復習する。		各60分	
	9	日本語検定対策 直前演習				【事前】苦手項目を学習する。 【事後】苦手項目を復習する。		∞	
	10	日本語検定 6月12日(金)				【事前】苦手項目を重点的に復習する。		∞	
	11	日本語表現の基礎 — 話す・聞く 基本編 + α				【事前】テキストの該当項目を読む。 【事後】配付資料等を見直す。		各60分	
	12	日本語表現の基礎 — 書く 基本編 文字を正しく・美しく1				【事前】テキストの該当項目を読む。 【事後】課題に取り組む。		各60分	
	13	日本語表現の基礎 — 書く 基本編 文字を正しく・美しく2				【事前】テキストの該当項目を読む。 【事後】課題に取り組む。		各60分	
	14	日本語表現の基礎 — 書く 基本編 表記のルール				【事前】テキストの該当項目を読む。 【事後】配付資料等を見直す。		各60分	
	15	日本語表現の基礎 — 書く 応用編 実習礼状などの手紙の書き方				【事前】テキストの該当項目を読む。 【事後】配付資料等を見直して練習する。		各60分	
成績評価の方法	日本語検定(50%)、提出課題(40%)、授業参加態度・意欲(10%)								
課題のフィードバック	適宜、点検・添削して返却する。 取り組み状況・到達状況が不十分な場合、やり直しや追加課題、授業時間外補習を実施する。								
テキスト	日本語検定委員会編：『ステップアップ日本語講座 中級』(東京書籍) 篠原京子・増田泉著：『保育者をめざす人のための ことばの表現—話す・聞く・書く』(建帛社)								
参考文献・資料	適宜、提示・配布をする。								

科目名	日本語の表現 I B		科目コード	1FL071	必修・選択	必修	授業形態	1	講義	1年・後期
担当者	大原 かおり		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・後期		
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				中高(国語)教員免許(専修)を有し現場経験のある教員が、社会人・保育者として必要な日本語の知識や技能を解説する。						
授業のねらいと概要	小学校・中学校・高等学校等において身につけてきた国語(日本語)の知識や技能を振り返り、社会人・保育者として実社会に通用する国語の知識や技能を身につけ、言語活動を通して国語で的確に理解し、効果的に表現するための資質・能力を身につける。 講義・演習・表現活動によって自らの言葉の感覚を整え、磨く。									
到達目標	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につける 1) 言葉遣いや文章を書く際のマナーを身につけ、適切に表現できる 2) バランスのよい文字や文章の書き方を工夫し、適切に表現できる 3) 場にふさわしい表現方法や技術を駆使し、効果的に表現できる (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の考えを広げたり深めたりすることができる 1) 情報や自分の考えを整理し吟味することにより論理的に考える力や豊かに想像する力を伸ばすことができる 2) 他者との関わりの中で意見や表現を理解し、伝え合う力を伸ばすことができる									
DPとの関連	人間性		専門性				社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力	
	○	○	○		○	○	○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容					事前・事後学習			時間(目安)
	1	オリエンテーション ―授業の説明 1週間日記・漢字ゲームについて					【事前】シラバスの内容を確認する。 【事後】課題に取り組む。			各60分
	2	日本語表現の基礎 ―書く 基本編 文章の基本的な書き方1					【予習】テキストの該当項目に目を通す。 【事後】復習する。			各60分
	3	日本語表現の基礎 ―書く 基本編 文章の基本的な書き方2					【予習】テキストの該当項目に目を通す。 【事後】復習する。			各60分
	4	日本語表現の基礎 ―書く 基本編 文章の基本的な書き方3					【予習】テキストの該当項目に目を通す。 【事後】復習する。			各60分
	5	日本語表現の基礎 ―書く 基本編 小論文を書くために					【事後】復習する。			60分
	6	日本語表現の基礎 ―書く 実践編 小論文を書く1					【事後】小論文の構想を練る。			60分
	7	日本語表現の基礎 ―書く 実践編 小論文を書く2					【事前】資料を確認し、よりよい小論文になるよう備える。			60分
	8	日本語表現の応用 ―読む・話す 『もりのなか』をよむ ディスカッション					【事前】資料を読み、概要をつかんでおく。 【事後】復習する。			各60分
	9	日本語表現の応用 ―読む・話す 絵本論をよむ1 ディスカッション					【事前】資料を読み、概要をつかんでおく。 【事後】復習する。			各60分
	10	日本語表現の応用 ―読む・話す 絵本論をよむ2 ディスカッション					【事前】資料を読み、概要をつかんでおく。 【事後】復習する。			各60分
	11	日本語表現の応用 ―書く 小論文振り返り					【事後】返却された小論文を見直し、自分の課題を確認する。			60分
	12	日本語表現の応用 ―書く・描く 絵本モニタージュについて					【事後】復習し実際に絵本を読んで検証する。			60分
	13	日本語表現の応用 ―書く・描く おべんとう絵本1					【事前】資料を読む。			60分
	14	日本語表現の応用 ―書く・描く おべんとう絵本2					【事後】絵本を完成させる。			60分
15	日本語表現の応用 ―読む おべんとう絵本発表会 まとめ					【事前】発表の演出を考え、練習する 【事後】自身の作品を振り返り、仲間の作品を評価する。			各60分	
成績評価の方法	提出課題(80%)、授業参加態度・意欲(20%)									
課題のフィードバック	適宜、点検・添削して返却する。 取り組み状況や到達状況が不十分な場合、やり直しや授業時間外の補習を実施する。									
テキスト	篠原京子・増田泉著：『保育者をめざす人のための ことばの表現―話す・聞く・書く』(建帛社)									
参考文献・資料	適宜、提示・配布をする。									

科目名	保育の英語		科目コード	1FS010	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	大西 絵理香		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				中高(英語)教諭免許を有し幼稚園で子ども向け英語教室を行っている教員が保育現場で使える英語の基礎について指導する。					
授業のねらいと概要	多様化する保育の現場で不可欠となるコミュニケーション能力を養うため、英語による子どもの保育や保護者との対応方法を学ぶ。また、言語知識に加えて異文化間コミュニケーションに必要な配慮を理解し身につける。								
到達目標	(1) 各ユニットで設定された場面を通して保育の現場で使用される英語の知識を理解できる。 (2) さまざまな遊びや日常生活を通して園児の気持ちをくみとり、英語で表現することができる。 (3) 園児の共同生活で想定されるトラブルの対応や、リスク管理に関する基礎的知識を持つ。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○				○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	Unit 1: Self-Introduction & Background Information 初対面時の自己紹介、家庭調査票の英語表記				自己紹介に用いる英文や語彙を確認する		60分	
	2	Unit 2: The Map of a Nursery School 園舎や保育室内のものの英語表現、場所を説明するための表現				園舎内を案内するための英文や語彙を確認する		60分	
	3	Unit 3: Arrival & Things Children Need 登園時や朝の時間に行くこと、登園に必要な持ち物				園児の持ち物を説明するための語彙を確認する		60分	
	4	Unit 4: Indoor & Outdoor Game 子どもの遊びや遊具の英語表現				子どもを遊びに誘う英文や遊びに関する語彙を確認する		60分	
	5	Unit 1-4 のまとめ：園児や保護者との会話想定練習				Unit 1-4 で扱った会話を練習する		60分	
	6	Unit 5: Annual School Calendar & Holidays 園の年間行事と国民の祝日などの英語表現				保育園の年間行事を説明する英文や語彙を確認する		60分	
	7	Unit 6: Feelings & Emotions 子どもの気持ちや感情を表す英語表現				子どもの気持ちを表す形容詞を理解し、英文の中での用法を確認する		60分	
	8	Unit 7: Daily Schedule 保育者の毎日の仕事に関する英語表現				保育園の日課や年齢による日課の違いを説明する語彙を確認する		60分	
	9	Unit 8: Lunchtime 給食やおやつに関する語句、給食の食材や献立の英語表現				子どもに給食やおやつを食べさせる時の声かけ表現を理解する		60分	
	10	Unit 5-8 のまとめ：日常の保育の場面ごとの会話練習				異なる保育の場面を想定した会話で用いる英文を確認する		60分	
	11	Unit 9: Toilet Training 排泄に関する幼児語、トイレトレーニングの英語表現				子どもの排泄やトイレトレーニングに関する専門用語を理解する。		60分	
	12	Unit 10: Dealing with Fights 子どものケンカやトラブルに関する英語表現、身体の部位を表す語句				子どものケンカやトラブルに対処するための声かけ表現を理解する		60分	
	13	Unit 11: Injuries & Illnesses 子どものケガや病気、応急処置に関する英語表現				子どもの体調やけがの具合を英語で確認するための表現を練習する		60分	
	14	Unit 12: Graduation 卒園に関する英語表現、祝福や感謝で用いる表現				卒業行事の際に子どもや保護者に声かけする表現を確認する		60分	
	15	Unit 9-12 のまとめ：保育の中で想定されるトラブルやリスク管理を英語で行う表現				保育の中で想定される緊急時に英語で対応するための表現を確認する		60分	
成績評価の方法	定期試験(70%、授業プリントから出題)、レポート(20%、英語での自己紹介や英語を用いた保育)、授業プリント提出(10%、授業終了後に提出)								
課題のフィードバック	授業プリントは点検した後に翌回の授業で返却する。レポートは評価をつけてから返却する。								
テキスト	宮田学編、高橋妙子著：「保育英語の練習帳2」(萌文書林)								
参考文献・資料	公益社団法人全国幼児教育研究協会 編著：「事例でみる外国人幼児と保護者を支える保育」(チャイルド本社) 山田千明編著：「多文化に生きる子どもたち」(明石書店)								

科目名	体育講義		科目コード	1FL072	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者	内藤 裕子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性									
授業のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康」というものを理解し、その知識を生かす力を学ぶ。</li> <li>・スポーツやレクリエーションの位置づけを理解し、楽しみ方や技能を把握する。</li> </ul>								
到達目標	<p>(1) 健康を多角的にとらえ、日々の生活にいかすことができる。</p> <p>(2) スポーツの意義を理解し、生涯にわたってその楽しみに関わることができる。</p>								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーション				予習・復習に関する資料を確認する		各60分	
	2	健康の定義について				〃		各60分	
	3	健康をめぐる現状と課題について				〃		各60分	
	4	健康と食の関係				〃		各60分	
	5	健康と睡眠の関係				〃		各60分	
	6	健康と運動の関係				〃		各60分	
	7	セロトニン				〃		各60分	
	8	ダイエット				〃		各60分	
	9	体力について				〃		各60分	
	10	スポーツの意義				〃		各60分	
	11	生涯スポーツ				〃		各60分	
	12	みるスポーツ・支えるスポーツ				〃		各60分	
	13	生活習慣の見直し				〃		各60分	
	14	健康と体力の関係性				〃		各60分	
	15	まとめ(「健康の定義」の再確認)				〃		各60分	
成績評価の方法	提出課題(30%)、レポート(30%)、授業参加態度(40%)								
課題のフィードバック	授業内容と得た知識についての感想を添削して返却する。								
テキスト									
参考文献・資料	必要に応じて、提示する								

科目名	体育実技		科目コード	1FT012	必修・選択	必修	授業形態	(実技)	
担当者	松下 翔一		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性									
授業のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまなスポーツを経験することで、その技術のみがく。</li> <li>生涯にわたって、スポーツやレクリエーションに親しめる能力を身につける。</li> </ul>								
到達目標	<p>(1) スポーツの重要性や意義についての知識を習得する。  (2) 自分自身の体力強化について意識することができる。</p>								
DPとの関連	人間性		専門性				社会性		
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○	○	○
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	オリエンテーション				予習・復習に関する資料を確認する			各60分
	2	バレーボール① ― 基礎技能の理解と体験				”			各60分
	3	バレーボール② ― 技能の発展と応用				”			各60分
	4	バレーボール③ ― ゲームに向けた技能練習				”			各60分
	5	バレーボール④ ― ゲーム形式による実践				”			各60分
	6	バレーボール⑤ ― ルール理解と運営方法の学習				”			各60分
	7	バレーボール⑥ ― 指導法の工夫と振り返り				”			各60分
	8	ドッジボール① ― 基本技能の理解				”			各60分
	9	ドッジボール② ― ゲーム展開と協力				”			各60分
	10	ドッジボール③ ― ルールの工夫と応用				”			各60分
	11	ドッジボール④ ― 実践とまとめ				”			各60分
	12	バスケットボール① ― 基礎技能の習得				”			各60分
	13	バスケットボール② ― 応用技能とゲーム体験				”			各60分
	14	バスケットボール③ ― ルール理解と実践				”			各60分
	15	バスケットボール④ ― まとめと振り返り				”			各60分
成績評価の方法	提出課題(30%)、実技点(30%)、授業参加態度(40%)								
課題のフィードバック	授業内容と得た知識についての感想を添削して返却する。								
テキスト	なし								
参考文献・資料	必要に応じて、提示する								

科目名	情報処理 I		科目コード	1FL073	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者	大島 加奈子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				情報処理に関する各種資格を有す教員が、業務で培った情報処理の技能を生かし、アプリケーションの操作やITリテラシーなど、情報処理の基礎から応用までを指導する。					
授業のねらいと概要	ITリテラシーを習得するため、パソコンの基礎からインターネットの活用、セキュリティまで実習を通して学ぶ								
到達目標	(1) 現代社会の必須技能である「読み・書き・パソコン」を学び、ITリテラシーを高める 1) 文書作成アプリを活用し、適切な文書を作成することができる 2) 表計算アプリを活用し、分かりやすい資料を作成することができる 3) プレゼンテーションアプリを活用し、分かりやすい資料を作成することができる (2) 個人データの取り扱いや情報倫理の重要性を理解する 1) 電子データの共有によるメリット・デメリットを理解できる 2) インターネット(SNS等の利用含む)の取り扱いの注意点を理解できる 3) SNSなどの情報の取り扱い、セキュリティの注意点を理解できる								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
			○	○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	ガイダンス 本学パソコン室の機器の使用法注意点を説明 情報倫理の重要性を学ぶ(個人情報保護の重要性について学ぶ)				事後：履修した部分の教科書を読み、ノートにまとめておく			60分
	2	パソコン機器の基礎的な操作法の取得 確実なタイピング技術の基礎の取得				事後：タイピング、パソコンの基本操作を練習			60分
	3	文書作成アプリ(Word)の機能と操作を学ぶ				事後：タイピング、教科書の練習問題の作成			60分
	4	1)「保護者への書類」を題材にワープロ文書の作成技法を学ぶ				事後：タイピング、教科書の練習問題の作成			60分
	5	2) Wordの表・図形・画像機能を活用して、「イラストの入ったおたより」の作成技法を学ぶ				事後：タイピング、配布したビジネス文書を作成			60分
	6	3) インデント・タブ機能を活用して、「卒園式のご案内」を作成し、印刷まで学ぶ 4) 宛名ラベルの機能を活用して、差し込み印刷を理解する。				事後：履修した機能を確認し、わからない機能を復習する			60分
	7	表計算アプリ(Excel)の機能と操作を学ぶ				事後：履修した四則演算を復習、練習問題を作成			60分
	8	1) 表計算アプリの基本、四則演算を理解する				事後：Wordとの違いを確認し、練習問題の表を作成する			60分
	9	2) 「物品購入申請書」の作成を通して、表作成の作成技法を学ぶ				事後：教科書の練習問題を作成し、苦手な部分を確認			60分
	10	3) オートフィル、シートの複写などの機能を使用し「写真購入申込集計表」の作成を学ぶ 4) 「園児名簿」の作成を通して、表示形式の技法を学ぶ				事後：履修した関数・表示形式を復習し、表作成をする			60分
	11	プレゼンテーションアプリ(PowerPoint)の機能と作成方法を学ぶ				事後：自己紹介のスライドにアニメーションをつける			60分
	12	1) 「自己紹介スライド」の作成を通して、基本的なスライドの作成技法を学ぶ				事後：履修した著作権について、教科書を読みノートにまとめておく			60分
	13	2) 著作権に配慮した、オンライン画像の使い方を理解する。				事後：履修した紙芝居を作成し、動画にする			60分
	14	3) SmartArt機能を使用し、フローチャートの作成技法を学ぶ 4) プレゼンテーションから動画のスライド作成技法を学ぶ				事後：履修した紙芝居を作成し、動画にする			60分
	15	タブレットなどの携帯端末を使用する上でセキュリティ・個人情報の取扱いについて学ぶ。生成AIの基本知識について学ぶ				事後：セキュリティ・個人情報について、ノートにまとめておく			60分
成績評価の方法		提出課題(80%)、授業態度・意欲(20%)							
課題のフィードバック		提出された課題に対し、コメント等を記入し返却。 なお、ビジネスマナーや計算式等の修正が必要な場合は期限内での再提出とする。							
テキスト		渡邊 裕 編：『これからの保育のためのICTリテラシー&メディア入門』(株式会社みらい)							
参考文献・資料		自作のプリントを作成し配布する							

科目名	キャリアデザインⅠ		科目コード	1FS103	必修・選択	必修	授業形態	演習	
担当者	蛭田 一美		担当形態	オムニバス	単位数	1	学年 期間	1年・通年	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性									
授業のねらいと概要	<p>保育者を目指す学生が、大学での学びに円滑に適応し、自分自身や将来について考え、進路や働き方を前向きに考える力を身につけることを目的とする。</p> <p>保育の仕事や働き方について学びながら、自分の考えや目標を整理していく。</p> <p>グループワークや演習を通して、自己理解を深め、就職に向けた心構えや基本的なマナーを学ぶ。</p>								
到達目標	<p>(1) 学生としての学習姿勢や学び方を理解し、実践できる。</p> <p>(2) 自分の興味・価値観・強みを理解し、将来像について考えることができる。</p> <p>(3) 保育の仕事や保育現場の役割について基本的な理解を深めることができる。</p> <p>(4) 就職や進路選択に向けて、今後の学生生活で取り組む目標を立てることができる。</p> <p>(5) 社会人として必要な基本的な態度やマナーを理解し、行動に生かそうとすることができる。</p>								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーションⅠ ～CCE研修～				シラバスを読み授業に臨むこと。		60分	
	2	国語入学前課題テスト				国語の入学前課題の学習をする。		60分	
	3	オリエンテーションⅡ キャリアデザインとは				自分のキャリアデザインについてまとめる。		60分	
	4	社会人力アップ講座Ⅰ ～ビジネスマナー・スーツの着こなし～				学修した内容を日常生活で実践する。		60分	
	5	ポートフォリオⅠ ～ポートフォリオの意義～				ポートフォリオノートに記入する。		60分	
	6	レポートの書き方について				学修した内容を大学生活で実践する。		60分	
	7	社会人講話 ～社会で活躍している人の話を聞く～				講話内容をノートにまとめる。		60分	
	8	県内保育関係施設合同説明会				説明を受ける施設について調べる。 説明を受けた内容についてまとめる。		60分	
	9	施設見学 ～養護施設・乳児院などを見学する～				見学する施設について調べる。 見学した施設についてまとめる。		60分	
	10	ポートフォリオⅡ ～自己査察～				ポートフォリオノートに記入する。		60分	
	11	社会人力アップ講座Ⅱ ～ビジネスマナー・電話応対～				学修した内容を日常生活で実践する。		60分	
	12	卒業生講話				講話内容をノートにまとめる。		60分	
	13	自己分析Ⅰ ～交流分析(TA)～				分析を振り返り、自分の課題を整理する。		60分	
	14	自己分析Ⅱ ～人生すごろく(金の糸)～				授業内容を振り返り、自分の課題を整理する。		60分	
	15	自己分析Ⅲ ～自分の事をよく知ろう～				「就職ガイドブック」自己分析を完成させる。		60分	
	16	2年生就職活動報告会				活動報告内容をノートにまとめる。		60分	
成績評価の方法	リアクションペーパーの提出・ファイリング(70%)、授業態度・意欲(30%)								
課題のフィードバック	提出されたリアクションペーパーを確認し、必要に応じてコメントを記入して返却する。								
テキスト	必要に応じて資料を配布する。								
参考文献・資料	「就職ガイドブック」(聖園学園短期大学)								

科目名	児童文学		科目コード	1FL074	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	
担当者	大原 かおり		担当形態	講義	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				中高(国語)教諭免許(専修)を有する教員が、児童文学の一分野でもある絵本学の観点から絵本に関する領域の基礎知識や理論を解説する。					
授業のねらいと概要	児童文学のジャンルの一つでもある絵本分野を「絵本学」という観点から、絵本に関するさまざまな領域についての基礎知識や理論を学ぶ。 児童文化財である絵本をさまざまな角度から捉えることにより、絵本についての造詣を深め、絵本選びや読み聞かせなどの実践につなげる。								
到達目標	(1) 絵本の基本事項について体系的に学ぶ 1) 絵本の歴史・機能・読者・種類について理解する 2) 絵本作品をよみ、それぞれの特色を理解する (2) 絵本の視読解を通して、さまざまな表現やその効果を理解する 1) 絵とテキスト(ことば)の表現機能・相乗効果について理解する 2) 用途や目的に合わせた絵本選びができる 3) 自分の考察をまとめ、発表することができる								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーション 児童文学・絵本学とは —さまざまな絵本の見方、絵本の基礎概念				【事前】シラバスに目を通しておく。 【事後】講義内容を復習し、取り上げた絵本を読む。		各60分	
	2	絵本の歴史1 —世界の絵本の歩み				【事後】講義内容を復習し、取り上げた絵本を読む。		60分	
	3	絵本の歴史2 —日本の絵本の歩み				【事後】講義内容を復習し、取り上げた絵本を読む。		60分	
	4	絵本のテキスト1 —現代の絵本、主題の多様化、表現の可能性				【事後】講義内容を復習し、取り上げた絵本を読む。		60分	
	5	絵本のテキスト2 —文の機能と絵の機能				【事後】講義内容を復習し、取り上げた絵本を読む。		60分	
	6	絵本のテキスト3 —画面展開と描写の技法、絵本の視覚表現				【事後】講義内容を復習し、取り上げた絵本を読む。		60分	
	7	絵本の読み合い・読み聞かせ、絵本の選び方				【事後】講義内容を復習し、取り上げた絵本を読む。		60分	
	8	絵本のテキスト4 —絵本の色彩表現、時間と空間の表現、画材と技法				【事後】講義内容を復習し、取り上げた絵本を読む。		60分	
	9	映像作品 —原作と翻案				【事前】資料を読む。 【事後】講義内容を復習する。		各60分	
	10	美術館等施設見学(予定)				【事前】見学要項を確認する。 【事後】レポートを書く。		各60分	
	11	絵本の種類1 —創作(物語)絵本				【事後】講義内容を復習し、取り上げた絵本を読む。		60分	
	12	絵本の種類2 —さまざまなジャンルの絵本				【事後】講義内容を復習し、取り上げた絵本を読む。		60分	
	13	個人研究1 —概要説明、研究テーマ・作品決め				【事前】研究対象となりそうな作品の候補を探す。 【事後】研究に必要な資料を探す。		各60分	
	14	個人研究2 —調査・研究、資料作り				【事前】資料をそろえておく。 【事後】発表資料を仕上げる。		各60分	
	15	個人研究発表会 まとめ				【事前】効果的な発表になるように練習をしておく。 【事後】発表を振り返り、課題を見つける。		各60分	
成績評価の方法	提出課題(50%)、研究発表・レポート(30%)、授業態度・意欲(20%)								
課題のフィードバック	適宜、点検・添削して返却する。								
テキスト	なし								
参考文献・資料	適宜、提示・配布をする。								

科目名	秋田再発見		科目コード	1FL105	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	
担当者	古内 一樹・鎌田 悟		担当形態	オムニバス	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				小・中・高の教員免許を有し、教育行政に関わった経験のある教員が、秋田県の自然・文化・歴史・産業等について解説する。					
授業のねらいと概要	私たちのふるさとである秋田県については、知っているようでまだまだ知らないことがたくさんある。将来、秋田県に定住し、保育者として活躍するであろう学生たちが、ふるさと秋田の良さについて学修し、今後の保育者としての活動に活かす。講義と演習（グループ活動を含む）並びに実地見学・美術作品鑑賞等とおして深い学びを得る。								
到達目標	(1) 秋田県の自然・文化・歴史・産業等の総合的な学びからその特色を理解する。 (2) ふるさととの事物との出会い、発見、感動をおとして、豊かな心や興味ある事物への探究心をもつ。 (3) ふるさとへの良さに気づき、自信と誇りをもって積極的に行動し活躍できる。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○		○		○	○	○	○	○
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーション(授業の進め方と評価等について) 秋田県の自然と地理(1)				授業の振り返りをシートに記録する。		90分程度	
	2	秋田県の自然と地理(2)				授業の振り返りをシートに記録する。		90分程度	
	3	秋田県の文化(1) 美術館①				授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。		90分程度	
	4	秋田県の文化(2) 美術館②				授業の振り返りをシートに記録する。		90分程度	
	5	秋田県の文化(3) 博物館①				授業の振り返りをシートに記録する。		90分程度	
	6	秋田県の文化(4) 博物館②				授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。		90分程度	
	7	秋田県の文化(5) 文化財と昔話・伝説				授業の振り返りをシートに記録する。		90分程度	
	8	秋田県の文化(6) 民俗芸能				授業の振り返りをシートに記録する。		90分程度	
	9	秋田県の歴史(1) 原始・古代・中世				授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。		90分程度	
	10	秋田県の歴史(2) 近世・近現代				授業の振り返りをシートに記録する。		90分程度	
	11	秋田県の産業(1) 人口と産業構造の変遷				授業の振り返りをシートに記録する。		90分程度	
	12	秋田県の産業(2) 農林水産業				授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。		90分程度	
	13	秋田県の産業(3) 鉱工業と商業・サービス業				授業の振り返りをシートに記録する。		90分程度	
	14	秋田県の産業(4) 観光レクリエーション				授業の振り返りをシートに記録する。		90分程度	
	15	秋田県の教育と子ども				授業の振り返りを記録し、まとめ課題をやる。		90分程度	
成績評価の方法	テーマについてのレポート及び鑑賞レポート(60%)、随時の課題及び毎時の授業資料への振り返り(30%)、授業態度・意欲・出欠(10%)								
課題のフィードバック	課題についてのコメント及びグループワークによる発表へのコメント。ファイル点検時に授業資料への振り返り等にもコメントして返却する。								
テキスト	パワーポイントと配付する授業資料を使用する。A4版の綴じ込み用ファイルを必ず準備すること。								
参考文献・資料	『ふるさと秋田の学び』(平成8年2月、秋田県教育委員会)、『秋田を学ぶ 文化と歴史』、『秋田を学ぶ 自然と社会』(佐藤 猛他 秋田文化出版)、『秋田県風土記』等その他適宜紹介する。								

科目名	ボランティア活動		科目コード	1FL008	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	
担当者	藤原 法生		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				福祉に関する資格を有し専修学校で指導経験のある教員が、ボランティア活動の意義や実践について指導する。					
授業のねらいと概要	ボランティア活動の原理や歴史の変遷を踏まえて、ボランティア活動の意義を理解する。 社会や自身の成長に資するボランティア活動の必要性を理解する。 講義のほか、体験学習やグループワーク等を行い、ともに考えながら具体的な学びができる授業構成とする。								
到達目標	(1) ボランティア活動の意義について理解している (2) ボランティア活動を行う組織とそれを支援する組織について理解している (3) ボランティア活動の領域について理解している (4) 福祉教育について理解している								
DPとの関連	人間性		専門性				社会性		
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○		○				○		○
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	ボランティア活動の基礎 ボランティアとはなにか(グループワーク)				事前：ボランティアの定義について検討しておく 事後：グループワークの振り返りをする			90分
	2	ボランティア活動の基礎 「招福狐の行列」活動の確認と準備				事後：確認事項を踏まえて具体的な準備をする			60分
	3	ボランティア活動の基礎 通町商店街「招福狐の行列」運営スタッフ活動【10月10日(土)】				事前：確認事項を踏まえて具体的な準備をする			60分
	4	ボランティア活動の基礎 通町商店街「招福狐の行列」運営スタッフ活動【10月10日(土)】							
	5	ボランティア活動の基礎 通町商店街「招福狐の行列」運営スタッフ活動【10月10日(土)】				事後：活動の振り返りをする			60分
	6	ボランティア活動の基礎 「招福狐の行列」の振り返りと地域清掃活動の準備				事前：活動の振り返りをする			60分
	7	ボランティア活動の基礎 地域における活動(清掃活動体験)				事後：活動の振り返りをする			60分
	8	ボランティア活動の基礎 地域課題の情報収集(グループワーク)				事前：地域課題について情報収集する 事後：グループワークの振り返りをする			90分
	9	ボランティア活動の基礎 地域における活動(地域課題探索活動)				事後：活動の振り返りをする			60分
	10	ボランティア活動の基礎 地域課題探索の振り返り(課題解決方法の検討)(グループワーク)				事後：グループワークを踏まえ、課題解決方法についてさらに検討する			60分
	11	ボランティア活動の基礎 地域課題探索の振り返り(課題解決方法の検討)(グループワーク)				事後：グループワークを踏まえ、課題解決方法についてさらに検討する			60分
	12	ボランティア活動の基礎 地域課題探索の振り返り(課題解決方法の検討)(報告会)				事後：報告会の振り返りをする			60分
	13	ボランティア活動の原理 自発性、主体性、社会性				事後：ノートを読み、学習内容を再確認する			60分
	14	ボランティア活動の原理 無償性、創造性・開拓性・先駆性				事後：ノートを読み、学習内容を再確認する			60分
	15	まとめ ボランティアの定義の再検討、ボランティア活動の展望				事後：全体の学習内容を再確認する			90分
成績評価の方法		提出課題・レポート等(60%)、授業への参加態度・提出課題(40%)							
課題のフィードバック		提出課題やレポートは、評価を付して返却する							
テキスト		なし							
参考文献・資料		柴田謙治・原田正樹・名賀亨 編：『ボランティア論』(みらい) 安藤雄太 監修：『ボランティアまるごとガイド』(ミネルヴァ書房) その他、必要に応じて提示する							

科目名	自然科学入門		科目コード	1FL075	必修・選択	選択必修	授業形態		講義	
担当者	田口 瑞穂		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期		
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				小学校および中学校理科の教員専修免許状を有し学校現場において指導経験のある教員が授業を行う。						
授業のねらいと概要	授業のねらいは、身近な自然の事物・現象について実感を伴った理解を深め、科学的な思考方法を身につけ、科学的に探究しようとする態度や自然を愛する心情を養うことである。授業は講義、観察・実験等の演習、学生同士の討議などからなり、知識や技能、思考力や判断力、表現力等を養う。									
到達目標	(1) 自然の事物・現象から課題を見つけ、それを解決するための基本的な知識・技能を修得する。 (2) 科学的な思考方法について学び、得られたデータの解釈の方法を理解する。 (3) 身近な自然の事物・現象について興味・関心をもち、進んで探究しようとする。									
DPとの関連	人間性		専門性				社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力	
	○		○		○	○	○			
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習				時間(目安)
	1	「身近な生物」 生物の分類方法に基づいて身近に見られる動植物を分類するとともに、その生態を理解する。				事後：内容のまとめと発展				60分
	2	「日本人の自然観」 日本の地理的、地学的特徴から育まれた日本人の自然観について寺田寅彦から学び、理解する。				事後：レポート課題				120分
	3	「身近な動物」 身近に見られる動物について、その特徴を調べたり人のくらしとの関連について調べたりして、理解を深める。				事前：動物の定義 事後：身近な動物の同定				各60分
	4	「身近な植物」 身近に見られる植物について、その特徴を調べたり人のくらしとの関連について調べたりして、理解を深める。				事前：植物の定義 事後：レポート課題				各180分
	5	「雲の科学」 雲の特徴やその成因を気象現象と関連付けて理解するとともに、写真撮影した雲をもとに分類する活動を通じて理解を深める。				事前：雲の撮影と同定 事後：雲の観察				各60分
	6	「石の科学」 石や岩石の特徴を見出したり分類したりする活動を通じて、その成因と関連付けながら理解を深める。鉱物についても理解する。				事前：石の採取と同定 事後：鉱物に関する復習				各80分
	7	「水の中の小さな生物」 田んぼや池などの身近な水中で見られる小さな生き物の観察を通して、水中の生物とその生態を理解する。				事前：水棲生物の予習 事後：復習と発展学習				各60分
	8	「キッチン科学」 アントシアニンを含む植物の汁を用いて水溶液の分類を行う。これを通して、実験技能や科学的な見方・考え方を身につける。				事前：水溶液の準備 事後：レポート課題				各60分
	9	「磁石の科学」 磁石を用いた様々な実験を通して磁石の性質等を理解し、身の回りでどのように利用されているのかを考える。				事前：磁性体の準備 事後：身の周りの磁気利用				各60分
	10	「科学の方法」 科学的なものの見方や考え方(アブダクション(仮説の設定))を、問題解決の演習(ディスカッション)を通じて理解する。				事後：内容のまとめ				60分
	11	「星の世界」 天体や宇宙に関する知識を理解するとともに、星座等の文化的側面や人のくらしのかかわりについて知る。				事前：太陽系について予習 事後：星空(天体)観察				各60分
	12	「秋田県其自然と自然災害」 秋田県の地形や生態系について理解する。また、過去に起きた自然災害から、防災や減災について考える。				事前：秋田県の地形 事後：自然災害伝承碑				各60分
	13	「雪の科学」 雪の結晶を観察・撮影するとともに、結晶ができる仕組みを理解する。また、冬の気象の特徴と降雪について理解を深める。				事前：冬の気圧配置 事後：雪の観察				各60分
	14	「音の科学」 身の回りの様々な音を出すものを用いて、音が出る仕組みや音色について学ぶ。また、波の周期や波長等について理解を深める。				事前：音を出すものの準備 事後：レポート課題				各60分
	15	「人間と環境」 自然界におけるさまざまなかかわりや循環を考えたり、人のくらしと環境との関わりを考えたりする。				事前：環境問題の予習 事後：内容のまとめ				各60分
成績評価の方法	レポート90点、授業における主体的な取り組み等10点の、計100点で評価する。レポート課題をすべて提出することを、単位認定の条件とする。									
課題のフィードバック	提出されたレポートはすべて返却を行う。レポートには適切な評価等の書き込みを行い、必要に応じて返却時にアドバイスをを行う。									
テキスト	なし									
参考文献・資料	寺田寅彦(1948)「日本人の自然観」 その他、授業の中で紹介する。									

科目名	音楽の理論と合奏		科目コード	1ES017	必修・選択	必修	授業形態	演習	
担当者	東海林 美代子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性			音楽教室の講師やコンサート活動を主催・参加するなど現場経験のある教員が、子どもの音楽表現活動を支えるための音楽の基礎理論を指導する。						
授業のねらいと概要	子どもの音楽表現活動を支えるために必要な音楽の基礎理論を学び、楽譜を理解できるようにする。子どもが表現しやすい簡易楽器の基礎的奏法を習得し、全体及びグループでの合奏体験を通して表現する楽しさを味わう。								
到達目標	(1) 音符や休符、拍と拍子、音名、リズム、記号等、楽譜に書かれている要素を理解できる。 (2) 音程や調について理解し、# 3個・b 2個までの長音階が弾け、書くことができる。 (3) 基礎的なコードについて理解し、演奏することができる。 (4) 簡易楽器の奏法を習得し、さらにミュージックベル等の合奏を楽しむことができる。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	授業内容と進め方、評価方法について 保育における表現活動と音楽の役割 自己紹介				シラバスを読み準備を整える			20分
	2	写譜により楽譜に書かれている様々な要素に気づく 音符と休符 速度記号 奏法記号 音楽用語等 リズム打ち				ピアノキストを見て復習をする 音楽用語は覚えることが望ましい			60分
	3	楽譜に書かれている様々な要素について 拍と拍子 小節 音名 変化記号 リズム打ち							60分
	4	全音と半音 音程(1) 数え方と種類 リズム打ち 幼児が使用する楽器の特徴 器楽合奏「おどろろ楽しいポーレチケ」							60分
	5	確認テスト(全音と半音) 音程(2) 完全音程 器楽合奏「おどろろ楽しいポーレチケ」 リズム打ち				授業のノートを活用して十分に復習する			60分
	6	音程(3) 長音程と短音程 マリンバ演奏体験「チョップスティックス」 リズム打ち							60分
	7	音程(4) まとめと確認テスト 音階(1) いろいろな音階 マリンバ演奏体験「チョップスティックス」 リズム打ち							60分
	8	音階と調(2) 長音階(ハ長調、ト長調、ニ長調、イ長調) リズム打ち				授業のノートを活用して十分に復習する			60分
	9	確認テスト(音名) 音階と調(3) 長音階(ヘ長調、変ロ長調) 音階と調(4) 調と主音、主和音(まとめ) リズム打ち				長音階は上行形のみ、右手で間違えずに弾けるまで練習する			60分
	10	確認テスト(調と主音、主和音) 演習テスト(長音階上行形を弾く) コード(1) コードの仕組みとコードネーム 主和音と調 リズム打ち							60分
	11	コード(2) いろいろなコード、ハ長調のコードと主要三和音 コード進行(I-IV-I, I-V <sub>7</sub> -I, I-IV-V <sub>7</sub> -I) リズム打ち							60分
	12	コード(3) ハ長調・ニ長調のコードと主要三和音 「きらきら星」のコード進行 リズム打ち				「きらきら星」は右手、左手のコード伴奏、両手の順で練習する			60分
	13	コード(4) ト長調・ヘ長調のコードと主要三和音 「きらきら星」のコード進行 ミュージックベル・トーンチャイム合奏 リズム打ち				4つの調と同様に、間違えずに弾けるまで練習する			60分
	14	コード(5) 「きらきら星」を4つの調で弾く ミュージックベル・トーンチャイム合奏 リズム打ち							60分
	15	コード(6) 演習テスト「きらきら星」を4つの調で弾く ミュージックベル・トーンチャイム合奏 授業評価							60分
成績評価の方法		授業態度・プリント課題・確認テスト(60%)、実技発表・演習テスト(40%)							
課題のフィードバック		毎回課題プリントを配布する。翌週の授業内で自身で採点したものを回収・確認し、さらに翌週に返却する。確認テストは回収・採点し返却する。							
テキスト		なし(必要に応じてプリントを配布する) 五線ノート、プリント保管用ファイルホルダー、鍵盤ハーモニカを各自準備すること							
参考文献・資料		東京福祉保育専門学校編：『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社) 神原雅之・鈴木恵津子編著：『改訂 幼児のための音楽教育』(教育芸術社)							

科目名	声楽 I A		科目コード	1ES079	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	櫻庭 優佳		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				小学校、中・高(音楽)教諭免許を有し、またプロの声楽家でもある教員が歌唱に関する基礎的な知識・技能を指導する。					
授業のねらいと概要	「歌うこと」は多くの子どもにとって最も身近な音楽表現方法である。幼児教育者として必要な、歌唱に関する基礎的な知識と技能を身につけるとともに、音楽を積極的に楽しむ心と感性を養う。本学の行事等で演奏する聖歌や季節を感じる日本の歌などを合唱や少人数アンサンブルで演奏し、音楽体験を積み重ねることで、音楽への興味・関心を高め、理解を深める。								
到達目標	(1) 音楽の三要素(リズム・メロディー・ハーモニー)を理解し、歌唱することができる 1) 正しい音程・リズムについて理解することができる 2) 少人数アンサンブルや合唱などにおいて、2声以上のハーモニーを演奏することができる 3) リズム・メロディー・ハーモニーの正確さを心がけ演奏しようと努めることができる (2) 歌にととの良い発音や良い姿勢・表情について理解し、歌うことの楽しさや喜びを感じながら意欲的に取り組もうとする 1) 姿勢や表情に気を付け、良い発声で歌唱しようと努めることができる 2) 歌う体験を積み重ねていく中で、その楽しさや喜びを味わおうと努めることができる 3) 音楽の楽しさや美しさを周りの人と分かち合うことができる								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○		○			○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	オリエンテーション/事前学習課題のチェック方法説明 音楽の三要素について				シラバスの精読 音楽の事前課題の練習			60分 60分
	2	事前学習課題「音楽の課題」の取り組みチェック(実技) 歌の課題について個々の取り組みを確認する				音楽の事前課題の練習 リズムプリント①の予習			60分 60分
	3	ソルフェージュ・リズム① 2拍子、4拍子などの拍子を理解し、リズム打ちに取り組む				リズムプリント①の復習 リズムプリント②の予習			60分 60分
	4	ソルフェージュ・リズム② 3拍子などの拍子を理解し、リズム打ちに取り組む				リズムプリント②の復習 リズムプリント③の予習			60分 60分
	5	ソルフェージュ・リズム③ 6拍子などの拍子を理解し、リズム打ちに取り組む				リズムプリント③の復習 ミニテストに向けての練習			60分 60分
	6	ソルフェージュ・リズム④ ミニテスト(実技) リズム打ちのミニテストを行い、拍子やリズムについての理解を深める				リズムプリント課題の練習 ミサ曲の譜読み			60分 60分
	7	ミサ曲・聖歌 み心のミサにむけて① 「あわれみの賛歌」に取り組む				ミサ曲の練習 ミサ曲の復習			60分 60分
	8	ミサ曲・聖歌 み心のミサにむけて② 「あわれみの賛歌」の合唱に取り組む				アルトパートの譜読み ミサ曲の復習			60分 60分
	9	ミサ曲・聖歌 み心のミサにむけて③ チャペルコンサートに参加、聖歌を歌い、ミサに向けての心の準備をする				ミサ曲の譜読み ミサ曲の復習			60分 60分
	10	ミサ曲・聖歌 み心のミサにむけて④ ミサ曲・聖歌の演奏をより深める				ミサ曲の譜読み ミサ曲の復習			60分 60分
	11	聖歌と季節の歌(春・夏)のグループ発表(グループワーク)① 8人程度のグループ毎に聖歌と4月～8月の歌から演奏する曲について相談し、選曲する				テキストの復習と練習 選択した演奏曲の練習			60分 60分
	12	聖歌と季節の歌(春・夏)のグループ発表(グループワーク)② グループ毎に選曲した曲について練習に取り組む				選択した演奏曲の練習 グループ毎の自主練習			60分 60分
	13	聖歌と季節の歌(春・夏)のグループ発表(グループワーク)③ グループ毎に選曲した曲について身体表現を加えながら練習を深める				選択した演奏曲の練習 グループ毎の自主練習			60分 60分
	14	聖歌と季節の歌(春・夏)のグループ発表(グループワーク)④ グループ毎に発表し、互いの演奏から学び合う				発表に向けて暗譜と練習 発表の振り返り			60分 60分
	15	声楽 I A のまとめ 【ミニテスト(筆記)】 4～8月の歌についてミニテストを行い、知識・理解を深める				試験範囲のまとめや学習 前期の振り返りと後期に向けての予習			60分 60分
成績評価の方法	事前課題への取り組み(実技)(10%)、ミニテスト(リズム打ち・筆記)(20%)、発表(授業内での演奏発表)(20%)、授業態度・意欲(提出物、練習やグループ活動の参加態度など)(50%)								
課題のフィードバック	実技の習得は毎時間がフィードバックの連続です。授業者からの指導、助言が演奏の向上に生きるよう、互いに良い集中力の中で楽しく学んでいきましょう。評価の観点・ポイントはその都度明確にお伝えします。ミニテストは採点したのち返却します。								
テキスト	神原雅之 鈴木恵津子 編著：改訂『幼児のための音楽教育』(教育芸術社) 「聖歌集『神をたたえて』(聖園学園短期大学)」								
参考文献・資料	東京福祉専門学校編『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社) その他、その都度提示や紹介・配布をする								

科目名	声楽 I B		科目コード	1ES080	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	櫻庭 優佳		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				小学校、中・高(音楽)教諭免許を有し、またプロの声楽家でもある教員が歌唱に関する基礎的な知識・技能を指導する。					
授業のねらいと概要	「歌うこと」は多くの子どもにとって最も身近な音楽表現方法である。「声楽 I A」に引き続き、幼児教育者として必要な歌唱に関する基礎的な知識と技能を身につけるとともに、音楽を積極的に楽しむ心と感性を養う。本学の行事等で演奏する聖歌などを合唱や少人数アンサンブルで演奏したり、季節の歌や子どもの歌の特徴を捉えながら表現したりする音楽体験を積み重ねることで、音楽への興味・関心をさらに高め、理解をより深める。								
到達目標	(1) 様々な曲の特徴を理解し、歌唱することができる 1) わらべうたや絵描き歌の特徴を捉え、歌唱表現することができる 2) 2声以上のハーモニーの少人数アンサンブルや合唱をすることができる 3) リズム・メロディー・ハーモニーの正確さを心がけ演奏しようと努めることができる 4) ラテン語の発音や意味に関心を持ち、意欲的に取り組むことができる (2) 歌にとっての良い発音や良い姿勢・表情について理解し、歌うことの楽しさや喜びを感じながら意欲的に取り組もうとする 1) 姿勢や表情に気を付け、良い発声で歌唱しようと努めることができる 2) 歌う体験を積み重ねていく中で、その楽しさや喜びを味わおうと努めることができる 3) 音楽の楽しさや美しさを周りの人と分かち合うことができる								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○		○			○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	あそびうた① わらべうたについて知り、その特徴等について理解する				シラバスの精読 テキスト「わらべうた」の通読			60分 60分
	2	あそびうた② わらべうたあそびを実践できるように習得する				ワークシートの復習 わらべうたあそびの練習			60分 60分
	3	あそびうた③ 絵描き歌について知り、その特徴等について理解する				ワークシートの復習 絵描き歌あそびの復習			60分 60分
	4	あそびうた④ 絵描き歌あそびを実践できるように習得する				ワークシートの復習 絵描き歌あそびの練習			60分 60分
	5	ミサ曲・聖歌 クリスマス・ミサに向けて① 26番「しずけき」、29番「もろびとこぞりて」に取り組む				ミサ曲の譜読み ミサ曲の復習			60分 60分
	6	ミサ曲・聖歌 クリスマス・ミサに向けて② 28番「あめのみつかいの」に取り組む				ミサ曲の譜読み ミサ曲の復習			60分 60分
	7	季節の歌 秋・冬① テキスト掲載の9月・10月の歌について取り組む				テキストの予習 子どもの歌の復習			60分 60分
	8	季節の歌 秋・冬② テキスト掲載の11月・12月の歌について取り組む				テキストの予習 子どもの歌の復習			60分 60分
	9	アルカデルト作曲 Ave Maria① Ave Mariaについて、成り立ちや意味について理解する				Ave Mariaの予習 ワークシートの復習			60分 60分
	10	アルカデルト作曲 Ave Maria② Ave Mariaについて、ラテン語の歌詞について理解し、発音を習得する				Ave Mariaの譜読み ラテン語の発音練習			60分 60分
	11	アルカデルト作曲 Ave Maria③ ソプラノ(メロディー)に取り組み、習得する				Ave Mariaの譜読み メロディーの練習			60分 60分
	12	アルカデルト作曲 Ave Maria④ アルトパートを習得し、2声の合唱ができるよう練習に取り組む				アルトパートの譜読み Ave Mariaの練習			60分 60分
	13	アルカデルト作曲 Ave Maria⑤(グループワーク) 少人数グループ毎に2声のアンサンブルができるよう練習に取り組む				個人練習とグループ練習 実技試験に向けての練習			60分 60分
	14	アルカデルト作曲 Ave Maria⑥(グループワーク) 【実技試験】 少人数アンサンブルと1フレーズ独唱を発表し、互いの演奏から学び合う				実技試験に向けての練習 振り返りと感想の記録			60分 60分
	15	声楽 I Bのまとめ【ミニテスト(筆記)】 わらべうた、絵描き歌、Ave Maria、9～12月の歌についてミニテストを行い、知識・理解を深める				試験範囲のまとめや学習 後期の学びの振り返り			60分 60分
成績評価の方法	試験(授業内での実技試験・発表)(40%)、ミニテスト(筆記)(20%)、授業態度・意欲(提出物、練習やグループ活動の参加態度など)(40%)								
課題のフィードバック	実技の習得は毎時間がフィードバックの連続です。授業者からの指導、助言が演奏の向上に生きるよう、互いに良い集中力の中で楽しく学んでいきましょう。評価の観点・ポイントはその都度明確にお伝えします。ミニテストは採点したのち返却します。								
テキスト	神原雅之 鈴木恵津子 編著：改訂『幼児のための音楽教育』(教育芸術社) 「聖歌集『神をたたえて』(聖園学園短期大学)」								
参考文献・資料	東京福祉専門学校編『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社) その他、その都度提示や紹介・配布をする								

科目名	音楽表現 I A (ピアノ)		科目コード	1ES083	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	東海林 美代子 他 7 名		担当形態	クラス分け	単位数	1	学年 期間	1 年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				ピアノ教室を主宰するなど、様々な音楽活動を行っている教員が、ピアノの基礎的な演奏法について指導する。					
授業のねらいと概要	幼児教育者として子どもの表現活動を支えるピアノの基礎的な演奏技術を習得し、表現力を養う。1時間に4名程度で個人の進度や能力に応じたレッスン形式で行う。入学時にすでに長期にわたるレッスン受講歴があり、基礎的な演奏技術を習得していると考えられる学生には、より高い音楽表現のできる奏法を習得させる。								
到達目標	(1) テキストの「バイエル練習曲」に取り組み、音名、運指、リズム、諸記号を理解し演奏できる。 (2) テキストSTEP1「バイエル 45 番」以降の 10 曲に取り組み、クリアしたうえで1曲を暗譜で演奏できる。 (3) 他者の演奏を聴くことにより楽曲への理解を深め、様々な楽曲を通して各楽曲の特徴を感じ取り、表現力の向上につなげようとする。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	入学前課題「ピアノ」について、個々の取り組み状況を確認し評価する 次回までの課題を各自に課す						360分	
	2	初級 中級以上(長期の経験者)				毎回課題を弾けるようになるまで十分に練習し授業に臨むこと		360分	
	3							360分	
	4	テキストSTEP1の「バイエル練習曲」に取り組む	テキストSTEP1の「バイエル練習曲」に取り組む				練習については、プリントも活用しながら毎日1時間程度行ってください	360分	
	5	プリントも活用しながら読譜や両手奏に慣れる	STEP1 終了後は 2 へ進む				レッスンの時には爪は清潔な長さとし、手指のアクセサリも外してください	360分	
	6	スムーズな運指になるように、繰り返し練習曲に取り組む						360分	
	7							360分	
	8	実技試験(中間) 複数の指導担当者により前期前半の取り組みを確認し演奏を評価する						360分	
	9	引き続きSTEP1の「バイエル練習曲」に取り組む	引き続き「バイエル練習曲」に取り組む						360分
	10	引き続きプリントも活用する						360分	
	11	強弱等の音楽記号、音楽用語を理解し、フレージングの意識を持って演奏する				STEP3の「バイエル練習曲」終了後は「ブルクミュラー練習曲」に進む		360分	
	12	楽曲の構成や特徴を感じ取る						360分	
	13	試験に向け1曲を指導担当者との協議により選曲し、暗譜で演奏できるようにする				試験に向け1曲を指導担当者との協議により選曲し、暗譜で演奏できるようにする		360分	
	14							360分	
15	夏休み期間の課題を確認する				夏休み期間の課題を確認する		360分		
成績評価の方法	実技試験(50%)、授業参加態度・毎回の授業に向けた取り組み(50%) 期末の実技試験はクラス単位で行う。全員の前で1曲を暗譜で演奏し聴き合う公開形式とする。								
課題のフィードバック	毎回レッスンにより一人一人の指導を行う。互いにレッスンを聴き合うことが自らの学びにも生かされる。個々の経験の有無や進度・能力に応じたレッスンのため、内容や進め方が異なる場合がある。								
テキスト	東京福祉保育専門学校編：『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社) 上記テキスト終了後は個々の進度・能力に応じたものを使用する。								
参考文献・資料	内藤雅子・森本琢郎共著：『ビギナーのためのハノン』(ドレミ楽譜出版社)								

科目名	音楽表現ⅠB(ピアノ)		科目コード	1ES084	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	東海林 美代子 他 8 名		担当形態	クラス分け	単位数	1	学年 期間	1 年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				ピアノ教室を主宰するなど、様々な音楽活動を行っている教員が、ピアノの基礎的な演奏法について指導する。					
授業のねらいと概要	幼児教育者として子どもの表現活動を支えるピアノの基礎的な演奏技術を習得し、表現力を養う。1時間に3～4名程度で個人の進度や能力に応じたレッスン形式で行う。入学時にすでに長期にわたるレッスン受講歴があり、基礎的な演奏技術を習得していると考えられる学生には、より高い音楽表現のできる奏法を習得させる。								
到達目標	(1)テキストの「バイエル練習曲」に取り組み、音名、運指、リズム、諸記号を理解し演奏できる。 (2)テキストSTEP 2の「バイエル練習曲」に取り組み、6曲以上をクリアしたうえで1曲を暗譜で演奏できる。 (3)他者の演奏を聴くことにより楽曲への理解を深め、様々な楽曲を通して各楽曲の特徴を感じ取り、表現力の向上につなげようとする。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容			事前・事後学習			時間(目安)	
	1	初級	中級以上(長期の経験者)			毎回課題を弾けるようになるまで十分に練習し授業に臨むこと			360分
	2	テキストSTEP2の「バイエル練習曲」に取り組み	テキストSTEP3の「バイエル練習曲」、「ブルクミュラー練習曲」に取り組み			練習については、プリントも活用しながら毎日1時間程度行ってください			360分
	3	引き続きプリントも活用する							360分
	4	音楽記号、音楽用語、楽曲の構成等を理解して演奏する	3度や6度、3連符等の奏法を経験し慣れる			レッスンの時には爪は清潔な長さとし、手指のアクセサリーも外してください			360分
	5								360分
	6								360分
	7	実技試験(中間) 複数の指導担当者により前期前半の取り組みを確認し演奏を評価する							360分
	8	引き続きSTEP2の「バイエル練習曲」に取り組み	テキストのピアノ練習曲終了後は、指導担当者の判断により『ブルクミュラー25の練習曲』や『ギロックこどものためのアルバム』などの曲集を使用する						360分
	9	プリントも活用する							360分
	10	ト長調、ヘ長調、イ短調など、ハ長調以外の楽曲を演奏することから調性の違いを感じ取る	幼児教育者としての音楽表現力を磨き、向上させる						360分
	11	練習曲を通して様々な伴奏を経験する							360分
	12								360分
	13	メロディーと伴奏の役割を理解して演奏に生かす							360分
	14	試験に向け1曲を指導担当者との協議により選曲し、暗譜で演奏できるようにする	試験に向け1曲を指導担当者との協議により選曲し、暗譜で演奏できるようにする						360分
15								360分	
成績評価の方法	実技試験(50%)、授業参加態度・毎回の授業に向けた取り組み(50%) 期末の実技試験はクラス単位で行う。全員の前で1曲を暗譜で演奏し聴き合う公開形式とする。								
課題のフィードバック	毎回レッスンにより一人一人の指導を行う。互いにレッスンを聴き合うことが自らの学びにも生かされる。個々の経験の有無や進度・能力に応じたレッスンのため、内容や進め方が異なる場合がある。								
テキスト	東京福祉保育専門学校編：『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社) 上記テキスト終了後は個々の進度・能力に応じたものを使用する。								
参考文献・資料	内藤雅子・森本琢郎共著：『ビギナーのためのハノン』(ドレミ楽譜出版社)								

科目名	造形表現 I		科目コード	1ES085	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	鎌田 悟		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				小、中・高(美術)教諭免許を有し、現場経験のある教員が、保育現場で必要とされる造形表現の基礎的な知識と技術について指導する。					
授業のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育現場で必要とされる造形的な知識・技能について、紙、粘土、絵の具などの様々な素材を用いた製作活動を通して理解し、身に付ける。</li> <li>・幼児の表現や発達過程について理解し、興味関心や発達段階に応じた環境づくりや関わり方を身に付ける。</li> </ul>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 造形表現の基礎的な知識や技能を習得できる。(色彩、平面・立体製作、配慮事項 等)</li> <li>(2) 素材の特徴を理解し、それを活かした表現ができる。(絵の具、粘土、色画用紙等)</li> <li>(3) 発達の段階に則した幼児の造形表現等を理解できる。</li> <li>(4) 幼児の活動を促す支援や環境づくりについて理解できる。</li> </ol>								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○		○	○		○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	ガイダンス ①年間の授業内容、準備物の確認 ②スケッチ				シラバスとテキストに目を通しておく		90分	
	2	色彩の基礎についての理解し演習をする				あらかじめ色相環の色立体等を確認しておく		90分	
	3	描画素材(クレヨン等)の理解と技法(スクラッチ)を体験し、作品製作する				描画材の特徴(違い)を調べてくる		90分	
	4	パチック技法とフロッタージュ技法を使った製作と留意点を理解する				聞き慣れない技法等は、テキストで確認しておく		90分	
	5	各種粘土の特徴を理解し紙粘土で製作する				資料から製作イメージを持つ		90分	
	6	紙粘土で製作する				作品と展示場所のイメージを持つ		90分	
	7	土粘土の特徴を知る、感じる、取り扱いを理解する				土粘土と紙粘土の違い、制作時の留意点をまとめる		90分	
	8	版画の特徴と発達の段階による留意点を理解する(スチレン版画)				版画の種類、特徴について調べておく		90分	
	9	版画の特徴と発達の段階による留意点を理解する(紙版画、ローラー版画、モノタイプ版画)				幼児が制作するときの留意点についてまとめる		90分	
	10	紙の特質を理解する(立方体を飾る)				生活用具としての紙の加工を調べる		90分	
	11	紙の特質を理解する(立方体を飾る、ポップアップカード)				資料から製作イメージを持つ		90分	
	12	ポップアップカードの特性を活かした製作のデザインを構想する				内容に応じて使用する紙(色、サイズ、質感)を選ぶ		90分	
	13	相手意識をもってポップアップカードを製作				メッセージのレイアウト、文字を事前検討する		90分	
	14	子どもの造形表現について理解する				授業の振り返りを資料に記録する		90分	
	15	鑑賞の仕方と指導について理解する				今までの学習内容を再確認してまとめる		90分	
成績評価の方法	課題提出(60%)、授業態度・意欲(40%)								
課題のフィードバック	①授業後(作品完成時等)の鑑賞会 ②各時間ごとの振り返り(カードへの記載内容等)の確認による事後指導。								
テキスト	槇 英子『保育を開く』(萌文書林)								
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園保育・教育要領解説』 随時、自作のプリントを作成し配付する。								

科目名	教育原理		科目コード	1EL030	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者	古内 一樹		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				中・高の教員免許を有し、教育行政に関わった経験のある教員が、教育の基本的概念について解説する。					
授業のねらいと概要	教育の基本的概念の理解を基に、教育理念や教育思想の流れと、様々な教育実践を歴史的に俯瞰しながら考察するとともに、現代における日本の教育の方向性と課題について、多面的に学修する。授業中の話し合いや発表、課題レポートにおける考察や分析等の活動をととして、主体的・対話的で深い学びを得る。								
到達目標	(1) 教育の基本的概念や教育の本質及び目標を理解するとともに、子ども・教員・家庭等の相互関係も理解している。 (2) 教育の歴史の基礎的知識を身に付け、それと教育理念との関わりや現代に至る教育及び学校教育の変遷を近代教育制度の成立と関連付けて理解している。 (3) 家庭や子ども、学校や学習に関わる教育思想を理解するとともに、代表的な教育家の思想についても理解している。								
DPとの関連	人間性		専門性				社会性		
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○		○	○	○	○	○	○
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	教育の基本概念(1) 教育と保育の全体像 教育の意義と目的				授業の振り返りを資料に記録する。			90分程度
	2	教育の基本概念(2) 家庭、幼児教育施設、学校、社会における教育				授業の振り返りを資料に記録する。			90分程度
	3	教育の基本概念(3) 教育・保育と法制度① 教育・保育を支える法制度				授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。			90分程度
	4	教育の基本概念(3) 教育・保育と法制度② 教育要領、保育指針				授業の振り返りを資料に記録する。			90分程度
	5	教育の基本概念(4) 教育・保育職の専門性と研修				授業の振り返りを資料に記録する。			90分程度
	6	教育に関する歴史(1) 公教育の歴史と「子ども観」の変遷				授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。			90分程度
	7	教育に関する歴史(2) 江戸時代までの教育と近代学校教育の展開				授業の振り返りを資料に記録する。			90分程度
	8	教育に関する歴史(3) 日本における幼児教育・保育施設の誕生と発展				授業の振り返りを資料に記録する。			90分程度
	9	教育に関する思想(1) 近代教育に大きな影響を与えた欧米の思想家達				授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。			90分程度
	10	教育に関する思想(2) 様々な教授理論と教育実践				授業の振り返りを資料に記録する。			90分程度
	11	教育に関する思想(3) 幼児教育・保育を考えた日本人(倉橋惣三など)				授業の振り返りを資料に記録する。			90分程度
	12	現代日本の教育課題(1) 保育者のコンプライアンス①義務・禁止事項				授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。			90分程度
	13	現代日本の教育課題(2) 保育者のコンプライアンス②懲戒と体罰				授業の振り返りを資料に記録する。			90分程度
	14	現代日本の教育課題(3) 幼児期におけるキャリア教育の意義				授業の振り返りを資料に記録する。			90分程度
	15	現代日本の教育課題(4) 幼児教育の不易と流行				授業の振り返りを記録し、まとめ課題をやる。			90分程度
成績評価の方法	定期試験(60%)、5回の課題レポート及び毎時の授業資料への振り返り(30%)、授業態度・意欲(10%)								
課題のフィードバック	5回の課題レポートにコメントして返却。2度のファイル点検時に授業資料への振り返りにもコメントして返却する。								
テキスト	パワーポイントと配付する授業資料を使用する。A4版の綴じ込み用ファイルを準備すること。								
参考文献・資料	『幼稚園教育要領(最新版)』、『保育所保育指針(最新版)』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)』、その他適宜紹介する。								

科目名	保育者論		科目コード	1EL031	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者	加藤 順子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				幼稚園副園長の経験のある教員が、現場での知見を生かし、現代社会における教職・保育職の意義や役割について指導する。					
授業のねらいと概要	現代社会における教職・保育職の意義、教員・保育者の役割や資質能力、職務内容等について理解し、教職・保育職への意欲を高める。適性を判断し、進路選択に資する教職・保育職の在り方を理解する。話し合いや発表を通して主体的・対話的に学び、教職・保育職について理解を深める。								
到達目標	(1) 我が国における今日の学校教育や保育、教職・保育職の社会的意義を理解している。 (2) 進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職・保育職の職業的特徴を理解している。 (3) 教育・保育の動向を踏まえ、今日の教員・保育者に求められる役割や資質能力を理解している。 (4) 乳幼児への指導・援助及びそれ以外の園務等を含めた教員・保育者の職務の全体像を理解している。 (5) 教員・保育者研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 (6) 教員・保育者に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障について理解している。 (7) 幼稚園・保育施設等の担う役割が拡大・多様化する中で、園・施設等が内外の専門家等と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの必要性を理解している。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○	○		○		○
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	保育者の役割・職務内容 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の役割と専門性、子育て支援における役割				事前:保育所保育指針第1章を読み、要点をまとめておく。 事後:学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	2	保育者の資格と責務 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の資格とその要件、職務、研修				事前:テキスト・指針等の関連部分を読み、疑問点を整理する。 授業:学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	3	保育者の倫理 専門的倫理と法律、倫理綱領、専門的倫理を高めるために				事前:テキスト・指針等の関連部分を読み、疑問点を整理する。 授業:学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	4	保育者の資質能力 保育者に求められる資質能力、子どもの育ちを支える専門職の資質能力				事前:テキスト・指針等の関連部分を読み、疑問点を整理する。 授業:学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	5	養護及び教育の一体的展開 養護と教育の内容、養護と教育が一体となった保育				事前:テキスト・指針等の関連部分を読み、疑問点を整理する。 授業:学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	6	家庭との連携と保護者に対する支援 家庭との連携の必要性、子育て支援の基本、地域や関係機関との連携の必要性				事前:テキスト・指針等の関連部分を読み、疑問点を整理する。 授業:学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	7	計画に基づく保育の実践と省察・評価 保育の計画、保育の実践と省察、保育内容等の評価				事前:テキスト・指針等の関連部分を読み、疑問点を整理する。 授業:学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	8	教育・保育の計画と保育の質の向上 保育の主体性と指導の計画性、保育の質の向上				事前:テキスト・指針等の関連部分を読み、疑問点を整理する。 授業:学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	9	教育・保育の計画と保育者の専門性 環境を通して行う教育・保育、遊びを通しての指導・援助				事前:テキスト・指針等の関連部分を読み、疑問点を整理する。 授業:学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	10	チーム学校運営への対応1 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園での協働 組織体制の構築、職員間の連携、情報提供と協働、ドキュメンテーションと協働				事前:テキスト・指針等の関連部分を読み、疑問点を整理する。 授業:学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	11	チーム学校運営への対応2 専門機関との連携 医療機関・保健機関・療育機関・教育機関等との連携				事前:テキスト・指針等の関連部分を読み、疑問点を整理する。 授業:学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	12	地域社会との連携・協働 地域社会との連携、小学校等との連携				事前:テキスト・指針等の関連部分を読み、疑問点を整理する。 授業:学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	13	関係機関等との連携 地域型保育事業等				事前にテキスト・指針等の関連部分を読む。 授業後、学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	14	保育者の専門性の発達 保育者としての発達の道筋、保育者の専門的成長				事前:テキスト・指針等の関連部分を読み、疑問点を整理する。 授業:学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	15	保育者のキャリア形成 教育・保育の場における学び、保育者の資質向上、保育者のキャリア形成				事前:テキスト・指針等の関連部分を読み、疑問点を整理する。 事後:教科の学習内容全体を再確認してまとめる。		60分 60分	
成績評価の方法	定期試験(70%)、授業態度・意欲(30%)								
課題のフィードバック	提出された課題やリアクションペーパーを確認し、必要に応じてコメントを記入して返却する。質問事項については、次回の授業において全体で共有する。								
テキスト	児童育成協会 監修 矢藤誠慈郎・天野珠路 編:『新・基本保育シリーズ7 保育者論』(中央法規出版)								
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』								

科目名	心身の発達と学習過程		科目コード	1ES033	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	加藤 順子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				幼稚園副園長の経験のある教員が、現場での知見を生かし、子どもの心身の発達及び学習の過程の基礎的な知識について指導する。					
授業のねらいと概要	子どもの心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた経験や学びを支える指導・援助の基礎となる考え方を理解する。 課題や事例についての考察や話し合い、発表などを通して、具体的な指導・援助の在り方について理解を深める。								
到達目標	(1) 子どもの心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育・保育における発達理解の意義を理解している。 (2) 乳幼児期の各時期における心身の発達について、その具体的な内容を理解している。 (3) 子どもの学びの過程や特性に関する基礎的な知識を身に付けている。 (4) 子どもの主体的な体験や学びを支える指導・援助の基礎となる考え方について心身の発達と関連付けて理解している。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○		○		○	○		○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	発達をとらえる視点① 発達を通じた子どもへの理解 子どもの発達を理解することの意義、発達の原理・原則、発達を理解するための手法				事前：関連するテキスト部分を読み、疑問点を整理する。 授業：学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	2	発達をとらえる視点② 個人差に応じた教育・保育 個人差とは、多様な発達への理解				事前：関連するテキスト部分を読み、疑問点を整理する。 授業：学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	3	発達をとらえる視点③ 子どもと環境 子どもと環境の相互作用、人的環境としての保育者				事前：関連するテキスト部分を読み、疑問点を整理する。 授業：学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	4	発達をとらえる視点④ 発達に関する理論 発達理論と保育、発達段階と発達課題				事前：関連するテキスト部分を読み、疑問点を整理する。 授業：学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	5	発達をとらえる視点⑤ 子ども観と保育観 子ども観とは、保育観とは				事前：関連するテキスト部分を読み、疑問点を整理する。 授業：学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	6	発達をとらえる視点⑥ 子どもを取り巻く問題と保育の課題 子どもを取り巻く問題と教育・保育の課題				事前：関連するテキスト部分を読み、疑問点を整理する。 授業：学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	7	子どもの発達過程① 社会情動的発達 感情の発達、社会性の発達、関係性の変化				事前：関連するテキスト部分を読み、疑問点を整理する。 授業：学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	8	子どもの発達過程② 社会情動的発達 仲間関係の発達といざござ、自己と自己制御				事前：関連するテキスト部分を読み、疑問点を整理する。 授業：学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	9	子どもの発達過程③ 身体機能と運動機能の発達 乳児期の身体・運動機能の発達、幼児期の身体・運動機能の発達				事前：関連するテキスト部分を読み、疑問点を整理する。 授業：学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	10	子どもの発達過程④ 認知の発達 乳児期の認知発達、幼児期の認知発達				事前：関連するテキスト部分を読み、疑問点を整理する。 授業：学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	11	子どもの発達過程⑤ 認知の発達、言語の発達 基本的な生活習慣の確立、言語の発達とコミュニケーション				事前：関連するテキスト部分を読み、疑問点を整理する。 授業：学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	12	子どもの発達過程⑥ 発達に偏りのある子どもの理解と支援 特別な配慮を要する子どもの理解と援助				事前：関連するテキスト部分を読み、疑問点を整理する。 授業：学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	13	子どもの発達過程⑦ 地域との連携、発達の連続性と就学への支援 発達の連続性、幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校の連携				事前：関連するテキスト部分を読み、疑問点を整理する。 授業：学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	14	子どもの学びと保育① 乳幼児期の学び 学びとは何か、学びの理論、学びを育む教育・保育				事前：関連するテキスト部分を読み、疑問点を整理する。 授業：学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。		60分 60分	
	15	子どもの学びと保育② 乳幼児期の学びを支える教育・保育 遊びを通して学ぶとは、主体性を育む教育・保育				事前：関連するテキスト部分を読み、疑問点を整理する。 事後：教科の学習内容全体を再確認してまとめる。		60分 60分	
成績評価の方法	定期試験(60%)、提出課題(20%)、授業態度・意欲(20%)								
課題のフィードバック	提出された課題やリアクションペーパーを確認し、必要に応じてコメントを記入して返却する。 質問事項については、次回の授業において全体で共有する。								
テキスト	松本峰雄 監修：『よくわかる!保育士エクササイズ4 保育の心理学演習ブック(第2版)』(ミネルヴァ書房)								
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』								

科目名	特別支援教育総論		科目コード	1ES034	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	藤井 慶博		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				養護学校教諭免許を有し特別支援行政を担った経験のある教員が、様々な障害によって特別な支援や配慮を必要とする幼児現状について指導する。					
授業のねらいと概要	○さまざまな障害や個別のニーズによって特別な支援を必要とする幼児が、園生活の満足感を味わいながら発達に必要な経験を重ねることを通して生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児の遊びや生活上の困難を理解し、そのニーズに応じた対応をしていくための基本的な知識や支援方法を理解するとともに実践的に学ぼうとする意欲や態度を身に付ける。								
到達目標	(1) 特別な支援を必要とする幼児等の障害の特性及び心身の発達を理解できる。 1) 保育を含むインクルーシブ教育システムの構築等、特別な支援教育に関する制度の理念や仕組み等を理解するとともに障害者理解に努めることができる。 2) 発達障害や知的障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児の心身の発達や心理の特性及び諸能力の育つ過程を理解できる。 3) さまざまな障害のある幼児の園生活や社会生活上で経験する困難について基礎的な知識を身に付けることができる。 (2) 特別な支援を必要とする幼児を対象とする教育課程及び支援の方法を理解できる。 1) 発達障害や知的障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児に対する支援の在り方や具体的な方法について例示することができる。 2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解できる。 3) 特別な支援教育の在り方や教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の重要性を理解し、その作成や活用についての基礎的な事項を理解できる。 4) 特別な支援教育コーディネーターや療育関係機関、家庭、教育委員会等との連携を深めながら、幼児個々の教育的ニーズを支援する体制づくりと長期的な実践の重要性を理解できる。 (3) 障害はないものの特別なニーズをもつ幼児の園生活上の困難やその対応策を理解できる。 1) 貧困や育児放棄などの劣悪な養育環境及び母国語使用等に起因するさまざまな困難に直面している幼児等の課題、保育との関連や長期的な教育支援の在り方について理解できる。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	障害児者の実態と障害者施策・社会の障害者観の変遷				【事前】履修する内容について保育指針・教育要領等で確認し、現状、課題等をノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめるとともに、関連する資料等を自ら収集し学びを深める。		各60分	
	2	障害児教育の変遷と障害児保育の基本方針(幼稚園教育要領と保育所保育指針等の記述から)				【事前】履修する内容について保育指針・教育要領等で確認し、現状、課題等をノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめるとともに、関連する資料等を自ら収集し学びを深める。		各60分	
	3	視覚障害の特性と生活上の困り感 －視覚に障害のある幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実際－				【事前】履修する内容について保育指針・教育要領等で確認し、現状、課題等をノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめるとともに、関連する資料等を自ら収集し学びを深める。		各60分	
	4	聴覚障害の特性と生活上の困り感 －聴覚に障害のある幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実際－				【事前】履修する内容について保育指針・教育要領等で確認し、現状、課題等をノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめるとともに、関連する資料等を自ら収集し学びを深める。		各60分	
	5	知的障害の特性と生活上の困り感 －知的発達に遅れのある幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実際－				【事前】履修する内容について保育指針・教育要領等で確認し、現状、課題等をノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめるとともに、関連する資料等を自ら収集し学びを深める。		各60分	
	6	肢体不自由の特性と生活上の困り感 －肢体不自由の幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実際－				【事前】履修する内容について保育指針・教育要領等で確認し、現状、課題等をノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめるとともに、関連する資料等を自ら収集し学びを深める。		各60分	
	7	自閉スペクトラム障害の特性と生活上の困り感 －自閉症スペクトラム障害の幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実際－				【事前】履修する内容について保育指針・教育要領等で確認し、現状、課題等をノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめるとともに、関連する資料等を自ら収集し学びを深める。		各60分	
	8	注意欠如多動症の特性と生活上の困り感 －注意欠如多動症の幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実際－				【事前】履修する内容について保育指針・教育要領等で確認し、現状、課題等をノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめるとともに、関連する資料等を自ら収集し学びを深める。		各60分	
	9	学習障害の特性と生活上の困り感 －学習障害の幼児の自立に向けた対応の基本と支援の実際－				【事前】履修する内容について保育指針・教育要領等で確認し、現状、課題等をノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめるとともに、関連する資料等を自ら収集し学びを深める。		各60分	
	10	病弱・身体虚弱児(重症心身障害児含む)の理解と生活上の困り感 －病弱・身体虚弱児の自立に向けた対応の基本と支援の実際－				【事前】履修する内容について保育指針・教育要領等で確認し、現状、課題等をノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめるとともに、関連する資料等を自ら収集し学びを深める。		各60分	
	11	障害児保育における合理的配慮の考え方と具体的内容				【事前】履修する内容について保育指針・教育要領等で確認し、現状、課題等をノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめるとともに、関連する資料等を自ら収集し学びを深める。		各60分	
	12	障害のある幼児を支える園内支援体制の構築(特別な支援教育コーディネーター、園内委員会、特別な支援学校のセンター的機能・専門家チームの活用)				【事前】履修する内容について保育指針・教育要領等で確認し、現状、課題等をノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめるとともに、関連する資料等を自ら収集し学びを深める。		各60分	
	13	障害のある幼児に関する「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」の作成演習				【事前】履修する内容について保育指針・教育要領等で確認し、現状、課題等をノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめるとともに、関連する資料等を自ら収集し学びを深める。		各60分	
	14	周りの幼児に対する障害の理解とその実践				【事前】履修する内容について保育指針・教育要領等で確認し、現状、課題等をノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめるとともに、関連する資料等を自ら収集し学びを深める。		各60分	
	15	障害や貧困・差別など困難を抱えた人々と共生社会の実現と教育の在り方 障害者差別解消法の意義と障害者理解を進めるインクルーシブ教育の重要性				【事前】履修する内容について保育指針・教育要領等で確認し、現状、課題等をノートにまとめておく。 【事後】授業の省察をリフレクションシートにまとめるとともに、関連する資料等を自ら収集し学びを深める。		各60分	
成績評価の方法	レポート(50%)、授業内演習課題(30%)、授業態度・意欲(20%)								
課題のフィードバック	提出されたリフレクションシートは毎回確認し、必要に応じてコメント記入して返却する、また、質問事項については、次回の授業において全体で共有する。								
テキスト	自作資料を毎回配布する。								
参考文献・資料	中央教育審議会初等中等教育分科会(2012)「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別な支援教育の推進(報告)」、幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)、特別な支援学校幼稚部教育要領(最新版)								

科目名	保育原理		科目コード	1EL042	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	2	講義	1年・後期
担当者	佐々木 啓子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期		
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				保育士資格を有し現場経験のある教員が、保育者の役割など保育に係る基礎的な知識を解説する。						
授業のねらいと概要	子どもの育ち、保育の意義、保育制度・歴史など、保育者として知っておく必要がある基本的な理論や知識について学ぶ。また、保育のしくみ、保育の計画、保育の方法など日常の保育を支える理論や人的環境としての保育者の役割について理解する。									
到達目標	(1) 保育に関する専門的知識を習得し、保育実践に向けての基本的な考え方を理解する。 (2) 子どもの育ちについて把握し、発達過程に応じた援助や環境構成の重要性を理解する。 (3) 保育の内容と方法について理解する。 (4) 家庭や子ども、社会にかかわる保育の歴史や保育の思想を理解する。 (5) 保育の思想と歴史的変遷を学び、現在の保育に対する保育のあり方を考えることができる。 (6) 現代社会における保育の課題を歴史的な視点から考えることができる。									
DPとの関連	人間性		専門性				社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力	
		○	○	○	○		○			
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習				時間(目安)
	1	保育の基本Ⅰ 子どもの最善の利益と保育				(事前)保育所保育指針総則1を読む (事後)プリントを基に、学習内容をふりかえる				(事前)60分 (事後)60分
	2	保育の目的 保育の社会的役割と責任				(事前)テキスト第2章を読む (事後)プリントを基に、学習内容をふりかえる				(事前)60分 (事後)60分
	3	現代社会の要請と保育解 少子化・情報化社会と保育の役割				(事前)少子化・情報化社会について調べる (事後)プリントを基に、学習内容をふりかえる				(事前)60分 (事後)60分
	4	保育の歴史Ⅰ 西洋の保育施設の誕生と思想				(事前)フレーベルについて調べる (事後)プリントを基に、学習内容をふりかえる				(事前)60分 (事後)60分
	5	保育の歴史Ⅱ 日本の保育施設の誕生と思想				(事前)倉橋惣三について調べる (事後)プリントを基に、学習内容をふりかえる				(事前)60分 (事後)60分
	6	保育の制度 日本の保育制度の変遷				(事前)テキスト第9章4, 5を読む (事後)プリントを基に、学習内容をふりかえる				(事前)60分 (事後)60分
	7	保育の過程 保育の形態と方法、生活と遊びを通した総合的な保育				(事前)保育所保育指針第2章を読む (事後)プリントを基に、学習内容をふりかえる				(事前)60分 (事後)60分
	8	保育における計画の原理 保育の計画の意義、全体的な計画と指導計画				(事前)保育所保育指針第1章3(1)～(3)を読む (事後)プリントを基に、学習内容をふりかえる				(事前)60分 (事後)60分
	9	保育の計画と実践 長期指導計画と短期指導計画、指導計画作成上の留意点				(事前)テキスト第6章1を読む (事後)プリントを基に、学習内容をふりかえる				(事前)60分 (事後)60分
	10	幼児期にふさわしい生活 環境を通した保育、個と集団を活かした保育				(事前)テキスト第4章を読む (事後)プリントを基に、学習内容をふりかえる				(事前)60分 (事後)60分
	11	保育の記録 子どもの生活を記録することの意味				(事前)テキスト第6章2, 3を読む (事後)プリントを基に、学習内容をふりかえる				(事前)60分 (事後)60分
	12	保育の実践・評価 省察・評価の意義、保育の評価と改善				(事前)保育所保育指針第1章3(4)～(5)を読む (事後)プリントを基に、学習内容をふりかえる				(事前)60分 (事後)60分
	13	保育者の専門性 保育の質を高めるための保育者の資質・能力				(事前)保育所保育指針第5章を読む (事後)プリントを基に、学習内容をふりかえる				(事前)60分 (事後)60分
	14	保育の現状と課題 子育て支援、待機児童対策、潜在保育士				(事前)保育所保育指針第4章を読む (事後)プリントを基に、学習内容をふりかえる				(事前)60分 (事後)60分
	15	健康で安全な園生活 健康・安全の受容性、心身の健康と安全管理				(事前)保育所保育指針第3章を読む (事後)プリントを基に、学習内容をふりかえる				(事前)60分 (事後)60分
成績評価の方法		リアクションペーパー(20%)、定期試験(50%)、授業態度(30%)								
課題のフィードバック		講義終了後、リアクションペーパーに記入された学びや疑問について次の講義で解説し、理解を深める								
テキスト		渡邊英則、高嶋景子、大豆生田啓友、三谷大紀編著：『新しい保育講座1 保育原理』(ミネルヴァ書房)								
参考文献・資料		厚生労働省編：『保育所保育指針解説書』(フレーベル館)、森上史朗・柏女霊峰編：『保育用語辞典』(ミネルヴァ書房)								

科目名	子ども家庭福祉		科目コード	1EL043	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	2	講義	1年・前期
担当者	藤原 法生		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期		
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				福祉に関する資格を有し専修学校で指導経験のある教員が、子ども家庭福祉の現況、取り組み、課題など子ども家庭福祉の実現について説明する。						
授業のねらいと概要	子ども家庭福祉の理念や歴史の変遷を踏まえて、現代の状況・取り組み・課題等について学び、子ども家庭福祉の実現について理解する。また、福祉の実現のために保育士が果たすべき役割についても理解する。子どもや家庭に関する身近な情報を活用し、ディスカッション等を含みながら具体的な学びができるような授業とする。									
到達目標	(1) 子ども家庭福祉の意義や歴史の変遷について理解している (2) 子ども家庭福祉の制度について理解している (3) 子ども家庭福祉のサービス・施設・専門職等について理解している (4) 地域における子ども家庭福祉の現状と展望について理解している									
DPとの関連	人間性		専門性				社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力	
	○			○	○		○			
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習				時間(目安)
	1	社会福祉・子ども家庭福祉の理念と概念				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分
	2	子ども家庭福祉の理念と概念、子どもの権利保障				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分
	3	子ども家庭福祉の現状 少子社会、子どもと家庭を取り巻く環境				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分
	4	子ども家庭福祉の歴史の変遷				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分
	5	子ども家庭福祉の制度と実施体系 法体系、国と地方の行政機関				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分
	6	児童福祉施設の規定、体系、サービス提供の方法				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分
	7	児童福祉施設の概要 保育所、幼保連携型認定こども園、乳児院				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分
	8	児童福祉施設の概要 児童養護施設				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分
	9	児童福祉施設の概要 児童養護施設の見学学習				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分
	10	秋田県の社会的養護				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分
	11	社会的養護の概要(施設養護)				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分
	12	社会的養護の概要(里親、養子縁組)				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分
	13	児童福祉施設の概要 母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分
	14	子育て家庭に対する福祉サービス 子育て支援サービス、児童虐待、貧困家庭				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分
	15	地域における子ども家庭福祉の現状と展望 地域住民を含む社会資源と連携				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する				60分
成績評価の方法		定期試験(70%)、授業への参加態度・提出課題(30%)								
課題のフィードバック		定期試験(筆記試験)は採点后に返却する								
テキスト		直島正樹、河野清志 編著：『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』(萌文書林) ミネルヴァ書房編集部 編：『社会福祉小六法2026』(ミネルヴァ書房) 山縣文治、直島正樹 編集：『ひと目でわかる 保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック2026』(中央法規出版)								
参考文献・資料		必要に応じて提示する								

科目名	社会福祉		科目コード	1EL044	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	2	講義	1年・後期	
担当者	藤原 法生		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期			
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				福祉に関する資格を有し専修学校で指導経験のある教員が、社会福祉の現況、取り組み、課題など福祉の実現について説明する。							
授業のねらいと概要	社会福祉の理念や歴史の変遷を踏まえて、現代の状況・取り組み・課題等について学び、福祉の実現について理解する。また、社会福祉における保育士の役割についても理解する。 日常生活に関する身近な情報を活用し、ディスカッション等を含みながら具体的な学びができるような授業とする。										
到達目標	(1) 社会福祉の理念や概念を理解している (2) 社会福祉の制度や実施体系について理解している (3) 社会福祉における相談援助や利用者の権利について理解している (4) 地域における社会福祉の現状と展望について理解している										
DPとの関連	人間性		専門性				社会性				
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力		
	○	○		○	○		○	○			
授業計画	授業回数	授業の内容					事前・事後学習			時間(目安)	
	1	社会福祉の理念と概念					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する			60分	
	2	現代社会の理解、社会福祉の歴史の変遷					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する			60分	
	3	社会福祉の制度と実施体系 法体系、国と地方の行政機関、財政					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する			60分	
	4	社会福祉の制度と実施体系 社会福祉施設、社会福祉の専門職					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する			60分	
	5	社会保障制度の概要					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する			60分	
	6	年金制度の概要					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する			60分	
	7	生活保護制度の概要					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する			60分	
	8	社会福祉における相談援助 相談援助の理論、相談援助の対象					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する			60分	
	9	社会福祉における相談援助 相談援助の展開					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する			60分	
	10	社会福祉における相談援助 相談援助の原則と技法(個別化、意図的な感情表出、統制された情緒的関与)					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する			60分	
	11	社会福祉における相談援助 相談援助の原則と技法(受容、非審判的態度、自己決定、秘密保持)					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する			60分	
	12	福祉サービスの利用者保護 利用者の権利、情報提供、第三者評価、苦情解決					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する			60分	
	13	社会福祉の動向 少子高齢社会の理念					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する			60分	
	14	社会福祉の動向 共生社会と障害者福祉					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する			60分	
	15	社会福祉の動向 地域福祉の理念と現状、地域住民を含む社会資源とその連携、社会福祉の今後の展望					事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する			60分	
成績評価の方法		定期試験(70%)、授業への参加態度・提出課題(30%)									
課題のフィードバック		定期試験(筆記試験)は採点后に返却する									
テキスト		直島正樹、原田旬哉 編著：『図解で学ぶ保育 社会福祉』(萌文書林) ミネルヴァ書房編集部 編：『社会福祉小六法2026』(ミネルヴァ書房)									
参考文献・資料		必要に応じて提示する									

科目名	<b>社会的養護 I</b>		科目コード	1EL046	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	講義	
担当者	初山 一彦		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				児童発達支援センターや医療型障害児入所施設等での相談業務の他、児童自立支援施設や児童相談所一時保護所での指導経験がある。					
授業のねらいと概要	社会的養護について、こども家庭福祉体系を通してこどもの権利擁護とその自立を支援していくことを理解し、保育士が社会的養護の中で取るべき倫理性を含む基本的なこどもとのかかわり方や支援の連携、児童養護の社会的・歴史的背景を学び、現状や課題について理解を深める。								
到達目標	(1) 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解している。 (2) 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解している。 (3) 社会的養護の制度や実施体系等について理解している。 (4) 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解している。 (5) 社会的養護の現状と課題について理解している。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○		○	○		○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	社会的養護の理念と概念				事前にテキストの該当部分を読み、疑問点を整理する。授業後は、配布資料やノートで確認する		事前事後各60分	
	2	社会的養護の歴史の変遷				同上		同上	
	3	子どもの権利擁護と社会的養護				同上		同上	
	4	社会的養護の基本原則				同上		同上	
	5	社会的養護における保育士等の倫理と責務				同上		同上	
	6	社会的養護の制度と法体系				同上		同上	
	7	社会的養護の仕組みと実施体系				同上		同上	
	8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク				同上		同上	
	9	社会的養護の対象と支援のあり方				同上		同上	
	10	家庭養護と施設養護				同上		同上	
	11	社会的養護にかかわる専門職				同上		同上	
	12	社会的養護に関する社会的状況				同上		同上	
	13	施設等の運営管理の現状と課題				同上		同上	
	14	被措置児童等の虐待防止の現状と課題				同上		同上	
	15	社会的養護と地域福祉の現状と課題				同上		同上	
成績評価の方法	定期試験(80%)、提出課題(10%)、授業態度・意欲(10%)								
課題のフィードバック	提出されたレポートにコメント記入して返却する、筆記試験は採点后返却する								
テキスト	公益財団法人児童育成会 『新・基本保育シリーズ 6 社会的養護 I 第2版』								
参考文献・資料	授業の中で必要に応じ、配布・提示します。								

科目名	子どもの保健		科目コード	1EL048	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	講義	
担当者	高橋 美砂子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				看護師免許を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、子どもの心身の健康についての知識を解説する。					
授業のねらいと概要	子どもの心身の健康増進を図る社会的支援を学び保育者としての役割を理解する。 生命の誕生、子どもの成長発達を理解し、自己の成長の振り返りができる。 子どもの病気及び事故予防を学び、子どもの健康管理する態度を身につける。								
到達目標	(1) 子どもへの保健活動と施策を理解、社会的支援のあり方を考える。 (2) 子どもの成長発達と保健について理解する。 (3) 子どもの病気及び不慮の事故への対処を理解する。 (4) 子どもの健康問題や障害を抱える親子への関わり方を理解する。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○		○	○		○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	我が国の小児の諸統計 少子化対策				10年後の私のレポート			60分
	2	子育て支援成功例 日本の結婚希望と現実				少子化対策に成功した奈義町についてレポート			60分
	3	生命の誕生 小児期の分類と健康問題 年齢別死亡順位 健やか親子21				生きる力を育てる自分の考えをまとめる			60分
	4	子どもの脳の発達 感覚器の発達 乳児の脳の発達と反射(DVD)				自分の乳児期の反射を確認する			60分
	5	精神運動機能発達 乳幼児健康診査 私の成長記録(レポート)				自分の精神運動の発達をレポート			60分
	6	生理機能の発達 呼吸・循環・血圧・血液・自律神経				日常生活における自律神経のバランスをまとめる			60分
	7	免疫 予防接種 私の予防接種歴(レポート)				自分の予防接種歴をまとめる			60分
	8	人間性の発達課題と接し方 私の発達課題(レポート)				自分の発達課題をレポート			60分
	9	子どもの病気の対応 発熱と発疹の主な病気				発熱時の初期対応			60分
	10	先天奇形・代謝異常ダウン症候群 障害児を生んだ親の反応と支援(DVD)				障害児と家族の支援について鑑賞し感想文を書く			60分
	11	血液の主な病気 闘病を支える親・兄弟姉妹への支援(DVD)				闘病を支える妹の心理についてレポート			60分
	12	けいれん発作時の対応熱性けいれんとてんかんの違い 腎臓の主な病気尿路感染症				けいれん発作時の対応をまとめる			60分
	13	呼吸器の主な病気 気管支喘息発作への対応 川崎病 先天性心疾患と対応				咳発作の対応をまとめる			60分
	14	消化器の主な病気 下痢・嘔吐への対処 小児糖尿病と園での対応 甲状腺機能低下・亢進症				便秘予防の日常生活管理を振り返る			60分
	15	心の問題を抱える子どもへの対応 メディアと健康問題				スマホ・ゲーム視聴時間を調べる			60分
成績評価の方法		定期試験(70%)、レポート(30%)							
課題のフィードバック		試験は採点し返却する。レポートはコメントを記入し返却する。							
テキスト		遠藤 郁夫他著：子どもの保健(学建書院)							
参考文献・資料		小西 行郎：赤ちゃん学を学ぶ人のために(世界思想社)、 服部 祥子：生涯人間発達論(医学書院)、鴨下 重彦：こどもの病気の地図帳(講談社)							

科目名	子どもの食と栄養		科目コード	1ES049	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	(演習)	
担当者	加藤 順子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				中高(家庭科)教諭免許を有し幼稚園副園長の経験のある教員が、子どもの食と栄養について指導する。					
授業のねらいと概要	<p>食べることは生きるための源であり、心と体の健やかな育ちに欠かせないものである。</p> <p>発育・発達のめざましい乳幼児期における食生活と栄養の特性について学び、子どもが様々な体験を通して食を営む力の基礎を培うための保育者の役割について理解する。</p> <p>事例や資料、データ等を基にした考察や話し合い、発表などを通して主体的・対話的に学び、理解を深める。</p>								
到達目標	<p>(1) 健康な生活の基本としての食生活の意義について理解し、食や栄養に関する基本的知識を身に付けている。</p> <p>(2) 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解している。</p> <p>(3) 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の基本的な考え方や内容等について理解している。</p> <p>(4) 子どもをめぐる食生活の現状と課題について理解している。</p> <p>(5) 食生活に関する保護者支援や地域との連携について理解している。</p> <p>(6) 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解している。</p>								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○			○	○	○	○		○
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間
	1	子どもの健康と食生活の意義 「子どもの食と栄養」を学ぶ目的、子どもの心身の健康と食生活				事前にテキスト第1章1を読む。授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。			各60分
	2	子どもの健康と食生活 子どもをめぐる食生活の現状と課題				事前に関連するテキスト部分を読む。授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。			各60分
	3	栄養・食に関する基本的知識(1) 栄養・栄養素に関する基礎知識				事前に関連するテキスト部分を読む。授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。			各60分
	4	栄養・食に関する基本的知識(2) 栄養素の種類と機能				事前に関連するテキスト部分を読む。授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。			各60分
	5	栄養・食に関する基本的知識(3) 日本人の食事摂取基準の意義と活用				事前に関連するテキスト部分を読む。授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。			各60分
	6	子どもの発育・発達と栄養・食生活(1) 乳幼児期の発育・発達と栄養・食生活				事前に関連するテキスト部分を読む。授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。			各60分
	7	子どもの発育・発達と栄養・食生活(2) 乳幼児期の栄養、乳汁栄養、離乳食期栄養				事前に関連するテキスト部分を読む。授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。			各60分
	8	子どもの発育・発達と栄養・食生活(3) 幼児期の心身の発達と食生活、学童期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活				事前に関連するテキスト部分を読む。授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。			各60分
	9	食育の基本と実践(1) 食育の基本、保育における食育の意義・目的と基本的な考え方				事前に関連するテキスト部分を読む。授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。			各60分
	10	食育の基本と実践(2) 保育における食育の推進				事前に関連するテキスト部分を読む。授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。			各60分
	11	児童福祉施設や家庭における食と栄養 児童福祉施設における食と栄養、食生活に関する保護者支援、地域との連携				事前に関連するテキスト部分を読む。授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。			各60分
	12	食の安全 感染症と食中毒、施設における衛生管理				事前に関連するテキスト部分を読む。授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。			各60分
	13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギーのある子どもへの対応、疾病及び体調不良の子どもへの対応 障害のある子どもへの対応				事前に関連するテキスト部分を読む。授業後は学習内容や資料を確認し、学習課題についてまとめる。			各60分
	14	調理実習計画 調理の基本と献立、調理実習計画				事前に関連するテキスト部分を読む。授業後は学習内容や資料を確認し、次時の予習をする。			各60分
	15	調理実習 離乳期の食事・幼児期の間食				事前に関連する資料を確認する。授業後は教科の学習内容全体を再確認してまとめる。			各60分
成績評価の方法	定期試験(60%)、提出課題(20%)、授業態度・意欲(20%)								
課題のフィードバック	提出された課題やリアクションペーパーを確認し、必要に応じてコメントを記入して返却する。 質問事項については、次回の授業において全体で共有する。								
テキスト	児玉浩子他編・著：『子どもの食と栄養(改訂第4版)』(中山書店)								
参考文献・資料	『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 その他、授業の中で提示する								

科目名	乳児保育 I		科目コード	1EL052	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	学年 期間	講義	1年・前期
担当者	猿田 興子		担当形態	単独	単位数	2				
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				保育士資格を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、乳児保育に関する基礎的な知識について指導する。						
授業のねらいと概要	乳児期が人格の基礎をつくる時期であることを理解し、一人一人の子どもの発達を保障する保育内容を理解する。乳児保育に関して基礎的な理解を深め、子どもの発達や学びの過程及び特性についても理解しようとする意欲や態度を持ち、発達に即した保育の実践力を身につける。									
到達目標	(1)乳児保育の現状と課題を理解するとともに、その目的や役割を理解でき述べることができる。 (2)保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できている。 (3)乳児の生活と環境・遊びと環境の特徴をとらえ、適切な援助の仕方を習得し実践につなげることができる。 (4)乳児保育における計画・記録・評価とその意義を理解し、実践に活かす意義を理解できている。 (5)乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できている。 (6)乳児保育における望ましい職員間の連携・協働を意識した保育内容を理解している。 (7)乳児保育における望ましい保護者との連携・協働を意識した保育内容を理解している。									
DPとの関連	人間性		専門性				社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力	
	○	○		○		○	○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習				時間(目安)
	1	オリエンテーション(授業内容・進行) ～乳児保育の意義・目的について～				事前：シラバスと教科書に目を通しておく 事後：課題の完成にのぞむ				事前80分 事後120分
	2	乳児保育の役割と機能 ～生活の主体としての乳児・養護及び教育について～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				事前80分 事後120分
	3	乳児を取り巻く保育の現状を学ぶ・歴史の変遷 ～乳児の育ちを支える乳児の周囲(社会・保護者・保育者)について～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				事前80分 事後120分
	4	乳児期の発育・発達について学ぶ(0～1歳3か月未満) ～発達の特徴にふれ、保育者の役割・適切な対応について～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				事前80分 事後120分
	5	乳児期の発育・発達について学ぶ(0～1歳3か月未満) ～乳児の望ましい日常生活・個人差の応じた援助について～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				事前80分 事後120分
	6	乳児期の発育・発達について学ぶ(1歳3ヶ月～2歳未満) ～乳児が安心できる環境と援助の重要性と乳児の学びについて～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				事前80分 事後120分
	7	乳児期の発育・発達について学ぶ(0～1歳3ヶ月未満) ～乳児の映像から具体的な乳児が学ぶ姿と保育者の援助を知る～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				事前80分 事後120分
	8	乳児期の発育・発達について学ぶ(1歳3ヶ月～2歳未満) ～乳児の映像から 乳児が学ぶ姿と保育者の援助を知る～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				事前80分 事後120分
	9	3歳未満児の生活と環境 ～社会環境等が3歳未満児に及ぼす影響について知る～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				事前80分 事後120分
	10	3歳未満児の遊びと環境 ～3歳未満児の安心できる環境づくりについて知る～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				事前80分 事後120分
	11	3歳未満児の生活を支える保育者等の援助や関わりについて ～3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮について知る～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				事前80分 事後120分
	12	3歳未満児の遊びと生活について ～人生における学びの基礎となる時期であることを知り対応を考察する～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				事前80分 事後120分
	13	3歳未満児の遊びと生活について ～一人一人の理解の重要性と計画・実践・評価について学ぶ～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				事前80分 事後120分
	14	乳児保育における連携・協働について ～保護者との連携を通し、乳児の最善の利益を保障する関わりを知る～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				事前80分 事後120分
	15	乳児保育における連携・協働について ～まとめ：乳児保育を支える職員間の連携と保育者の専門性を考える～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題の完成にのぞむ				事前80分 事後120分
成績評価の方法	レポート(70%)、小テスト(20%)、授業態度・意欲(10%)									
課題のフィードバック	提出されたレポートを評価資成績に反映する。欠席者未提出学生は評価に影響あり。レポートは採点后まとめて返却する。									
テキスト	社会福祉法人あすみ福祉会 『養成校と保育室をつなぐ理論と実際ー乳児保育 I・II』(萌文書林)									
参考文献・資料	保育所保育指針解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説									

科目名	子どもの健康と安全		科目コード	1ES054	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	演習	
担当者	高橋 美砂子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				看護師免許を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、子どもの健康と安全についての知識・技能を指導する。					
授業のねらいと概要	子どもの養育環境が成長発達に影響することを理解し日常生活養護の知識を理解し、健全な生活習慣を育み教育的視点を持つことができる。感染症及び不慮の事故を防ぐ養育環境を理解し安全意識を育む。災害時の備え危機管理の仕組み理解し、安全な保育環境を理解する。								
到達目標	(1) 子どもの成長発達を理解し、乳幼児の健康管理について理解する。 (2) 子どもの健全な生活習慣となる養護の知識を理解する。 (3) 子どもの体調不良時の対応を把握し感染症及び不慮の事故を防ぐ安全な保育環境を理解する。 (4) 災害時の子どもの反応と支援のあり方を理解する。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○		○	○		○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	子どもとは 保育士の役割 赤ちゃんからのメッセージ(DVD)				赤ちゃんの能力について レポート		60分	
	2	赤ちゃんからのメッセージお父さんへ(DVD) 抱っこ仕方 小児の睡眠 園での午睡中の事故防止				母親と父親への赤ちゃんの反応について レポート		60分	
	3	新生児の保育 すばらしき36か月④マニュアル(DVD) おむつかぶれ おむつ交換						60分	
	4	母乳栄養 卒乳 調乳 授乳方法				人工栄養についてまとめる		60分	
	5	小児の成長発達 身体計測				自己のBMIを計算し生活習慣を 振り返る		60分	
	6	病児保育 感染予防対策ガイドライン 手洗いうがい 乳菌の虫菌予防 歯磨き				自己の虫菌予防をまとめる		60分	
	7	幼児の保育 すばらしき36か月①はじめての一步(DVD) 子どもの服の選び方 靴の選び方 抱っこ おんぶ							
	8	沐浴							
	9	排泄の自立 夜尿症 水分代謝 子どもの体温 低体温予防 体温測定				自分の体温と生活を振り返る		60分	
	10	保育所での薬の取り扱い 与薬方法 粉薬の与え方				拒薬する児への対応について		60分	
	11	食物アレルギー 保育におけるアレルギーガイドライン エピペンの使い方 アトピー性皮膚炎 スキンケア				エピペンの使い方の練習		60分	
	12	子どもの特性と不慮の事故 誤飲 子どもの救急対応				離乳食での窒息予防		60分	
	13	保育所における事故防止ガイドライン 怪我の初期対応				包帯と三角巾の使い方を練習する		60分	
	14	災害時の備え 災害時の子どもの反応と対応				保育における危機管理をまとめる		60分	
	15	子どもの救急救命 心肺蘇生・AEDの実技 気道異物除去 (秋田市消防本部救急隊救命士による指導)							
成績評価の方法	定期試験(60%)、レポート(30%)、授業態度・意欲(10%)								
課題のフィードバック	試験は採点し返却する。レポートはコメントを記入し返却する。								
テキスト	遠藤 郁夫他著：子どもの保健(学建書院)								
参考文献・資料	山本 恵子監：写真でわかる小児看護技術(インターメディカ) 五十嵐 隆：目で見える小児救急(文光堂)								

科目名	子育て支援		科目コード	1ES056	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	演習	
担当者	蛭田 一美		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				幼稚園教諭免許及び保育士資格を有し、子育て支援員研修の講師を務める教員が、子育て支援・保護者支援の内容や現状を指導する。					
授業のねらいと概要	子育て支援・保護者支援の内容・現状を理解する。 子育て家庭の現状を踏まえたうえで、保育所保育指針に示された「子育て支援」の内容について、保育に関連させながら理解を深める。 保育の現場における保育士の子育て支援を役割を認識するため、具体的な子育て支援の実際を体験したり、多様な講義を受けながら保護者支援の技術を身に付ける。								
到達目標	(1) 保育所保育指針における「子育て支援」の内容を理解することができる。 (2) 子育て支援の多様性と現代の家庭を取り巻く社会情勢を理解することができる。 (3) 保育士の専門性を生かした保護者への相談。助言、情報提供、行動見本の提示等に支援について、具体的な事例を通して理解することができる。 (4) 子育て支援の実際を経験するためにグループワークやディスカッションを通し、具体的な技術を身に付けることができる。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○		○		○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	保育所保育指針における「子育て支援」の内容について、子育て家庭や課題を踏まえながら理解する。				指針の内容、現場での子育て支援の内容をファイルにまとめる。		60分	
	2	保護者の子育ての実際について理解を深める(保護者講話をグループで行う)				事前に保護者の子育ての不安感、負担感について調べる		60分	
	3	【演習 事前学習】 グループで環境設定、保護者対応について、グループで課題を持ち取り組む				自分なりの課題を明確にするための事前学習をする		60分	
	4	【演習 乳児もくもく①】 参観、実践を通して 子育て支援活動の理解を深める				演習内容をまとめ、自分の課題を明らかにする。		60分	
	5	実践した子育て支援活動をグループで話し合い展開できる指導案を作成する				事前に関連する著書を調べる。			
	6	子育て支援の必要性和制度について理解を深める (1) 子育て支援が求められる社会背景について							
	7	【演習 事前学習】 グループで環境設定、保護者対応について、グループで課題を持ち取り組む				必要な教材等の準備を進める。		60分	
	8	【演習 乳児もくもく②】 参観、実践を通して 子育て支援活動の理解を深める						60分	
	9	子育て支援の必要性和制度について理解を深める (2) 子育て支援に関する制度と施策について				・ 演習をした際は実施した記録を振り返り用紙にまとめる。  ・ 事前に活動の実際を計画的にグループで練習する。		60分	
	10	【演習 事前学習】 グループで環境設定、保護者対応について、グループで課題を持ち取り組む						60分	
	11	【演習 乳児もくもく③】 参観、実践を通して 子育て支援活動の理解を深める						60分	
	12	【演習 乳児もくもく④】 参観、実践を通して 子育て支援活動の理解を深める				・ 課題は時間内に提出できるように事前に予習しておく。		60分	
	13	保護者に対する相談支援の実態について理解し、実践力を身に付ける。 (1) 相談の現場を持つ外部講師による講義						60分	
	14	保護者に対する相談支援の実態について理解し、実践力を身に付ける。 (2) 母親の負担感・不安感について						60分	
15	まとめ 保育士の専門性を生かした保護者支援について、自分なりの考えをまとめる						60分		
成績評価の方法	ファイルを含む課題提出(70%)・授業態度(30%)								
課題のフィードバック	ファイル、課題を回収した際にコメントを記載する								
テキスト	「保育所保育指針」 適宜資料を配布								
参考文献・資料	「保育用語辞典」								



2 年 次



科目名	キリスト教人間学ⅡA		科目コード	1FL068	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者	門戸 美智		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				シスターである教員が、聖書をもとに神の人間に対する愛と救いの歴史や、人を愛して生きる生き方を解説する。					
授業のねらいと概要	新約聖書を通して本学の建学の精神である「子どもたち一人一人を大切にしながら、キリストの心で幼児を教育する」ことを学ぶとともに、キリスト教の精神で、幼児教育を人格形成の基礎を培うものとして捉え理解する。一人一人は、神に支えられ導かれていることを知り、イエス・キリストの生涯と教えを通じて人を大切にする生き方を学び、社会に貢献することをねらう。								
到達目標	(1) イエス・キリストの生き方と教えを理解できる (2) 新約聖書を読むことで、キリストの生き方を実践的に捉え、キリスト教的価値観を理解できる (3) 現代社会の中で、保育者として人類・社会に貢献する基礎的態度を理解できる								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーション 新約聖書と本学の建学の精神				事後 新約聖書P1～P7を読む		60分	
	2	イエスの告げた福音 喜びの知らせ マルコ1:1				事前 マルコ1:1を読む 事後 マルコ1:1を読む		各60分	
	3	イエスの荒野での試み マタイ4:1～11				事前 マタイ4:1～11を読む 事後 マタイ4:1～11を読む		各60分	
	4	イエスの弟子 弟子の選び マタイ4:18～22				事前 マタイ4:18～22を読む 事後 マタイ4:18～22を読む		各60分	
	5	イエスの弟子 弟子たちの使命 マタイ10:1～4				事前 マタイ10:1～14を読む 事後 マタイ10:1～14を読む		各60分	
	6	イエスの教え 山上の垂訓 マタイ5:1～10				事前 マタイ5:1～10を読む 事後 マタイ5:1～10を読む		各60分	
	7	イエスの教え 敵を愛せよ ルカ6:27～36				事前 ルカ6:27～36を読む 事後 ルカ6:27～36を読む		各60分	
	8	イエスの教え 人を裁くな マタイ7:1～5				事前 マタイ7:1～5を読む 事後 マタイ7:1～5を読む		各60分	
	9	み心のミサについて				ミサの聖歌 声楽の授業で			
	10	み心のミサと講演				事後 講演の感想を書く		60分	
	11	イエスのたとえ話 よいサマリア人 ルカ10:25～37				事前 ルカ10:25～37を読む 事後 ルカ10:25～37を読む		各60分	
	12	イエスのたとえ話 金持ちとラザロ ルカ16:19～33				事前 ルカ16:19～33を読む 事後 ルカ16:19～33を読む		各60分	
	13	イエスのたとえ話 種まきのたとえ ルカ8:4～15				事前 ルカ8:4～15を読む 事後 ルカ8:4～15を読む		各60分	
	14	イエスのたとえ話 ぶどう園の労働者 マタイ20:1～16				事前 マタイ20:1～16を読む 事後 マタイ20:1～16を読む		各60分	
	15	祈りについて 主の祈り ルカ11:1～4				事前 ルカ11:1～4を読む 事後 ルカ11:1～4を読む		各60分	
成績評価の方法	試験(30%)、提出課題(30%)、授業態度・意欲(20%)、聖園アワー(20%)								
課題のフィードバック	提出されたリアクションペーパー等、読み、必要があれば連絡し指導する								
テキスト	フランシスコ会聖書研究所訳注：『新約聖書』(サンパウロ) ガエタノ・コンプリ著『ここにひかりを』(ドンボスコ)								
参考文献・資料	授業前に授業で必要なプリント配布								

科目名	キリスト教人間学ⅡB		科目コード	1FL069	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者	門戸 美智		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				シスターである教員が、聖書をもとに神の人間に対する愛と救いの歴史や、人を愛して生きる生き方を解説する。					
授業のねらいと概要	新約聖書を通して本学の建学の精神である「子どもたち一人一人を大切にしながら、キリストの心で幼児を教育する」ことを学ぶとともに、キリスト教の精神で、幼児教育を人格形成の基礎を培うものとして捉え理解する。一人一人は、神に支えられ導かれていることを知り、イエス・キリストの生涯と教えを通じて人を大切にする生き方を学び、社会に貢献することをねらう。								
到達目標	(1) イエス・キリストの生き方・教えを理解できる (2) 新約聖書を読むことで、キリストの生き方を実践的に捉え、キリスト教的価値観を理解できる (3) 現代社会の中で、保育者として人類・社会に貢献する基礎的態度を理解できる								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	愛とゆるし 見失った羊 ルカ15：4～7				事前後ルカ15：4～7 読む		各60分	
	2	愛とゆるし 放蕩息子 ルカ15：1～32				事前後ルカ15：1～32 読む		各60分	
	3	イエスの奇跡 重い皮膚病患者のいやし マルコ1：46～52				事前後マルコ1：46～52 読む		各60分	
	4	ヤイロの娘と出血病の女 マルコ5：21～43				事前後マルコ5：21～43 読む		各60分	
	5	ユダの裏切り マタイ25：14～16				事前後マタイ25：14～16 読む		各60分	
	6	イエス弟子たちの足を洗う ヨハネ13：1～20				事前後ヨハネ13：1～20 読む		各60分	
	7	聖体の制定 マタイ26：26～29				事前後マタイ26：26～29 読む		各60分	
	8	ゲッセマネでの祈り マタイ26：36～46				事前後マタイ26：36～46 読む		各60分	
	9	ペトロの否み マタイ26：30～35				事前後マタイ26：30～36 読む		各60分	
	10	イエスの生き方を生きる人(1)				事前後マタイ6：26～28 読む		各60分	
	11	イエスの生き方を生きる人(2)				事前後マタイ6：29～31 読む		各60分	
	12	待降節について				課題は熟読し考察して記述すること		各60分	
	13	クリスマスミサに参加する				ミサの聖歌 声楽の授業で		各60分	
	14	十字架の刑 犯罪人の赦し ルカ23章				事前後ルカ23章を読む		各60分	
	15	エマオの途上での出現 ルカ24：13～35				事前後ルカ24：13～35 読む		各60分	
成績評価の方法	試験(30%)、提出課題(30%)、授業態度・意欲(20%)、聖園アワー(20%)								
課題のフィードバック	提出されたリアクションペーパー等、読み、必要があれば連絡し指導する								
テキスト	フランシスコ会聖書研究所訳注：『新約聖書』(サンパウロ) ガエタノ・コンプリ著『ここにひかりを』(ドンボスコ)								
参考文献・資料	授業前に授業で必要なプリント配布								

科目名	日本語の表現Ⅱ		科目コード	1FL005	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	
担当者	大原 かおり		担当形態	講義	単位数	2	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				中高(国語)教員免許(専修)を有し現場経験のある教員が、「日本語の表現Ⅰ」で学んだ内容をさらに深めて指導する。					
授業のねらいと概要	<p>小学校・中学校・高等学校等において身につけてきた国語(日本語)の知識や技能を振り返り、社会人・保育者として国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を身につける。</p> <p>講義・演習の他、美術館などの施設見学によって知見を広げ、社会人・保育者としてふさわしい日本語運用能力を身につける。</p>								
到達目標	<p>(1) 国語についての理解を深め、適切な表現を用いた言語活動をすることができる</p> <p>1) 表記・文法・敬語などの国語の基礎知識を身につけ、適切に表現できる</p> <p>2) 場にふさわしい表現方法や技術を工夫し、適切かつ効果的に表現できる</p> <p>3) 自分の考えやイメージを言葉や文章で適切に表現できる</p> <p>(2) 言語活動を通して自己の課題発見・解決を図ることができる</p> <p>1) 自己の国語の知識や技能を向上させるために、課題の発見・解決を図ることができる</p> <p>2) 他者との関わりの中で表現や意見を理解し、伝え合う力を伸ばすことができる</p> <p>(3) 絵本というメディアの特徴を理解し、活用できる</p> <p>1) 絵本の機能と表現効果を理解し、活用できる</p> <p>2) 絵本モニタージュ理論を理解し、読解と表現に生かすことができる</p>								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○		○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	オリエンテーション —授業目標・内容・評価方法の説明、短作文				【事前】シラバスに目を通す。 【事後】復習をする。			各60分
	2	就職試験対策 作文・小論文				【事前】「保育者をめざす人のためのことばの表現—話す・聞く・書く」の該当項目を確認しておく。			60分
	3	国語カトレーニング1 —語彙				【事前】配付問題に取り組む。 【事後】復習をする。			各60分
	4	国語カトレーニング2 —敬語				【事前】配付問題に取り組む。 【事後】復習をする。			各60分
	5	国語カトレーニング3 —表記・文法				【事前】配付問題に取り組む。 【事後】復習をする。			各60分
	6	国語カトレーニング4 —コロケーション				【事前】配付問題に取り組む。 【事後】復習をする。			各60分
	7	国語カトレーニング5 —総合演習				【事前】配付問題に取り組む。 【事後】復習をする。			各60分
	8	美術館等施設見学(予定)				【事前】見学要項に目を通す。 【事後】レポートを書く。			各60分
	9	国語カトレーニング6 —総合演習				【事前】配付問題に取り組む。 【事後】復習をする。			各60分
	10	絵本考察1 —海外の作品の翻訳について				【事後】復習する。			60分
	11	絵本考察2 —戦後日本の児童文学作品について				【事後】復習する。			60分
	12	絵本考察3 —障がいを描いた絵本について				【事後】復習する。			60分
	13	絵本モニタージュ1 —『旅の絵本』を物語る 作品決め				【事前】指定作品を読んでおく。			60分
	14	絵本モニタージュ2 —『旅の絵本』を物語る テキストを作る				【事前】テキストの構想を考える。			60分
	15	絵本モニタージュ3 —『旅の絵本』をよむ 発表会				【事前】読み聞かせの練習をする。 【事後】発表について振り返る。			各60分
成績評価の方法		定期試験(40%)、提出課題(50%)、授業態度・意欲(10%)							
課題のフィードバック		適宜、添削・点検をして返却する。							
テキスト		なし							
参考文献・資料		適宜、提示、配布をする。							

科目名	英会話演習		科目コード	1FS076	必修・選択	選択必修	授業形態	(演習)	
担当者	大西 絵理香		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				中高(英語)教諭免許を有し幼稚園で子ども向け英語教室を行っている教員が英会話について指導する。					
授業のねらいと概要	社会人・保育者としての社会生活で想定される英語によるコミュニケーションの技能や知識を学び、円滑な英会話能力を身につける。								
到達目標	(1) 英会話で用いられる基本的な語彙を習得することができる。 (2) 英語独特の発音や強弱の付け方を習得することができる。 (3) 語彙表現や発音習得を実際の会話に応用し、英語でコミュニケーションを取ることができる。								
DPとの関連	人間性		専門性				社会性		
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○					○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーション、 Unit 1: Nice to meet you. ---Talking about Ourselves				自己紹介に使う語彙や構文を読んで理解する。		60分	
	2	Unit 2: What do you like to do? --- Talking about Hobbies and Pastimes				趣味や娯楽を表す語彙や構文を読んで理解する。		60分	
	3	Unit 3: Where are you from? --- Talking about Hometowns				自分の出身地を説明するための語彙や構文を読んで理解する。		60分	
	4	Unit 4: Who's that? ---Talking about Family				自分の家族構成を説明するための語彙や構文を読んで理解する。		60分	
	5	Unit 5: Where's that? ---Talking about Places and Sights				観光名所やおすすめの場所を説明するための語彙や構文を読んで理解する。		60分	
	6	Unit 6: How do we get there? --- Talking about Transportation and Directions				公共の交通機関利用を説明するための語彙や構文を読んで理解する。		60分	
	7	Unit 7: Are you hungry? --- Talking about Food				食べ物の好みを説明するための語彙や構文を読んで理解する。		60分	
	8	Unit 8: Let's eat! --- Talking about Restaurants and Meals				外食の場所を説明するための語彙や構文を読んで理解する。		60分	
	9	Unit 9: What are you watching? --- Talking about Movies and TV				映画やテレビ番組について説明するための語彙や構文を読んで理解する。		60分	
	10	Unit 10: What music do you like? --- Talking about Music				さまざまな音楽やミュージシャンについて説明するための語彙や構文を読んで理解する。		60分	
	11	Unit 11: How much is it? --- Talking about Shopping				買い物する店や品物について説明するための語彙や構文を読んで理解する。		60分	
	12	Unit 12: Let's play! --- Talking about Sports and Exercise				スポーツや運動について説明するための語彙や構文を読んで理解する。		60分	
	13	Unit 13: Where are you going? --- Talking about Travel and Vacations				旅行や休暇について説明するための語彙や構文を読んで理解する。		60分	
	14	Unit 14: Do you work? --- Talking about Work and Jobs				仕事や職場について説明するための語彙や構文を読んで理解する。		60分	
	15	Unit 15: What do you want to do? --- Talking about Plans				さまざまな予定について説明するための語彙や構文を読んで理解する。		60分	
成績評価の方法	小テスト(30%、授業まとめから出題)、教材の課題提出(10%、配布プリントに記入)、授業内での質疑応答・参加態度・意欲(60%、質疑応答やペアワークへの取り組みから総合的に評価)								
課題のフィードバック	教材のプリントは指示された時に提出し、確認後、翌日に返却する。 授業内で行う小テストは、回収後採点し、翌日に返却する。								
テキスト	James Bury, Anthony Sellick, 堀内香織: 『Complete Communication Book 1 (コミュニケーションのための実践演習 Book 1 <初級編>)』(成美堂)								
参考文献・資料	光藤京子: 『シンプル英語フレーズ 2000』(高橋書店) 野村真美: 『気持ちを表す日常英語表現』(ベレ出版)								

科目名	身近な数とかたち		科目コード	1FL077	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	
担当者	小林 真人		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性									
授業のねらいと概要	洗濯物を吊るす、モバイルフォンでメッセージを送る、ぬり絵をするなど身近なものを例にとり、数とかたちについて、小・中学生の立場に戻り素朴に見つめ直す。簡単な工作や作業、グループ発表などの活動を通して、数とかたちに対する関心を高め、保育の場で使える「あそび」を考える。								
到達目標	(1) 身近にある数やかたちについての性質や法則を複数あげて、式やグラフを使って説明できる (2) 数やかたちを新たな切り口から捉えることに関心を持ち、それに対する印象を、適切な用語を用いて具体的に述べられる (3) 数やかたちについて得た新たな切り口を活かして、保育の場で使える「あそび」を提案できる								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
			○			○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	バランスを取ろう：棒にペットボトルを吊るして、平均値とバランスについて考える				事後：バランス感覚を養う保育の場面を見つける			60分
	2	開けやすい蓋とは：蓋の回しやすさをもとに、釣り合いの取れる位置を、式を使って考える				事前：ペットボトル、ドリンク瓶で、どんな蓋が回しやすいかを試し、考えをまとめる			60分
	3	お店の混み具合を想像しよう：ヒストグラムという統計グラフを紹介し、傾向を読み取る				事前：架空のお店のお店の混み具合を想像し図に表してみる			60分
	4	ヒストグラムを吊るそう：ヒストグラムを吊るして平均値を読み取る作業を行う				事後：ヒストグラムを描き、平均値を読み取る			60分
	5	伝票立てを作ろう：紙を筒状に丸めて伝票立てを作り、サインウェーブを紹介する				事後：身近にサインウェーブを探す			60分
	6	音とウェーブ：音叉を鳴らして、サインウェーブと音のつながりを理解する				事後：音とウェーブを使った遊びを考える			60分
	7	もしも字が4つしかなかったら：スマートフォンはどのように文を覚え、伝えるのか考える				事後：4種の文字でメッセージを作り、ファイルサイズを調べる			60分
	8	暗号でやりとり：「誤読」を起こさないように工夫して暗号を作り、やりとりする				事後：メッセージを作り、暗号文に直す			60分
	9	分数をかたちに：分数 $2/3, 4/5, \dots$ を図形で表して足し算する				事前：分数で表現できるものやされているものを身の回りを見つける			60分
	10	ツリーの秘密：ツリーという枝分かれ図形を観察し、隠された法則を見つける				事後：筆記具などでツリーを作り、点の数と線の数記録する			60分
	11	グラフの秘密：点を線で結んだグラフという図形に隠された法則を見つける				事後：サッカー、バレー、バスケットボールの区切り模様に着目し「2」を見つける			60分
	12	1を作ろう：何倍かする、引くという操作で2つの数からどんな数が作れるのか考える				事後：4と6からどんな数が作れるか試す			60分
	13	マス目で考えよう：マス目を使って2つの数から1を作る				事後：マス目でライフデザイン図を作成する			60分
	14	ぬり絵の秘密：できるだけ色数をおさえてぬり絵を完成させる				事後：どうしても4色必要なぬり絵を作る			60分
	15	発表会：数やかたちに無意識に親しむゲーム(遊び)をチームで考案し発表する				事後：他グループの考案したゲーム一つを解説し優れた点をあげる			60分
成績評価の方法		定期試験(40%)、レポート(30%)、授業態度・意欲(30%)							
課題のフィードバック		毎回の授業のレポート(授業の要点とそれに対する印象や感想)にコメントして返却							
テキスト		なし							
参考文献・資料		必要な資料は講義の際に渡す							

科目名	情報処理Ⅱ		科目コード	1FL078	必修・選択	選択必修	授業形態	学年 期間	講義	2年・後期
担当者	大島 加奈子		担当形態	単独	単位数	2				
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				情報処理に関する各種資格を有する教員が、仕事に役立つアプリケーションソフトの操作方法について指導する。						
授業のねらいと概要	仕事に役立つパソコンスキル (Word、Excel、PowerPoint) の向上									
到達目標	(1) Word：ビジネス文書マナーを理解し、社外文書等をゼロから作成できる (2) Excel：四則演算や基本の関数を使いこなし、データの集計表ができる (3) PowerPoint：プレゼンテーションアプリを使用し、チラシ・ポスターの作成や簡単な動画の作成ができる									
DPとの関連	人間性		専門性				社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力	
			○		○	○	○			
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習				時間(目安)
	1	Word：基本操作復習・ビジネス文書ルール・印刷について				事後：ビジネス文書ルールをしっかりと押さえておく				60分
	2	Word：ビジネス文書・社内文書の作成 1				事前：タイピングを常に練習しておくこと				60分
	3	Word：ビジネス文書・社外文書の作成 1				事後：未完成の練習問題を完成・提出				60分
	4	Word：ビジネス文書・表が入った社外文書の作成 2				事後：未完成の練習問題を完成・提出				60分
	5	Word：ちらし・ポスター作成				事後：未完成の練習問題を完成・提出				60分
	6	Excel：基本操作復習・関数の復習・印刷				事後：苦手な関数の確認の練習をする				60分
	7	Excel：基本的な表作成・印刷・仕事で使える関数				事後：未完成の練習問題を完成・提出				60分
	8	Excel：表作成・効率の良い作成				事後：未完成の練習問題を完成・提出				60分
	9	Excel：表作成・関数以外のテクニック				事後：未完成の練習問題を完成・提出				60分
	10	Excel：表作成・ゼロからつくる表作成・データの管理				事後：未完成の練習問題を完成・提出				60分
	11	Excel：表作成・使いまわしのテクニック				事後：未完成の練習問題を完成・提出				60分
	12	PowerPoint：基本操作復習・印刷・WordやExcelとの違い				事後：それぞれのアプリの違いを確認する				60分
	13	PowerPoint：基本的なスライド作成・印刷物の作成				事後：未完成の練習問題を完成・提出				60分
	14	PowerPoint：ポスター・チラシの作成				事後：未完成の練習問題を完成・提出				60分
	15	PowerPoint：スライドを使った動画の作成				事後：未完成の練習問題を完成・提出				60分
成績評価の方法		提出課題 (80%)、授業態度・意欲 (20%)								
課題のフィードバック		提出された課題に対し、コメント等を記入し返却。 なお、ビジネスマナーや計算式等の修正が必要な場合は期限内の再提出とする。								
テキスト		適時、資料・練習問題を配布する								
参考文献・資料		『Wordビジネス活用ドリル』『Excelビジネス活用ドリル』『PowerPointビジネス活用ドリル』 『困ったときにすぐに使える!ビジネス文書大事典』(学研プラス)								

科目名	声楽Ⅱ A		科目コード	1ES081	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	櫻庭 優佳		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				小学校、中・高(音楽)教諭免許を有し、またプロの声楽家でもある教員がこれまでの「声楽」で学んだ内容をさらに深め歌唱に関する知識・技能を指導する。					
授業のねらいと概要	より豊かな歌声を目指し自身の声に向き合い続けることで、保育者として子どもの前で自信をもって歌えるよう歌唱の力を高める。また、子どもの成長に必要な不可欠である音楽活動を適切に援助し、音楽の喜びや楽しさを伝えることができるように「子どもの歌」について総合的な表現活動に取り組む。								
到達目標	(1)「子どもの歌」を中心とした歌唱表現ができる 1)美しい日本語の発音に留意して歌唱することができる 2)良い姿勢、良い表情で歌唱することができる 3)より良い演奏や発表を目指し、練習に取り組むことができる 4)子どもの歌を弾き歌いで演奏することができる (2)子どもの心に響く歌唱とは何か、向上心をもって音楽活動に取り組むことができる 1)子どもの前で堂々と歌唱する姿をイメージしながら、楽しく演奏しようと心がけることができる 2)音楽の特徴を捉え、子どもの心に働きかけるような工夫を加えることができる 3)グループで協力し合いながら、喜びを持って意欲的に音楽活動に取り組むことができる								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○		○	○		○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーション 子どもの「声」に耳を傾けよう① 「子どもはいつから歌うのか」				シラバスの精読 プリント課題への取り組み		60分 60分	
	2	子どもの「声」に耳を傾けよう② 年齢と歌唱行動の特徴について				テキスト該当部分の通読 プリント課題への取り組み		60分 60分	
	3	「子どもの歌」のグループ発表(グループワーク)① 課題曲3曲について、クラス全体で歌唱に取り組む				課題曲の譜読み・予習 楽譜の製本と練習		60分 60分	
	4	「子どもの歌」のグループ発表(グループワーク)② 10人程度のグループ毎に課題曲について表現の方法を話し合う				発表のアイデアを考える 課題曲の練習		60分 60分	
	5	「子どもの歌」のグループ発表(グループワーク)③ グループ活動～活動計画や役割分担を話し合う				課題曲の練習 計画と進捗状況の記録		60分 60分	
	6	「子どもの歌」のグループ発表(グループワーク)④ グループ活動～計画に沿って歌の練習や制作に取り組む				必要な素材の準備 進捗状況の記録		60分 60分	
	7	「子どもの歌」のグループ発表(グループワーク)⑤ グループ活動～同上				必要な素材の準備 進捗状況の記録		60分 60分	
	8	「子どもの歌」のグループ発表(グループワーク)⑥ グループ活動～同上、必要に応じて伴奏合わせを行う				必要な素材の準備 進捗状況の記録		60分 60分	
	9	「子どもの歌」のグループ発表(グループワーク)⑦ グループ毎にリハーサルに取り組む				リハーサルに向けての準備 進捗状況の記録		60分 60分	
	10	「子どもの歌」のグループ発表(グループワーク)⑧ 発表を行い、互いの発表から学び合う				発表に向けての練習 振り返りの記録		60分 60分	
	11	季節の歌 1月～3月の歌 ① テキスト掲載の1月・2月の歌について取り組む				テキストの予習 子どもの歌の練習		60分 60分	
	12	季節の歌 1月～3月の歌 ② テキスト掲載の3月の歌について取り組む				テキストの予習 子どもの歌の練習		60分 60分	
	13	子どもの歌の弾き歌い①【実技試験】 各自が任意で選曲・練習した子どもの歌1曲を弾き歌いで演奏する				弾き歌いの練習 ふり返りと反復練習		180分 60分	
	14	子どもの歌の弾き歌い②【実技試験】 各自が任意で選曲・練習した子どもの歌1曲を弾き歌いで演奏する				弾き歌いの練習 ふり返りと反復練習		180分 60分	
	15	声楽ⅡAのまとめ【ミニテスト(筆記)】1～3月の歌について 夏休業中課題について説明する(声楽ⅡBに向けての課題となる)				テストに向けての学習 夏休み課題への準備		60分 60分	
成績評価の方法	試験(授業内で実技発表・実技試験)(40%)、ミニテスト(筆記)(20%)、授業態度・意欲(提出物の内容、練習やグループ活動の参加態度など)(40%)								
課題のフィードバック	グループ活動が多くなりますが、全員が役割を担い主体的に活動してほしいと願っています。毎時間振り返りを記録してください。単元終了後に回収し、コメント記入したものを返却します。発表等における評価の観点・ポイントはその都度明確にお伝えします。実技試験に向けては計画的によく練習をして臨んでください。ミニテストは採点したものを返却します。								
テキスト	神原雅之 鈴木恵津子 編著：改訂『幼児のための音楽教育』(教育芸術社) 「聖歌集『神をたたえて』(聖園学園短期大学)」								
参考文献・資料	東京福祉専門学校編『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社) その他、その都度提示や紹介・配布をする								

科目名	声楽Ⅱ B		科目コード	1ES082	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	櫻庭 優佳		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				小学校、中・高(音楽)教諭免許を有し、またプロの声楽家でもある教員がこれまでの「声楽」で学んだ内容をさらに深め歌唱に関する知識・技能を指導する。					
授業のねらいと概要	声楽Ⅱ Aに引き続き、歌唱技術と実践力の向上を図るべく、様々な音楽表現活動等の発表に取り組む。「子どもに歌や音楽を楽しんでもらうには?」という視点を常に持ちながら学習してほしい。また、一つの曲、楽譜に書かれている音楽的な内容や詩の解釈について深く読み込む作品分析に取り組む中で、保育者として子どもと音楽の出会いをより尊いものへと導けるよう、学びを深める								
到達目標	(1)「子どもの歌」を中心とした歌唱表現ができる 1) 子どもにとっての良い手本となるような美しい日本語の発音で歌唱することができる 2) 子どもの前で堂々と歌唱する姿をイメージしながら、良い姿勢、良い表情で歌唱することができる 3) 子どもの五感に働きかけるような豊かな声で歌唱しようと心がけることができる (2) 曲が持つ魅力に気が付き、向上心をもって音楽活動に取り組むことができる 1) 歌詞の解釈や楽譜に記されている内容に興味を持ち、意欲的に取り組むことができる 2) 曲の特徴を捉え、子どもの心に働きかけるような工夫を加えることができる 3) 喜びを持って意欲的に音楽活動に取り組むことができる								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	「子どもの歌」表紙の作成と鑑賞 工夫を凝らした表紙作品を鑑賞し合い、互いの作品から学び合う				「表紙」課題への取り組み 個人発表課題の準備			120分 120分
	2	「子どもの歌」の個人発表① 発表に向けて各自練習に取り組む、必要に応じて伴奏合わせを行う				個人発表課題の準備 発表に向けての練習			120分 60分
	3	「子どもの歌」の個人発表② 発表を行い、互いの発表から学び合う				発表に向けての準備 発表の振り返り記入			60分 60分
	4	「子どもの歌」の個人発表③ 同上				発表に向けての準備 発表の振り返り記入			60分 60分
	5	「子どもの歌」の個人発表④ 発表に向けて各自が準備した作品を鑑賞し、互いの作品から学び合う				作品の準備 振り返りプリントの記入			60分 60分
	6	季節の歌や行事の歌① テキスト以外のたくさんの歌について知識を増やす				子どもの歌の練習 プリント課題への取り組み			60分 60分
	7	季節の歌や行事の歌② 季節や行事を想定し、子どもの歌のレパートリー作成に取り組む				子どもの歌の練習 プリント課題への取り組み			60分 60分
	8	「子どもの歌」の作品分析① 任意の1曲について、作品分析に取り組む				選曲と楽譜の準備 選択した歌の練習			60分 60分
	9	「子どもの歌」の作品分析② 任意の1曲について、作品分析を深める				選択した歌の練習 作品分析への取り組み			60分 60分
	10	「子どもの歌」の作品分析③ 任意の1曲について、作品分析の記述を仕上げ、提出する				作品分析への取り組み 課題提出のための準備			60分 60分
	11	選択課題への取り組み①【実技発表もしくは課題提出】 子どもの歌のピアノ弾き歌い・子どもの歌の独唱・作品分析課題の中から一つを選択し、主体的に取り組む				プリントの精読と理解 課題の選択と選曲			60分 60分
	12	選択課題への取り組み②【実技発表もしくは課題提出】 選択した内容について取り組む				選択課題への取り組み 必要に応じて練習など			60分 60分
	13	選択課題への取り組み③【実技発表もしくは課題提出】 選択した内容について発表に向けて取り組みを深める				選択課題への取り組み 必要に応じて練習など			60分 60分
	14	選択課題への取り組み④【実技発表もしくは課題提出】 発表を行い、互いの発表から学び合う				発表に向けての準備 発表の振り返り記入			60分 60分
	15	「声楽」のまとめ/卒業式に向けての合唱練習 自由記述課題「子どもにとって歌(音楽)とは何か」				課題への取り組み これまでの授業の復習			60分 60分
成績評価の方法	実技発表(子どもの歌の個人発表)20%、提出課題(作品分析)20%・(表紙作成)10%、選択課題(弾き歌い・独唱・作品分析のうちのどれか一つ)20%、授業態度・意欲(提出物の内容・練習への意欲や活動への参加態度など)30%								
課題のフィードバック	一つ一つの課題に丁寧に取り組み、より良い内容になるようできるだけ時間を費やしましょう。課題には余裕をもって計画的に取り組ましましょう。互いの発表からいいところを学び合う姿勢を常に大切にしてください。発表等における評価の観点・ポイントはその都度明確にお伝えします。								
テキスト	神原雅之 鈴木恵津子 編著:改訂『幼児のための音楽教育』(教育芸術社) 「聖歌集『神をたたえて』(聖園学園短期大学)」								
参考文献・資料	東京福祉専門学校編『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社) その他、その都度提示や紹介・配布をする								

科目名	身体表現 I		科目コード	1ES086	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	保坂 和貴		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				教育委員会等が主催する幼稚園教諭・保育士のキャリアアップ研修(初任者研修・園内研修リーダー講習等)の指導経験のある教員が、「身体表現」における指導の方向性を考察できるように指導する。					
授業のねらいと概要	運動遊び・コミュニケーションゲーム・身体表現を体験しながら、保育者として子どもの遊びと表現にかかわるための感覚と知識の基礎を養う。								
到達目標	(1) 遊びという体験を身体で理解できる。 (2) 子どもの表現が「かかわりの中で生まれるもの」であることを説明できる。 (3) 保育者として遊びの場にかかわる際の基本的な姿勢を説明できる。								
DPとの関連	人間性		専門性				社会性		
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○	○	○
授業計画	授業回数	授業の内容					事前・事後学習		時間(目安)
	1	オリエンテーション：授業の進め方と自己紹介					予習・復習に関する資料を確認する		各30分
	2	伝統的な運動遊び①：わらべうたの実践					〃		各30分
	3	伝統的な運動遊び②：ルールのある遊びの実践					〃		各30分
	4	コミュニケーションゲーム①：空間と視線を使った遊び					〃		各30分
	5	コミュニケーションゲーム②：身体接触と信頼の遊び					〃		各30分
	6	声の表現：発声の仕組みと声を使った遊び					〃		各30分
	7	空間と身体：身体で空間を感じる遊び					〃		各30分
	8	相手と合わせる：模倣と即興のゲーム					〃		各30分
	9	即興と創発：シーンづくりの実践					〃		各30分
	10	表現とは何か：体験をもとにした理論的整理					〃		各30分
	11	子どもの遊びと表現①：運動遊びの発達の意味					〃		各30分
	12	子どもの遊びと表現②：ごっこ遊びと劇遊びの構造					〃		各30分
	13	グループ遊び実践：遊びの選択と実践					〃		各30分
	14	発表・共有：グループ実践の発表と振り返り					〃		各30分
	15	まとめ：遊びと表現と保育者					〃		各30分
成績評価の方法	毎回の振り返り記録(70%)、授業態度・意欲(30%)								
課題のフィードバック	毎回の振り返り記録にコメントを付し、次回授業の配布資料として返却する。								
テキスト	なし								
参考文献・資料	必要に応じて配布する								

科目名	音楽表現Ⅱ		科目コード	1ES087	必修・選択	選択必修	授業形態	(演習)	
担当者	東海林 美代子、他4名		担当形態	クラス分け	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				ピアノ教室を主宰するなど、様々な音楽活動を行っている教員が、子どもの歌の弾き歌いについて、ピアノ、歌唱の両面から指導する。					
授業のねらいと概要	子どもの歌の「弾き歌い」を理解し、必要となる演奏技術を修得できるようにする。全体での歌唱とグループ分けによるピアノという授業体制により、両面から「弾き歌い」について学習し、併せて全体でのピアノ伴奏も経験する。表現活動を支えられるピアノの演奏技術を高め、自らの表現力を養う。								
到達目標	(1) ピアノテキストSTEP1とSTEP2の子どもの歌について、楽曲を理解し表情豊かに歌うことができる。 (2) 上記の楽曲の中から15曲程度を簡易伴奏も含め弾き歌いができる。 (3) ピアノの演奏技術を高め表現力の向上につなげようとする。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容			事前・事後学習			時間(目安)	
	1	歌唱	ピアノ		毎回の授業に向けて2～3曲を目安に、歌唱・伴奏・弾き歌いの練習に取り組む			360分	
	2	授業内容、進め方について説明する	4名程度のグループに分かれ、STEP1の子どもの歌について、伴奏と弾き歌いに取り組む		間違えずに演奏できるまで十分に練習し授業に臨むこと			360分	
	3	STEP1の子どもの歌に取り組む	毎回2～3曲を練習し、個人レッスンにより指導を受ける		毎日1時間程度の練習が望ましい			360分	
	4	楽曲を理解し、はっきりと歌えるようにする	伴奏が難しい場合には他のテキストや楽譜を使用する					360分	
	5	交互に伴奏をし合う						360分	
	6	多数での歌唱の伴奏を経験し、伴奏法を学ぶ						360分	
	7	子どもの歌の1曲を弾き歌いで演奏し、互いに聴き合う						360分	
	8	歌唱	ピアノ					360分	
	9	STEP2の子どもの歌に取り組む	4名程度のグループに分かれ、STEP2の子どもの歌について、伴奏と弾き歌いに取り組む					360分	
	10	楽曲を理解し、表情豊かに歌えるようにする	毎回2～3曲を練習し、個人レッスンにより指導を受ける					360分	
	11	交互に伴奏をし合う						360分	
	12	多数での歌唱の伴奏の経験を増やす	伴奏が難しい場合には他のテキストや楽譜を使用する					360分	
	13							360分	
	14		楽曲を理解し、表情豊かに弾き歌いができるようにする					360分	
15	発表会 振り返りと授業評価	子どもの歌の1曲を弾き歌いで演奏し、互いに聴き合う						360分	
成績評価の方法	毎回の授業への準備と授業態度・意欲(50%)、実技発表(50%)								
課題のフィードバック	毎回、全体での歌唱指導とグループによるピアノの個人レッスンを繰り返す								
テキスト	東京福祉保育専門学校編：『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社)								
参考文献・資料	神原雅之・鈴木恵津子編著：『改訂 幼児のための音楽教育』(教育芸術社)								

科目名	造形表現Ⅱ		科目コード	1ES088	必修・選択	選択必修	授業形態	(演習)	
担当者	鎌田 悟		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				小、中・高(美術)教諭免許を有し、現場経験のある教員が、「造形表現Ⅰ」で学んだ内容をさらに深め様々な造形表現について指導する。					
授業のねらいと概要	環境構成や絵本製作などの造形活動を通して、必要な知識・技能を習得し、幼児の発達段階に応じた具体的な支援を理解する。								
到達目標	(1) 基礎的な造形活動の知識や技能を応用した作品を製作することができる。 ①絵本等のテーマを明確にした製作 ②季節感を効果的に表す展示方法や壁面構成 (2) 幼児の発達段階に応じた支援と環境づくりができる。 ①幼児の制作活動への支援 ②園内の行事などをイメージした掲示・環境構成								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○				○	○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	表現を通して育てたい資質能力、保育者の役割、支援の在り方について理解する				授業の振り返りを資料に記録する		90分	
	2	造形遊びの体験 つなぐ・つるす・貼るなど大きな空間を飾る活動を楽しむ				幼児と共に作り上げる環境作りをイメージする		90分	
	3	季節感を表す環境構成をする(春・夏の製作)				幼児がイメージを持てるような環境構成について考える		90分	
	4	季節感を表す環境構成(見え方を意識した製作と掲示)				展示場所をイメージした製作の段取りを考えてくる		90分	
	5	簡単な絵本をつくり、絵本の造りを理解する				絵本の造り、内容について下調べをする		90分	
	6	絵本のストーリー考え、ラフスケッチをする。本製作をする				自分の絵本に必要な材料を用意する。		90分	
	7	様々な道具、材料を使って製作する				お互いの作品の良さ等について感想を発表しあう。		90分	
	8	表紙の効果を考えオモテ・ウラ表紙を製作する				身近な素材をどう活用するか考えておく		90分	
	9	製本して完成させ、友だちと交換して鑑賞する				展示したり、写真に撮ったりして相互に鑑賞する。		90分	
	10	お弁当を作ろうⅠ 食べる人をイメージしてアイデアスケッチをする				どんなお弁当を作るか事前に調べ構想を練る		90分	
	11	お弁当を作ろうⅡ 紙粘土を使って具材を作る				弁当箱選択し用意する		90分	
	12	お弁当を作ろうⅢ 紙粘土を使って具材を作る				栄養バランスを考えた具材考えておく		90分	
	13	お弁当を作ろうⅣ 彩や配色を考えて盛り付け互いの作品を鑑賞する				授業の振り返りを資料に記録する		90分	
	14	子どもの絵の見方、考え方を理解する				授業の振り返りを資料に記録する		90分	
	15	子どもの遊び、感性と体験について理解する				今までの学習内容を再確認してまとめる		90分	
成績評価の方法	課題提出(60%)、授業態度・意欲(40%)								
課題のフィードバック	①授業後(作品完成時等)の鑑賞会 ②各時間ごとの振り返り(カードへの記載内容等)の確認による事後指導。								
テキスト	槇 英子『保育を開く』(萌文書林)								
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携認定こども園教育・保育要領解説』 随時、自作のプリントを作成し配付する。								

科目名	保育内容の指導法 健康		科目コード	1ES025	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	猿田 興子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				幼稚園教諭免許、保育士資格を有し現場経験のある教員が、領域「健康」について指導する。					
授業のねらいと概要	領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、乳幼児が自ら健康で安全な生活を知り実行できる力を養うために必要な知識・技術を身につける。事例に触れる中で、保育者のかかわり方や環境構成、運動遊びなど実践的な学びを取り入れる。そこからつながる乳幼児期の健康にかかわる生活習慣や心身の発育・発達、運動機能発達の特徴の理解を深め、適切な指導法を学ぶ。								
到達目標	(1)幼稚園教育(保育含む)の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解し考えることができる。 (2)領域「健康」における幼児の発達や学びの過程を理解している。 (3)領域「健康」にかかわる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけて指導計画に活かすことができる。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○		○	○	○	○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーション 幼児教育の基本 ～幼児教育の基本・育みたい脂質・能力・幼児期の終わりにて育ってほしい姿から～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		事前80分 事後120分	
	2	幼児教育の基本 ～環境を通しての教育と保育者のさまざまな役割 遊びを通しての総合的な指導～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		事前80分 事後120分	
	3	子どもの育ちと領域「健康」 ～乳幼児期の運動能力と発達の特徴・情緒の安定について～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		事前80分 事後120分	
	4	子どもの育ちと領域「健康」 ～生活習慣の形成 子どもの発達と安全な生活について～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		事前80分 事後120分	
	5	子どもの「健康」をめぐる現状と課題 ～子どもたちの生活と運動能力の現状、心身の変化について～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		事前80分 事後120分	
	6	子どもの「健康」をめぐる現状と課題 ～効果的な運動能力向上につながる保育内容について～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		事前80分 事後120分	
	7	子どもの健康と遊び ～乳児(1・2歳児)の遊びと保育者の援助について～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		事前80分 事後120分	
	8	子どもの健康と遊び ～さまざまな遊びと子どもの興味を引き出す環境の構成～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		事前80分 事後120分	
	9	園生活と生活習慣 ～園生活を通して育む生活習慣 園生活と食 園生活と睡眠～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		事前80分 事後120分	
	10	園生活と生活習慣 ～園環境と当番活動 生活習慣を育む保育者の役割と保護者連携～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		事前80分 事後120分	
	11	子どもの健康と安全教育 ～安全教育について 遊びの中で育む安全の意識～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		事前80分 事後120分	
	12	子どもの健康と安全教育 ～計画的な指導を通して育む安全の意識 事故対応について～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		事前80分 事後120分	
	13	幼児教育における現代の課題と領域「健康」 ～領域「健康」の課題を探る中で適切な保育内容を考える～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		事前80分 事後120分	
	14	幼児教育における現代の課題と領域「健康」 ～保育者の役割とともに、生涯発達という広い視野で「健康」を捉える～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		事前80分 事後120分	
	15	授業のまとめ ～幼児を取り巻く現代の課題を踏まえた健やかな心と身体を育む保育～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題完成に取り組む		事前80分 事後120分	
成績評価の方法	試験(60%)、レポート・指導計画・小テスト(30%)、授業態度・意欲(10%)								
課題のフィードバック	授業内で配布する資料への書き込みとレポート・小テストも試験採点と合わせて採点対象とし、終了後返却する。								
テキスト	無藤隆ほか：「事例で学ぶ 保育内容 領域「健康」(萌文書林)								
参考文献・資料	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 認定こども園教育・保育要領解説 保育用語辞典								

科目名	保育内容の指導法 人間関係		科目コード	1ES026	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	石井 美和子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				幼稚園教諭免許及び保育士資格を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、領域「人間関係」について指導する。					
授業のねらいと概要	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について理解を深め、幼児が人と関わる力の基礎を養うことの重要性を知る。その上で、幼児が、他の人と親しみ、支え合って生活し、自立心をもって主体的に人と関わる力を養うことを目指すため具体的な指導場面を想定した保育の方法を身に付ける。								
到達目標	(1) 幼稚園教育要領に示された保育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容の全体構造を理解している。 (2) 領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身につけていく内容と指導上に留意点を理解している。 (3) 人間関係に関わる幼児の育ちを理解し、遊びや生活のなかで育まれる心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育を構想し、具体的な指導案を作成することができる。 (4) 幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験と小学校以降の生活とのつながりについて理解している。 (5) 領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に生かすことができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用するなどの留意点を理解している。 (6) 具体的な保育を想定して指導案を作成し、ロールプレイやグループディスカッションなどのアクティブラーニングを通して保育を改善する視点を身に付けている。 (7) 領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○		○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	保育の基本、保育内容の5領域と「人間関係」との関連の理解				* 幼稚園教育要領解説書＝テキスト 事前：テキスト第1章・2章を読む。 事後：学習内容や資料を確認し、課題に取り組む。		各60分	
	2	保育における人間関係についてⅠ ・ 保育の場面から考える(ビデオ視聴・考察、情報交換)				事前：テキストの関連部分を読む。 事後：学習内容や資料を確認し、課題に取り組む。		各60分	
	3	保育における人間関係についてⅡ ・ 保育者の役割を考える(事例についてグループワーク)				事前：テキストの関連部分を読む。 事後：学習内容や資料を確認し、課題に取り組む。		各60分	
	4	保育内容「人間関係」について ・ 示されている3項目のねらいと13の内容の理解 ・ 保育における「人間関係」の重要性と内容の取扱いについて理解				事前：テキストの関連部分を読む。 事後：学習内容や資料を確認し、課題に取り組む。		各60分	
	5	乳児期における「人との関わり」の発達と保育者の援助 ・ エピソード記録により援助の在り方を探る(グループワーク)				事前：乳児期における「人との関わり」の発達を調べる。 事後：学習内容や資料を確認し、課題に取り組む。		各60分	
	6	幼児期における「人との関わり」の発達と自立心を育む保育者の援助 ・ エピソード記録に関するグループディスカッションにより援助の在り方を探る				事前：幼児期における「人との関わり」の発達を調べる。 事後：学習内容や資料を確認し、課題に取り組む。		各60分	
	7	児童期以降の「人との関わり」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 ・ 人間関係の発達と幼小の連携についての理解				事前：テキストの関連部分を読む。 事後：学習内容や資料を確認し、課題に取り組む。		各60分	
	8	遊びの重要性と遊びの中で育つ「人との関わり」(自己主張、ルール、折り合い、協同等) ・ エピソード記録等により、遊びの中で育つ人間関係と保育者の援助の考察				事前：資料(自己主張、ルール、折り合い、協同等のエピソード記録)を読む。 事後：学習内容や資料を確認し、指導案作成に関する課題に取り組む。		各60分	
	9	生活・遊びの中で育つ「人との関わり」と協同的な活動の構想Ⅰ ・ 人間関係を育む指導案作成と振り返りの考察				事前：協同的な活動について調べる。 事後：学習内容や資料を確認し、課題に取り組む。		各60分	
	10	生活・遊びの中で育つ「人との関わり」と協同的な活動の構想Ⅱ ・ 評価と指導案の改善の考察				事前：テキストの関連部分を読む。 事後：学習内容や資料を確認し、課題に取り組む。		各60分	
	11	「人間関係」を深める遊びや活動 ・ 人間関係を深める遊びや活動の紹介・遊びの重要性の理解				事前：テキストの関連部分を読む。 事後：学習内容や資料を確認し、課題に取り組む。		各60分	
	12	保育者同士の連携と園全体での連携、保護者との連携、地域との連携 ・ 具体的な事例を通し、連携の重要性の考察 ・ 保護者面談の体験(ロールプレイ)				事前：テキストの関連部分を読む。 事後：学習内容や資料を確認し、課題に取り組む。		各60分	
	13	人間関係の現代的な課題と情報機器の活用 ・ 「人と関わる力」における現代的な課題の考察 ・ 具体的な援助及び指導における教材や情報機器の活用方法の考察				事前：現代的な課題について情報収集する。 事後：学習内容や資料を確認し、課題に取り組む。		各60分	
	14	幼児理解と保育者の資質向上(ビデオ視聴・グループディスカッション) ・ 「人間関係」を育てる保育者としての学びと自身の変容について自己評価				事前：保育者としての自身の学びと変容についてまとめる。 事後：「人間関係」を育てる保育者の役割を考える。		各60分	
	15	「人間関係」を育てる保育者の役割の考察 ・ 保育者としての夢と保育者としての役割(グループディスカッション)				事前：自身のこれまでの学びや課題、今後の成長についてまとめる。 事後：他者の意見、学習内容をまとめる。		各60分	
成績評価の方法	定期試験(60%)、提出課題(20%)、授業態度・意欲(20%)								
課題のフィードバック	提出された課題やリアクションペーパーを確認し、必要に応じてコメントを記入して返却する。質問事項については、次回の授業において全体で共有する。								
テキスト	『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)								
参考文献・資料	『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 授業時に資料を配付する。その他、授業の中で提示や紹介をする。								

科目名	保育内容の指導法 環境		科目コード	1ES027	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	佐々木 啓子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				幼稚園教諭免許、保育士資格を有し現場経験のある教員が、領域「環境」について指導する。					
授業のねらいと概要	子どもを取り巻く環境について学び、幼児期にふさわしい環境を考えることができるようになる。また、「環境を通して行う教育」および子どもが環境に関わって遊ぶことの重要性について理解する。								
到達目標	(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらいおよび内容ならびに全体構造を理解する。 (2) 領域「環境」のねらいおよび内容を踏まえ、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。 (3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解する。 (4) 領域「環境」にかかわる周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と小学校以降の教科等とのつながりを理解する。 (5) 子どもの心情、認識、思考および動き等を視野に入れた保育計画の重要性を理解する。 (6) 領域「環境」の特性および子どもの体験との関連を考慮した情報機器および教材の活用を理解し、保育計画に活用することができる。 (7) 領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育計画の向上に取り組むことができる。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○		○		○	○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	領域「環境」の意義 子どもにとっての身近な環境				(事前) 幼稚園教育要領第2章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容をふりかえる		(事前)60分 (事後)60分	
	2	領域「環境」において育むもの 領域「環境」のねらいと内容				(事前) テキスト第2章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容をふりかえる		(事前)60分 (事後)60分	
	3	子どもを取り巻く物的環境 遊びや生活の中のもの・道具、ものの性質と仕組み				(事前) テキスト第14章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容をふりかえる		(事前)60分 (事後)60分	
	4	子どもを取り巻く自然環境Ⅰ 植物への親しみ				(事前) テキスト第10章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容をふりかえる		(事前)60分 (事後)60分	
	5	子どもを取り巻く自然環境Ⅰ 保育における動物飼育の意義				(事前) テキスト代11勝を読む (事後) プリントを見返し、学習内容をふりかえる		(事前)60分 (事後)60分	
	6	環境への興味とかかわり方の発達 0～2歳における環境へのかかわり方				(事前) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領第2章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容をふりかえる		(事前)60分 (事後)60分	
	7	環境への興味とかかわり方の発達 3～5歳における環境へのかかわり方				(事前) 幼稚園教育要領第2章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容をふりかえる		(事前)60分 (事後)60分	
	8	園生活の中の様々な環境 文字や標識、数量や大きさなどへの関心				(事前) テキスト第16・17章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容をふりかえる		(事前)60分 (事後)60分	
	9	環境構成・整備 子どもと共につくる環境				(事前) テキスト第7章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容をふりかえる		(事前)60分 (事後)60分	
	10	子どもの活動を引き出す保育環境Ⅰ 遊びたくなる環境、試すことができる環境				(事前) 幼稚園教育要領第1章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容をふりかえる		(事前)60分 (事後)60分	
	11	子どもを取り巻く文化的環境 文化財の活用「絵本ライブ」				(事前) テキスト第15章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容をふりかえる		(事前)60分 (事後)60分	
	12	子どもの活動を引き出す保育環境Ⅱ 環境としての時間・空間・雰囲気				(事前) 幼稚園教育要領第2章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容をふりかえる		(事前)60分 (事後)60分	
	13	情報環境へのかかわり 情報環境の活用				(事前) 幼稚園教育要領第3章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容をふりかえる		(事前)60分 (事後)60分	
	14	安全な環境づくり 子どもの身体的特徴・行動特性と事故、健康で衛生的な生活				(事前) 幼稚園教育要領第4章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容をふりかえる		(事前)60分 (事後)60分	
	15	環境を通して行う教育の環境 主体的に取り組むための環境				(事前) これまでの授業の中から保育の課題と思われることを自分なりに考えてまとめる (事後) プリントを見返し、学習内容をふりかえる		(事前)60分 (事後)60分	
成績評価の方法		リアクションペーパー(20%)、定期試験(60%)、授業態度(20%)							
課題のフィードバック		講義後、リアクションペーパーに記入された学びや疑問について次回の講義で解説し、理解を深める							
テキスト		田尻由美子・無藤隆編著：『保育内容 子どもと環境 -基本と実践事例- 第3版』(同文書院)							
参考文献・資料		『幼稚園教育要領解説書』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)							

科目名	保育内容の指導法 言葉		科目コード	1ES028	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	蛭田 一美		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性									
授業のねらいと概要	<p>幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえて、領域「言葉」のねらいや内容について理解を深める。          幼児の言葉の発達に即して、主体的・対話的で深い学びをしながら具体的な指導面を想定した保育の方法を身に付ける。</p>								
到達目標	<p>(1) 幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい、内容を理解することができる。          (2) 幼児の心情、認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育の重要性を理解することができる。          (3) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の方法を身に付けることができる。          (4) 模擬保育、グループディスカッションなどのアクティブラーニングを通して、保育の質を高める視点を身に付ける。          (5) 素話のスキルを身に付け、保育の現場で実践する。</p>								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○		○	○		○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい、および内容を理解する。				1・2の内容をファイルにまとめておく。			
	2	領域「言葉」と「幼児期に育ってほしい10の姿」を具体的に関連付けることを通し、幼稚園教育要領のねらい、内容、取り扱いの注意を理解する。						120分	
	3	事前に学習した事例や著書を通し、乳幼児の心情・認識・思考について考察し、領域「言葉」の内容の指導上の留意点について理解する。				事前にテキスト・著書を調べ、乳幼児の姿を把握しておく。		60分	
	4	乳幼児の言葉の発達を育む基盤と言葉の発達過程を理解する。 (1) 乳児期の発達				毎回の講義内容を自分なりに整理しまとめる。		60分	
	5	乳幼児の言葉の発達を育む基盤と言葉の発達過程を理解する。 (2) 1歳から3歳の発達						60分	
	6	乳幼児の言葉の発達を育む基盤と言葉の発達過程を理解する。 (3) 3歳から5歳の発達						60分	
	7	乳幼児の言葉の発達を育む基盤と言葉の発達過程を理解する (4) 書き言葉の発達と小学校教科等とのつながり理解する						60分	
	8	実際の保育を通したエピソードを通して、乳幼児の言葉による伝え合いや自分なりの言葉の発達を理解する。				事前に実習の中からエピソードをまとめる。		60分	
	9	生活に必要な言葉の修得を支える援助について理解し、言葉を豊かにする環境構成についてグループディスカッションをしながら考える。				講義内容を自分なりに整理しまとめる。		60分	
	10	絵本・素話・紙芝居などの言葉を豊かにする教材について情報機器の活用も含めて保育の中で生かす実践を計画する。						120分	
	11	言葉に関する感覚を豊かにする様々な保育実践を調べ、グループワークを行い、スキルを身に付ける。							
	12	領域「言葉」のねらいを及び内容を理解し、具体的な保育場面を想定した指導案作成に取り組む。							
	13	実技試験				自主練習を行う。		120分	
	14	言葉を豊かにする教材の一つとして素話の実践を模擬保育として全体の前で発表する。						120分	
15	まとめ 指導案作成や実践を通して「言葉」の授業を振り返り、幼児理解に基づいた視点から、保育構想の向上について語り合う。								
成績評価の方法	定期試験(50%)、実技試験(30%)、ノートを含む課題提出・授業態度(20%)								
課題のフィードバック	実技試験の評価を希望者には伝える。								
テキスト	塩 美佐江・古川寿子編著「保育内容 言葉」(ミネルヴァ書房)								
参考文献・資料	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「保育用語辞典」								

科目名	保育内容の指導法 表現		科目コード	1ES029	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	蛭田 一美		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				幼稚園教諭免許、保育士資格を有し現場経験のある教員が、領域「表現」について指導する。					
授業のねらいと概要	<p>幼児の表現に関する現状や課題を踏まえて、領域「表現」のねらいや内容について理解を深める。          幼児の表現の発達に即して、主体的・対話的で深い学びをしながら具体的な指導面を想定した保育の方法を身につける。</p>								
到達目標	<p>(1) 幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい、内容を理解することができる。          (2) 幼児の心情、認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育の重要性を理解することができる。          (3) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の方法を身につけることができる。          (4) 模擬保育、グループディスカッションなどのアクティブラーニングを通して、保育の質を高める視点を身に付ける。          (5) 伝承あそび「けん玉」のスキルを身に付け、けん玉の可能性について理解を深める。</p>								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○		○	○		○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい、および内容を理解する。				事前に内容に適した著書を調べる。			
	2	五感を使った総合的な表現活動を考案する。 ①活動の特徴、面白さ、留意点などについてを考える。				事前に内容に適した事例や著書を調べる。		120分	
	3	五感を使った総合的な表現活動を考案する。 ②0歳、1歳、2歳の造形活動を立案する						120分	
	4	身近な素材を用いた総合的な表現活動を考案する。 ③3歳、4歳、5歳の表現活動を立案する						60分	
	5	①②③を保育の現場(遊びの広場)で実施する。				活動の振り返り記録をまとめる。		60分	
	6	実践した活動の振り返りをグループワークを通してディスカッションをする。						60分	
	7	子どもの姿を通し、領域「表現」と「幼児期に育ってほしい10の姿」を具体的に関連付け、幼稚園教育要領のねらい、内容、を理解する。				事前に内容に適した著書を調べる。		60分	
	8	エピソードや著書を通し、乳幼児の心情・認識・思考について考察し、領域「表現」の内容の指導上の留意点について理解する。				事前に内容に適した著書を調べる。		60分	
	9	5歳児の造形活動の模擬保育 ①指導案を作成する。				実践した活動の振り返りをファイルにまとめておく			
	10	5歳児の造形活動の模擬保育 ②指導案をもとに準備を進める。						60分	
	11	5歳児の造形活動の模擬保育 ③模擬保育の展開						60分	
	12	実践した活動の振り返りをグループワークを通してディスカッションをする。				実践した活動の振り返りをファイルにまとめておく。			
	13	実践した活動の振り返りのディスカッションを通して保育の質を高める視点をさぐり、活動のスキルを身に付ける。						120分	
	14	実技試験「けん玉」				実技試験ぬに向けて、練習に取り組む。		60分	
15	まとめ 指導案作成や実践を通して「表現」の授業を振り返り、幼児理解に基づいた視点から保育構想の向上について語り合う。								
成績評価の方法	課題提出(60%)、実技試験(20%)、ファイル含む授業態度(20%)								
課題のフィードバック	実技試験の評価を希望者に伝える。提出されたレポートにコメント記入して返却する。								
テキスト	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」適宜、資料を配布する。								
参考文献・資料	「保育用語辞典」								

科目名	子どもと健康		科目コード	1ES029	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	蛭田 一美		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				幼稚園教諭免許、保育士資格を有し現場経験のある教員が、領域「表現」について指導する。					
授業のねらいと概要	領域「健康」は幼児期の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養い園生活の中で、自己を十分に発揮し、充実感や満足感を味わうことを目指すものである。幼稚園教育要領の示されている領域「健康」の内容を踏まえ、保育現場で必要となる幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、運動発達等を学び、指導力の基礎となる知識や技術を習得する。								
到達目標	(1) 幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい、内容を理解することができる。 (2) 幼児期の健康課題と発達の意味を理解する。 (3) 乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣について理解を深めることができる。乳幼児期の (4) 乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○		○	○		○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーション 保育の基本と「子どもと健康」				子どもとかかわったエピソードを記録し振り返る			
	2	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい、および内容を理解する。				領域「健康」をノートに記述する		60分	
	3	乳幼児期の健康課題 乳児の健康課題について				授業内容を復習する		60分	
	4	乳幼児期の健康課題 幼児の健康課題について				授業内容を復習する		60分	
	5	乳幼児期の生活習慣 乳児の生活習慣について (排泄・睡眠・食事)				子どもとかかわったエピソードを記録し振り返る		60分	
	6	幼児期の生活習慣 幼児の生活習慣について (着脱衣・食事)				子どもとかかわったエピソードを記録し振り返る		60分	
	7	乳幼児の身体的な発達の特徴 乳児の身体的な発達の特徴を実習の場面から考える				授業内容を復習する		60分	
	8	乳幼児の身体的な発達 幼児の身体的な発達を捉えた運動遊びを考える				授業内容を復習する		60分	
	9	日常生活の中での運動遊び				授業内容を復習する		60分	
	10	運動遊びの実際 1				課題についてまとめる		60分	
	11	運動遊びの実際 2				課題についてまとめる		60分	
	12	運動遊びの実際 3				課題についてまとめる		60分	
	13	運動遊びの実際 4				課題についてまとめる		60分	
	14	乳幼児期の健康課題についてグループディスカッションする				グループディスカッションを通して自分の考えをまとめる		60分	
	15	まとめ				課題についてまとめる		60分	
成績評価の方法		課題提出(50%)、リフレクション及びファイル(30%)、授業態度(20%)							
課題のフィードバック		提出された課題について評価して返却する							
テキスト		なし 授業の際に適宜配布する。							
参考文献・資料		「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」適宜、資料を配布する。							

科目名	子どもと人間関係		科目コード	1ES091	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	保坂 和貴		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				教育委員会等が主催する幼稚園教諭・保育士のキャリアアップ研修(初任者研修・園内研修リーダー講習等)の指導経験のある教員が、領域「人間関係」における指導の方向性を考察できるように指導する。					
授業のねらいと概要	乳幼児期の子どもの人とのかかわり、人間関係の具体的なあり方を、その育ちと学びから理解するとともに、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される領域「人間関係」の内容を保育の基本や他の領域との関連のなかで批判的に思考し理解を深める。それらを通して保育を構想するための基礎的知識・技能を身につけることを目的とする。								
到達目標	(1) 子どもを取り巻く「人間関係」をめぐる現代的課題を理解する。 (2) 関係論的視点から乳幼児期における子どもの生活と発達を理解する。 1) 乳児期に育つ人とかかわる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。 2) 幼児期の遊びや生活の中で育つ人とかかわる力の発達について、保育者との関係、幼児との関係、集団の中での育ちの観点から説明できる。 3) 自立心の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 4) 協同性の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 5) 道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿と合わせて説明できる。 6) 家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○		○	○		○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーション：保育の基本と「子どもと人間関係」				実習等で印象に残っている子どものエピソードをまとめておく		60分	
	2	人とかかわりが育つ道筋①：乳児期の人間関係				リフレクション・シートに授業の内容およびグループワーク・ディスカッションの内容を振り返って考察し記述する		60分	
	3	人とかかわりが育つ道筋②：幼児期の人間関係				リフレクション・シートに記述する		60分	
	4	遊びのなかで育つ人とかかわり①：自発的活動としての遊び				リフレクション・シートに記述する		60分	
	5	遊びのなかで育つ人とかかわり②：保育者の援助の意味				リフレクション・シートに記述する		60分	
	6	ひとりの子どもと集団の育ち				リフレクション・シートに記述する		60分	
	7	人とかかわりを育てる保育の実践①：エピソードを描いて考察する				これまでの内容を踏まえエピソードを記述する		60分	
	8	人とかかわりを育てる保育の実践②：エピソード・カンファレンス				これまでの内容を踏まえエピソードを記述する		60分	
	9	いざこざやケンカが育むもの				リフレクション・シートに記述する		60分	
	10	道徳性・規範意識の芽生えと育ち				リフレクション・シートに記述する		60分	
	11	集団の育ちと個の育ち：個と共同性をめぐって				リフレクション・シートに記述する		60分	
	12	さまざまな生活のなかで育つ人間関係：園で生活することの意味				リフレクション・シートに記述する		60分	
	13	幼児期から児童期にかけての人とかかわり：幼保小連携・接続をめぐって				リフレクション・シートに記述する		60分	
	14	子どもを取り巻く社会的環境：家族・園・地域社会				リフレクション・シートに記述する		60分	
	15	まとめ：人と人とかかわりを育むことの意味				自らを振り返り、保育者としての課題についてまとめる		60分	
成績評価の方法		レポート(20%)、各回のリフレクション課題(60%)、授業内課題(20%)							
課題のフィードバック		各回の事後学習として実施するリフレクションシートの内容にコメントを記入し返却する							
テキスト		なし 授業の際にプリントを配布する							
参考文献・資料		森上史朗・今井和子(1992)集団ってなんだろう：人とかかわりを育む保育実践 ミネルヴァ書房 森上史朗・小林紀子・渡辺英則編(2009)保育内容「人間関係」(最新保育講座8) ミネルヴァ書房 鯨岡峻・鯨岡和子(2007)保育のためのエピソード記述入門 ミネルヴァ書房							

科目名	子どもと環境		科目コード	1ES092	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	佐々木 啓子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				幼稚園教諭免許、保育士資格を有し現場経験のある教員が、領域「環境」における指導の方向性を考察できるように指導する。					
授業のねらいと概要	子どもの発達には子どもを取り巻く様々な環境との関わりが重要となる。子どもの発達にとって環境がどのような意味をもつのかを理解し、ふさわしい環境を構成するための知識や技能を身につける。また、自然観察や自然体験等の体験を通して、子どもと身近な環境との関わり方の発達等について理解を深める。								
到達目標	(1) 子どもを取り巻く環境の諸側面(物的環境、人的環境、社会環境、安全等)と、子どもの発達におけるそれらの重要性について説明できる。 (2) 子どもと環境とのかかわり方について専門的概念(能動性、好奇心、探究心、有能感等)を用いて説明できる。 (3) 体験を通して、子どもの発達にとって適切な環境を考えることができる。 (4) 幼児期の認知発達の特徴と筋道を説明できる。 (5) 子どもの数量・図形との関わり、生物・自然との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。 (6) 子どもを取り巻く標識・文字、生活に関係の深い情報・施設への興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。 (7) 児童文化財や地域の環境資源を活用した保育の意義について理解する。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○		○		○	○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	子どもを取り巻く環境Ⅰ 物的環境・人的環境・社会環境・自然環境のもつ意味				(事前)4つの環境について調べる (事後)幼稚園教育要領の領域「環境」の部分を読み、重要と思う箇所を書き出す		(事前)60分 (事後)60分	
	2	子どもを取り巻く環境Ⅱ 園生活の中で様々な環境と触れ合う重要性				(事前)園特有の環境(子どもにふさわしい環境)を考え、書く (事後)実習で観察した物的環境を書き出し、その意味について考える		(事前)60分 (事後)60分	
	3	身近な自然との関わり 自然環境を活用した遊び「ネイチャージョゲーム」				(事前)ネイチャージョゲームについて調べる(事後ネイチャージョゲームの中から1つを選び、その活動の流れを考え、書く		(事前)60分 (事後)60分	
	4	身近な自然との関わり 【グループワーク】「おさんぽビンゴ」				(事前)「フィールドビンゴ」について調べる (事後)自然と関わる活動について調べる		(事前)60分 (事後)60分	
	5	身近な自然との関わり 【グループワーク】「おさんぽビンゴ」カード作成				(事前)「おさんぽビンゴ」カードの項目を考える (事後)課題を完成、提出する		(事前)60分 (事後)60分	
	6	身近な自然との関わり 敷地内で「おさんぽビンゴ」の実践				(事前)作成したカードをグループで見合い、確認する (事後)グループワークのふりかえりをする		(事前)60分 (事後)60分	
	7	子どもを取り巻く環境Ⅲ 保育の中に自然体験を取り入れる意味				(事前)季節ごとの遊びを書き出す (事後)遊びを通じた、子どもと四季の関わりについてまとめる		(事前)60分 (事後)60分	
	8	園内・園庭の環境Ⅰ 日常生活の中にある標識・表示・マークへの関心				(事前)学内にある標識や表示、マークを探し、記録する (事後)それぞれの標識やマークの意味や役割について考える		(事前)60分 (事後)60分	
	9	園内・園庭の環境Ⅱ 遊びや生活の中での文字・数量の取り扱い				(事前)実習経験の中から、文字や数量に関わって遊ぶ事例を書く (事後)子どもがどのように文字や数量への興味を深めるのかを考え、まとめる		(事前)60分 (事後)60分	
	10	健康・安全を意識した環境 健康・安全のための掲示ポスターのデザイン				(事前)健康・安全な生活のための掲示物製作に向けてテーマを考える (事後)健康・安全な生活のための表示や標識の役割をまとめる		(事前)60分 (事後)60分	
	11	健康・安全を意識した環境 健康・安全のための掲示ポスターの製作				(事前)掲示製作に必要な材料や道具を準備する (事後)課題を完成、提出する		(事前)60分 (事後)60分	
	12	文化財の活用 【グループワーク】絵本ライブ(絵本選び、役割・担当決め)				(事前)「絵本ライブ」に使用する絵本を選ぶ (事後)「絵本ライブ」発表会に向けて、グループで準備する		(事前)60分 (事後)60分	
	13	文化財の活用 【グループワーク】絵本ライブ(音づくり、読み合わせ)						(事前)60分 (事後)60分	
	14	文化財の活用 【グループワーク】絵本ライブ(音づくり、読み合わせ)						(事前)60分 (事後)60分	
	15	文化財の活用 【グループワーク】絵本ライブグループ発表)				(事前)「絵本ライブ」発表の準備をする (事後)グループでふりかえりをする		(事前)60分 (事後)60分	
成績評価の方法	提出課題・レポート(50%)、グループワークへの取り組み(30%)、授業態度(20%)								
課題のフィードバック	提出された課題・レポートにコメントをつけて返却する								
テキスト	特になし								
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説書』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』(フレーベル館)								

科目名	子どもと言葉		科目コード	1ES093	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	大原 かおり		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				中高(国語)教員免許(専修)を有し現場経験のある教員が、社会人・保育者として必要な日本語の知識や技能を解説する。					
授業のねらいと概要	領域「言葉」の基盤となる子どもにとっての言葉の役割や子どもの言葉に対する感覚、言葉で表現する力を養うための基礎的な知識を学び、演習を通してその効果を体感し実践につなげる力を身につける。								
到達目標	(1)人間にとっての言葉の働きを理解する 1)人間にとっての言葉の意義や機能を理解する 2)言葉を育む保育者の専門性を理解する (2)言葉に対する感覚や言葉で表現する力を育む意義を理解する 1)言葉に対する感覚を豊かにするための活動を通して、自らの言葉の感覚を理解する 2)言葉で表現する力を養う活動を通して、自他の言葉の感覚を理解する (3)児童文化財(童話・昔話・絵本)の意義を理解する 1)児童文化財について、基礎的な知識を身につける 2)児童文化財を効果的に活用する方法を工夫する								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	オリエンテーション —領域「言葉」を学ぶために必要なこと				【事前】シラバスを確認する。 【事後】配付資料等を見直す。			各60分
	2	人間(ヒト)にとっての言葉 —言葉の働きと役割				【事後】配付資料等を見直す。			60分
	3	言葉に対する感覚を豊かにする1 —感覚を豊かにするオノマトペ				【事後】配付資料等を見直す。			60分
	4	言葉に対する感覚を豊かにする2 —流行言葉を伝えるように表現する				【事後】配付資料等を見直す。			60分
	5	言葉遊び1 —言葉遊びのいろいろ				【事後】配付資料等を見直す。			60分
	6	絵本の特徴 —絵本の構造・機能				【事後】配付資料等を見直す。			60分
	7	言葉遊び2 —しりとり絵本制作①				【事後】配付資料等を見直し、絵本のことばや絵の構図について考える。			20分
	8	言葉遊び3 —しりとり絵本制作②				【事後】しりとり絵本を完成させる。			60分
	9	言葉遊び4 —しりとり絵本読み聞かせ				【事前】効果的な読み聞かせができるよう練習する。			60分
	10	子どもの本の言葉事情 —明治時代の児童文学作品にみられる子ども観				【事後】配付資料等を見直す。			60分
	11	昔話の特徴 —昔話によくある表現・設定				【事後】配付資料等を見直す。			60分
	12	グリム童話をよむ1 —完訳版「白雪姫」を読む				【事前】配付資料を読む。 【事後】配付資料やディスカッションを振り返る。			各60分
	13	グリム童話をよむ2 —絵本「白雪姫」をよむ(グループ活動)				【事前】配付資料を見直す。			60分
	14	グリム童話をよむ3 —絵本「白雪姫」をよむ(グループ活動)				【事前】童話の絵本化について自分の考察をまとめておく。			60分
	15	グリム童話をよむ —童話の絵本化に関する考察(グループ発表)				【事前】グループ発表に備えて準備をする。 【事後】グループ発表を振り返り、昔話や絵本の特徴を再確認する。			各60分
成績評価の方法	提出課題(80%)、授業態度・意欲(20%)								
課題のフィードバック	適宜、点検評価をして返却する。								
テキスト	適宜、資料を提示するか、配布をする。								
参考文献・資料	適宜、資料を提示するか、配布する。								

科目名	子どもと表現		科目コード	1ES094	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	蛭田・東海林・鎌田		担当形態	オムニバス	単位数	1	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				現場経験のある教員が、領域「表現」について指導する。					
授業のねらいと概要	領域「表現」は、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることを目指すものである。保育現場で必要となる音楽表現・身体表現・造形表現の方法について学び、指導力の基礎となる知識や表現力を修得する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽表現 (1) 子どもの音楽表現について考察し理解できる。 (2) 教育実習を通し子どもの音楽表現活動に気づき、理解を深めることができる。</li> <li>○身体表現 (1) 子どもの身体表現について考察し理解できる。 (2) 演習を通して子どもの身体表現活動に気づき理解を深めることができる。</li> <li>○造形表現 (1) 子どもの造形表現について考察し理解できる。 (2) 演習を通して子どもの造形表現活動に気づき、理解を深めることができる。</li> </ul>								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーション 領域「表現」のねらい及び内容について理解する。				『幼稚園教育要領』等について確認する。		30分	
	2	乳児と造形～講義と演習				『幼稚園教育要領』等や造形表現活動に関する著書等から事前に調べて臨むこと。		60分	
	3	素材と造形～講義と演習						60分	
	4	対話と造形～講義と演習						60分	
	5	自然と造形～講義と演習						60分	
	6	子どもの豊かな感性と表現①				『幼稚園教育要領』等の該当する内容について確認し、理解する。		30分	
	7	子どもの豊かな感性と表現②						30分	
	8	実習で見つける子どもの音楽表現活動①				グループでの話し合いの内容についてまとめる。レポートを作成する。		60分	
	9	実習で見つける子どもの音楽表現活動②						60分	
	10	実習で見つける子どもの音楽表現活動③ レポート提出						60分	
	11	身体表現とは何かを理解する。				表現遊びの題材となる教材やテーマを、事前に著書等から調べて臨むこと。		60分	
	12	乳幼児の生活やエピソードを通し、身体表現の捉え方を学ぶ						60分	
	13	グループでテーマ(絵本等)に基づき身体表現活動を行う①						60分	
	14	グループでテーマ(絵本等)に基づき身体表現活動を行う②						60分	
15	領域「表現」についてまとめ 確認テスト～ねらい及び内容について理解できている。				『幼稚園教育要領』等についての理解を確認する。		60分		
成績評価の方法	授業への参加態度・意欲(20%)、実技(40%)、レポート(20%)、確認テスト(20%)								
課題のフィードバック	レポート課題・作品展示・確認テストは内容を確認し返却する								
テキスト									
参考文献・資料	文部科学省：『幼稚園教育要領』、厚生労働省：『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(以上 フレーベル館)								

科目名	教育制度		科目コード	1EL032	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者	古内 一樹		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				中・高の教員免許を有し、教育行政に関わった経験のある教員が、教育に関する制度、経営的事項について解説する。					
授業のねらいと概要	教育に関する制度、経営的事項について、多面的に考察するとともに、園・学校と地域の連携や園・学校の安心・安全への対応などの現代的な教育課題について学修する。授業中の話し合いや発表、課題レポートにおける考察や分析等の活動をととして、主体的・対話的で深い学びを得る。								
到達目標	(1) 現代公教育制度の意義・原理・構造等について、法的・制度的仕組みに関する基礎知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解している。 (2) 園・学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営的観点から理解している。 (3) 園・学校の保護者及び地域との連携の意義や地域との協働の在り方について、様々な事例を踏まえて理解している。 (4) 園・学校の管理下で発生する事件・事故及び災害の実情を踏まえ、学校保健安全法等に基づく教職員の使命感・責任感を含む園・学校安全の目的と具体的な取組を理解している。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	教育・保育に関する制度的事項(1) 公教育の原理と理念				授業の振り返りを資料に記録する。		90分程度	
	2	教育・保育に関する制度的事項(2) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法との関わりの要点				授業の振り返りを資料に記録する。		90分程度	
	3	教育・保育に関する制度的事項(3) 教育公務員特例法、地方公務員法との関わりの要点				授業の振り返りを資料に記録する。		90分程度	
	4	教育・保育に関する制度的事項(4) 児童の権利に関する条約、児童福祉法との関わりの要点				授業の振り返りを資料に記録する。		90分程度	
	5	教育・保育に関する制度的事項(5) 教育行政と教育委員会制度の仕組みと要点				授業の振り返りを記録し、復習課題をやる。		90分程度	
	6	教育・保育に関する経営的事項(1) 教育・保育施設の目的と機能				授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。		90分程度	
	7	教育・保育に関する経営的事項(2) 園の組織と運営				授業の振り返りを資料に記録する。		90分程度	
	8	教育・保育に関する経営的事項(3) 学校評価の在り方と活用－自己評価、学校関係者評価、第三者評価				授業の振り返りを資料に記録する。		90分程度	
	9	教育・保育に関する経営的事項(4) 学級経営とその効果的な方法－「おたより」を通じた保護者との連携				授業の振り返りを資料に記録する。		90分程度	
	10	教育・保育施設と地域との連携(1) 「開かれた園・学校づくり」のために－「社会に開かれた教育課程」と「チームとしての学校」				授業の振り返りを資料に記録する。		90分程度	
	11	教育・保育施設と地域との連携(2) 地域との連携・協働による園・学校教育活動の推進の具体例				授業の振り返りを記録し、復習課題をやる。		90分程度	
	12	教育・保育施設における安全・安心への対応(1) 危機管理の全体像と生活安全への対応				授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。		90分程度	
	13	教育・保育施設における安全・安心への対応(2) 災害安全への対応と保育者・教員の使命感・責任感				授業の振り返りを記録し、予習課題をやる。		90分程度	
	14	教育・保育に対する期待と課題(1) いじめを考察する				授業の振り返りを資料に記録する。		90分程度	
	15	教育・保育に対する期待と課題(2) 幼児教育・保育への期待と課題				授業の振り返りを資料に記録する。		90分程度	
成績評価の方法	定期試験(60%)、5回の課題レポート及び毎時の授業資料への振り返り(30%)、授業態度・意欲(10%)								
課題のフィードバック	5回の課題レポートにコメントして返却。2度のファイル点検時に授業資料への振り返りにもコメントして返却する。								
テキスト	パワーポイントと配付する授業資料を使用する。A4版の綴じ込み用ファイルを準備すること。								
参考文献・資料	『幼稚園教育要領(最新版)』、『保育所保育指針(最新版)』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)』、その他適宜紹介する。								

科目名	教育課程・保育の計画と評価		科目コード	1EL035	必修・選択	必修	授業形態	講義
担当者	猿田 興子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性			幼稚園教諭免許、保育士資格を有し現場経験のある教員が、教育・保育施設で編成される教育課程や全体的な計画について指導する。					
授業のねらいと概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基準として各保育施設において編成される教育課程や全体的な計画について、その意義や編成内容を理解するとともに、各幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園や乳幼児の実情に合わせてカリキュラムマネジメントを行うことの意義を理解する。							
到達目標	<p>(1) 教育課程・全体的な計画編成の基本原則及び保育実践に即した教育課程・全体的な計画編成の方法を理解できている。</p> <p>(2) 幼稚園教育要領、保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改定の変遷及び適切な保育内容並びにその社会的背景を理解している。</p> <p>(3) 教育課程・全体的な計画が社会において果たしている役割や機能を理解している。</p> <p>(4) 対象児各年齢におけるカリキュラムを把握し、保育全体をマネジメントする重要性を知り取り組もうとする。</p> <p>(5) カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解し、活かそうとする。</p>							
DPとの関連	人間性		専門性			社会性		
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力
			○	○	○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)
	1	幼稚園・保育所・認定こども園教育の教育課程・全体的な計画の役割・機能・意義について～要領・指針から教育・保育課程の目的を探る～				事前：シラバスを読む 事後：配付資料を確認する		事前80分 事後120分
	2	幼稚園・保育所・認定こども園教育の教育課程・全体的な計画の役割・機能・意義について～幼児の生活や発達の特徴を捉え、教育・保育課程の連続性と一貫性について学ぶ～				事前：配布資料を読む 事後：課題に取り組む		事前80分 事後120分
	3	教育課程・全体的な計画を基本とした指導計画作成について～要領・指針の内容(資質・能力の三つの柱、5領域、10の姿の方向生から)を深める～				事前：教科書を読んでおく 事後：指導案作成に取り組む		事前80分 事後120分
	4	教育課程・全体的な計画を基本とした指導計画作成について～指導計画の具体的な項目と内容を学ぶ～				事前：教科書を読んでおく 事後：指導案作成に取り組む		事前80分 事後120分
	5	指導計画作成の際の配慮事項と記述内容について～子どもの姿・ねらい・内容・環境構成を中心に学び、記述する～				事前：教科書を読んでおく 事後：指導案作成に取り組む		事前80分 事後120分
	6	指導計画作成の際の配慮事項と記述内容について～保育者の援助・配慮点等、保育の見通しと保育用語の特徴を捉える～				事前：教科書を読んでおく 事後：指導案作成に取り組む		事前80分 事後120分
	7	グループ協議(実習後の振り返りと他学生の実践から視野を広げる)～担当した園児の年齢別分かれ指導案とその評価について考える～				事前：実習を振り返っておく 事後：課題に取り組む		事前80分 事後120分
	8	実践や映像を通して学ぶ指導計画と保育の実践について～指導計画と子どもの姿や展開を通して、保育における指導計画の意味を考える～				事前：配付資料を読む 事後：課題に取り組む		事前80分 事後120分
	9	教育課程・全体的な計画と長期の指導計画(幼児の生活や遊ぶ姿を見通すこと)～幼児の発達を見据えた事例を通して学ぶ～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題に取り組む		事前80分 事後120分
	10	教育課程・全体的な計画と長期の指導計画(地域の実態と園の実態を踏まえた編成の意味)～幼児の発達を見据えた事例を通して学ぶ～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題に取り組む		事前80分 事後120分
	11	教育課程・全体的な計画と短期の指導計画(一日の生活の流れを予想した指導計画について)実習体験を生かした事例研究と省察を通して考える				事前：教科書を読んでおく 事後：課題に取り組む		事前80分 事後120分
	12	教育課程・全体的な計画と長期・短期の指導計画 カリキュラムマネジメントについて考える～保育における計画・実践・省察・評価・改善について学ぶ～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題に取り組む		事前80分 事後120分
	13	指導計画と評価について カリキュラムマネジメントについて考える～望ましい保育の展開と子どもの実態を捉える保育者の視点を知る～				事前：教科書を読んでおく 事後：課題に取り組む		事前80分 事後120分
	14	様々な指導計画にふれる～11月幼稚園実習における指導計画作成を実際に考える～				事前：教科書を読んでおく 事後：指導計画作成に取り組む		事前80分 事後120分
	15	まとめとして～これまでの学びを生かした自身の保育を創造する期待と関心を持つ				事前：教科書を読んでおく 事後：課題を完成提出する		事前80分 事後120分
成績評価の方法	定期試験(60%)、レポート・小テスト(30%)、授業態度・意欲(10%)							
課題のフィードバック	定期試験を学びの内容の再確認する機会とし、指導計画を作成、評価で保育実践力向上につなげる							
テキスト	文部科学省：『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』(チャイルド本社)							
参考文献・資料	保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育用語辞典							

科目名	幼児指導法		科目コード	1ES036	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	蛭田 一美		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性									
授業のねらいと概要	幼稚園教育において、育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領に示された5領域のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。 教育の方法及び技術については発達に即しながら情報機器や教材の活用をし、主体的・対話的な学びを実施する。また具体的な指導面を想定した保育の方法を多様な視点から身につける。								
到達目標	(1) 幼稚園教育における育みたい資質能力を育成するために教育方法の基礎的理論と実践を理解することができる。 (2) 幼児教育の目的に適した指導技術を理解し、また実体験を通し身に付けることができる。 (3) 情報機器を活用した業務、保育内容について理解し、活用のスキルを身に付ける。								
DPとの関連	人間性		専門性				社会性		
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○			○	○		○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	インターネットを活用し、近隣の幼稚園や実習園の遊びの特徴や保育内容を調べる。							
	2	様々な遊び・生活の違いを知り、教育方法の在り方についてグループディスカッションしながら考える。				事後にインターネットで調べた情報やGWの内容をノートにまとめる		120分	
	3	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領に示されている保育方法の重要なポイントについて自分なりにまとめ、基礎知識を深める。				事前に3法令の重要なポイントを読んでおく		60分	
	4	直接体験を通して保育方法を実際を知り、幼児の気持ちを理解することの重要性を理解する				事後に、実体験の振り返りをまとめる		60分	
	5	目標・内容・教材・教具・保育展開の視点を含めた保育指導案を作成するための実践的な遊びを展開する。(1) 造形的な遊び				事後に、実体験の振り返りをまとめる		60分	
	6	目標・内容・教材・教具・保育展開の視点を含めた保育指導案を作成するための実践的な遊びを展開する。(2) 運動的な遊び				事後に、実体験の振り返りをまとめる		60分	
	7	目標・内容・教材・教具・保育展開の視点を含めた保育指導案を作成するための実践的な遊びを展開する。(3) 音楽的な遊び				事後に、実体験の振り返りをまとめる		60分	
	8	育みたい資質・能力を育成するためにDVD資料を通して理解する。							
	9	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の項目と5領域の関連付けながら、幼児の発達について理解する。(①～⑤)				事前に①～⑤をノートに記述し、理解できるように読み解く		60分	
	10	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の項目と5領域の関連付けながら、幼児の発達について理解する。(⑥～⑩)				事前に①～⑤をノートに記述し、理解できるように読み解く		60分	
	11	情報機器を活用した保育について ① 保育に取り込むICTとは				保育における事務業務について調べる。 保育ICTシステムを活用した業務のメリットについて調べる。		120分	
	12	情報機器を活用した保育について ② 題材を選択し、保育構想のアイデアを考える							
	13	情報機器を活用した保育について ③ グループディスカッションを行い、情報を共有する。							60分
	14	発達の時期に応じた保育方法について考え、具体的な言葉かけや教材の提示方法など援助の在り方を身に付ける。(入園当初の保育)				事前に援助の在り方について、3法令からノートにまとめておく		60分	
	15	発達の時期に応じた保育方法について考え、具体的な言葉かけや教材の提示方法など援助の在り方を身に付ける。(園生活になれた来た時期の保育)				事前に援助の在り方について、3法令からノートにまとめておく		60分	
成績評価の方法	課題提出(50%)、ノート含む授業態度(50%)								
課題のフィードバック	リフレクションシートは、毎回確認し、必要に応じてコメントを記入する。								
テキスト	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」適宜、資料を配布する。								
参考文献・資料	「保育用語辞典」								

科目名	幼児理解と教育相談		科目コード	1EL037	必修・選択	必修	授業形態	講義	
担当者	武田 留美		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				公認心理師、臨床心理士の資格を有し、現場経験のある教員が、幼児理解に関する内容及びカウンセリングの理論や基本的知識・技能について解説する。					
授業のねらいと概要	幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じる躰き、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。 幼児の発達状況に即しつつ、個々の心理的な特徴や教育的課題を適切に捉え、成長や発達を支援するための基礎知識、保護者を支えるための基礎知識（カウンセリングの理論や基本的知識、技法を含む）を理解する。								
到達目標	(1) 幼児理解の意義及び発達や学びを捉える原理を理解し、幼児理解を深めるための教師の基礎的態度を理解できる (2) 幼児理解の方法を具体的に理解する 1) 観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄の例示ができる 2) 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解し、幼児の躰きを周りの幼児との関係やその背景から推測・理解できる 3) 保護者の心情の理解と基礎的な対応法を理解できている (3) 教育相談の意義と課題を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解できる (4) 教育相談を進める際に必要な基礎知識を理解している 1) 幼児の不応や問題行動の意味、発するシグナルに気づき把握する方法を理解できる 2) カウンセリングマインドの必要性を理解し、受容・傾聴・共感等のカウンセリングの基礎的な姿勢やスキルを身につけることができる (5) 教育相談の進め方やポイント、組織的な取り組みや連携を理解する 1) 教育相談の計画作成や必要な体制の整備など、組織的な取り組みの必要性を理解し、教育相談を行う際の役割に応じた進め方を例示できる 2) 維持・不登園・虐待・非行などの課題に対する幼児の発達段階や課題に応じた教育相談の進め方を理解できる 3) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解できる								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	授業の進め方(オリエンテーション) 教育相談とは何か(教育相談の目的と相談に必要な要素の確認)							
	2	幼児理解の基礎①保育現場での子ども理解の視点(発達の確認)				授業の中で出てきた重要事項、用語を確認する			60分
	3	幼児理解の基礎②様々な発達段階の考え方				1年時から学んでいる発達を振り返って確認し、まとめる			60分
	4	幼児理解の基礎③運動発達、言葉の発達、認知発達				1年時から学んでいる発達を振り返って確認し、まとめる			60分
	5	幼児理解の基礎④子ども理解の方法(目的に応じた観察の視点と観察法、記録の意義)				授業の中で出てきた重要事項、用語を確認する			60分
	6	幼児理解の基礎⑤子ども相互の関わりと関係づくり、集団での育ち				授業の中で出てきた重要事項、用語を確認する			60分
	7	教育相談の理論及び方法①教育相談の意義や課題、実際の教育相談の場で用いられている心理療法の視点の理解				授業の中で出てきた重要事項、用語を確認する			60分
	8	教育相談の理論及び方法②教育相談を行う際の基本的な場の設定方法や姿勢、受容、共感的態度をワークを通して理解する				実際の相談場面で大切にしたいことをまとめる			60分
	9	職員間の対話、保護者との情報共有				授業の中で出てきた重要事項、用語を確認する			60分
	10	気になる子ども、配慮を必要とする子どもの理解と対応①インクルーシブ保育と合理的配慮、保護者への対応				授業の中で出てきた重要事項、用語を確認する			60分
	11	気になる子ども、配慮を必要とする子どもの理解と対応②発達の遅れや偏りのある子の理解、子どもの心身に現れる不安への理解と対応				気になる子どもの特徴を確認し、まとめる			60分
	12	虐待①虐待の現状と虐待に関連する法律、虐待の種類を理解				虐待の内容・重要な法律に関して復習する			60分
	13	虐待②被虐待児の行動特徴と対応の注意点、関係機関との連携について考える				対応の注意点と関係機関との連携を確認する			60分
	14	就学支援を考える(就学時のこどもの躰き、就学へのスムーズな移行のために保育現場でできること)				授業の中で出てきた重要事項を確認する。試験に向けてこれまでの授業を振り返る。			60分
	15	地域における子育て支援と連携、災害時の援助と心身の健康				授業の中で出てきた重要事項を確認する。試験に向けてこれまでの授業を振り返る。			60分
成績評価の方法		定期試験(75%)、授業内のワークや話し合いへの参加・取り組み姿勢(20%)、提出課題(5%)							
課題のフィードバック		提出課題は確認後、返却する 筆記試験は採点后、返却する							
テキスト		なし(適宜、プリントを作成し配布する) 参考文献・絵本等に関しては授業内で適宜提示し、取り扱う							
参考文献・資料		馬場禮子、青木紀久代編『保育に生かす心理臨床』(ミネルヴァ書房) 下山晴彦編『よくわかる臨床心理学』(ミネルヴァ書房) 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』							

科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)		科目コード	1ES038	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	古内 一樹・猿田 興子		担当形態	オムニバス	単位数	2	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性									
授業のねらいと概要	これまでの教育・保育専門科目の履修を振り返り、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能等を補い実践的指導力向上を目指す。使命感や対人関係能力、幼児理解、保育内容の指導力向上を目的とした方法などについて、事例研究やグループ討議、調査、実技、模擬授業などを通して学ぶ。								
到達目標	(1)保育者の専門性、保育に対する使命感と責任感、情熱等を持ち、目指す保育者像を持って学んでいる。 (2)幼児理解に基づいたクラス運営、保育内容の指導とその評価に関する知識や技能の重要性を理解し、今後の保育実践に活かすことができる。 (3)全国保育士倫理綱領から、保育者としての倫理を学び、理解できている。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○		○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーション(本科目の目標と計画、担当者等について説明)～これまでの学修の振り返り(学修を振り返り、各科目の状況を把握する)				事前：シラバスを読んでおく 事後：課題完成を目指す		各90分	
	2	保育における子ども理解の方法を探り、指導計画作成する力を身につける～子どもの発達過程の特徴と、適切な環境と援助について～				事前：指導計画について 事後：指導計画完成を目指す		各90分	
	3	保育における子ども理解の方法を探り、指導計画作成する力を身につける～子どもの生活における基本的な生活習慣について～				事前：指導計画について 事後：指導計画完成を目指す		各90分	
	4	保育における子ども理解の方法を探り、指導計画を作成する力を身につける～子どもの遊びを理解する重要性について～				事前：指導計画について 事後：指導計画完成を目指す		各90分	
	5	保育における子ども理解の方法を探り、指導計画を作成する力を身につける～子どもを中心とした人間関係について～				事前：指導計画について 事後：指導計画完成を目指す		各90分	
	6	幼児理解につながるカンファレンスを実践する～学生間のディスカッションと幼児理解をテーマにしたカンファレンス体験～				事前：実習の振り返りをする 事後：課題完成を目指す		各90分	
	7	幼児理解につながるカンファレンスを実践する～実習振り返り「ゆりかご」作成を通して考察する～				事前：実習の振り返りをする 事後：課題完成を目指す		各90分	
	8	子ども理解と省察・記録・評価の意義を理解する～保育専門職に必要な使命感や責任感、愛情等について学ぶ～				事前：実習の振り返りをする 事後：課題完成を目指す		各90分	
	9	保育者として倫理を理解し、使命感や責任感、教育的愛情について考える～保育専門職の基本を理解し、外部講師から学ぶ～				事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す		各90分	
	10	保育実践力・指導力の向上につながる実践的学びをする～保育における運動遊び、遊びの充実を実践から学ぶ～				事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す		各90分	
	11	保育実践力・指導力の向上につながる実践的学びをする～保育における造形・表現の指導について美術館見学において学ぶ～				事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す		各90分	
	12	社会的・対人関係能力等のスキルアップを求めて講義・グループ討議を行う～上司・同僚との望ましい人間関係につながるスキル(事例についてグループ討議)～				事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す		各90分	
	13	社会的・対人関係能力等のスキルアップを求めて講義・グループ討議を行う～保護者との望ましい人間関係につながるスキル(事例についてグループ討議)～				事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す		各90分	
	14	これからの幼児教育・保育について学びを深める～保育者の専門性と倫理について～				事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す		各90分	
	15	幼児理解とクラス運営について考える～クラス運営を中心に、自身の保育者像につなげて考える～				事前：配付資料を読む 事後：自己評価課題記述		各90分	
成績評価の方法	提出課題・振り返り等(70%)、授業態度・意欲(30%)								
課題のフィードバック	各担当者の指示に従った提出課題・振り返りが採点后、まとめられ評価となる。これまでの学びを確認しながら参加する。課題に丁寧に取り組み、提出を怠らないこと。								
テキスト	随時、プリントや資料等を配布する								
参考文献・資料	必要に応じて伝達予定(幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領)等								

科目名	子ども家庭支援論		科目コード	1EL045	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	講義	
担当者	藤原 法生		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				福祉に関する資格を有し専修学校で指導経験のある教員が、家族の福祉の実現のために保育士が果たすべき役割について説明する。					
授業のねらいと概要	様々な課題を抱えながらも幸せな生活を築こうとする現代の家族の実態と家族を取り巻く状況について理解する。家族の福祉の実現のための支援体制や支援方法について具体的に理解する。また、家族の福祉の実現のために保育士が果たすべき役割についても理解する。家族や家庭に関する身近な情報を活用し、ディスカッション等を含み具体的な学びができるような授業構成とする。								
到達目標	(1) 子育て家庭に対する支援の意義と目的を理解している (2) 保育士による子ども家庭支援の意義について理解している (3) 子育て家庭に対する支援体制について理解している (4) 子育て家庭に対する支援の具体的な展開について理解している								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○			○	○		○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	家族・家庭の定義と意義・機能				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	2	子育て家庭への支援の意義と目的				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	3	子育て家庭を取り巻く状況 家族の形態と家族に起こる問題の変容(ディスカッションを含む)				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	4	子育て家庭を取り巻く状況 地域と家族に起こる問題の変容(ディスカッションを含む)				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	5	子育て家庭を取り巻く状況 現代の家族の姿とそこに起こる諸問題				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	6	子育て家庭を取り巻く状況 支援を必要とする人とその支援の実際				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	7	保育士による子ども家庭支援 支援における保育士の役割				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	8	保育士による子ども家庭支援 保育士に求められる基本的態度				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	9	保育士による子ども家庭支援 家庭の状況に応じた支援				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	10	子育て家庭に対する支援体制 社会資源(グループワークを含む)				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	11	子育て家庭に対する支援体制 秋田県の子ども家庭支援の実態				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	12	子育て家庭支援の具体的展開 ケース別対応(DV)				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	13	子育て家庭支援の具体的展開 ケース別対応(児童虐待)実態と法整備				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	14	子育て家庭支援の具体的展開 ケース別対応(児童虐待)具体的援助方法				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
	15	子育て家庭支援の具体的展開 ケース別対応(障害児をもつ家庭)、関係機関とその連携				事後：教科書・ノート等を読み、学習内容を再確認する		60分	
成績評価の方法	定期試験(70%)、授業への参加態度・提出課題(30%)								
課題のフィードバック	定期試験(筆記試験)は採点后に返却する								
テキスト	吉田真理 著：『児童の福祉を支える 子ども家庭支援論』(萌文書林) ミネルヴァ書房編集部 編：『社会福祉小六法2025』(ミネルヴァ書房)								
参考文献・資料	必要に応じて提示する								

科目名	子ども家庭支援の心理学		科目コード	1EL047	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	講義	
担当者	保坂 和貴		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				教育委員会等が主催する幼稚園教諭・保育士のキャリアアップ研修(初任者研修・園内研修リーダー講習等)の指導経験のある教員が、「子ども家庭支援の心理学」における指導の方向性を考察できるように指導する。					
授業のねらいと概要	1. 生涯発達に関して心理学的な基礎知識を学ぶ。 2. 家族と家庭の意義や機能や子育てで家庭をめぐる社会的状況と課題について理解する。 3. 子どもの精神保健とその課題について理解する。								
到達目標	(1) 生涯発達に関する心理学的な基礎知識を学ぶ。 (2) 家族・家庭の意義や機能について理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 (3) 子育てで家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 (4) 子どもの精神保健とその課題について理解する。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○		○	○		○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	オリエンテーション：なぜ生涯発達を学ぶのか				実習等で印象に残っている子どものエピソードをまとめておく			60分
	2	妊娠期から乳児期前半：親子の出会いと愛着の始まり				乳児期の子どもの姿や保育者の関わりについて実習での経験を振り返っておく。授業後はリフレクションシートに記述する。			60分
	3	乳児期後半：アタッチメントの確立と保育の開始(社会の中の子ども)				アタッチメントに関連する子どもの姿を実習から思い出しておく。授業後はリフレクションシートに授業内容およびディスカッションの内容を記述する。			60分
	4	1-2歳：イヤイヤ期と自我の育ち(家庭の中の子ども)				1-2歳の自己主張の姿について実習での経験を振り返っておく。授業後はリフレクションシートに記述する。			60分
	5	2-3歳：自立への挑戦と養育者の葛藤(母親の育児ストレス)				保護者との関わりで印象に残っていることをまとめておく。授業後はリフレクションシートに授業内容およびディスカッションの内容を記述する。			60分
	6	3歳児の発達と保育：集団での育ちと家庭との連携				3歳児クラスでの実習経験を振り返り、観察したいポイントを考えておく。授業後はビデオから学んだことをリフレクションシートに記述する。			60分
	7	4歳児の発達と保育：仲間関係と保育者の援助				4歳児クラスでの実習経験を振り返り、観察したいポイントを考えておく。授業後はビデオから学んだことをリフレクションシートに記述する。			60分
	8	5歳児の発達と保育：協同性と就学に向けた支援				5歳児クラスでの実習経験を振り返り、観察したいポイントを考えておく。授業後はビデオから学んだことをリフレクションシートに記述する。			60分
	9	学童期・青年期・成人期・老年期：発達の連続性と世代間関係				自分自身の学童期・青年期を振り返り、親子関係の変化について考えておく。授業後はリフレクションシートに授業内容およびディスカッションの内容を記述する。			60分
	10	親になる過程と親としての育ち：ライフコースと仕事・子育ての両立				実習で出会った保護者の姿を思い出し、親としての育ちについて考えておく。授業後はリフレクションシートに記述する。			60分
	11	地域における子育て支援の実際：保育所・地域子育て支援拠点				実習先での子育て支援の取り組みについて振り返っておく。授業後はリフレクションシートに授業内容およびディスカッションの内容を記述する。			60分
	12	多様な家庭の理解：ひとり親、ステップファミリー、文化的多様性				多様な家庭の経験を思い出しておく。授業後はリフレクションシートに記述する。			60分
	13	特別な配慮を要する家庭への支援：貧困、虐待、障碍				多様な家庭の経験を思い出しておく。授業後はリフレクションシートに記述する。			60分
	14	子どもの精神保健：現代的課題				気になる子どもの姿や行動について実習での経験を振り返っておく。			60分
	15	まとめ：子ども家庭支援における保育者の専門性				これまでの授業を振り返り、子ども家庭支援について自分の考えをまとめておく。			60分
成績評価の方法	レポート(20%)、各回のリフレクション課題(60%)、授業内課題(20%)								
課題のフィードバック	各回の事後学習として実施するリフレクションシートの内容にコメントを記入し返却する								
テキスト	なし 授業の際にプリントを配布する。								
参考文献・資料	小田豊・神長美津子監修(2004)3年間の保育記録①～④ 岩波映像株式会社 常田美穂・辰巳裕子・北川裕美子・吉井鮎美(編者)(2021) 子ども家庭支援の心理学：子どもの未来を支える家庭支援のあり方を探る ひとなる書房								

科目名	保育内容総論		科目コード	1ES051	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	演習	
担当者	佐々木 啓子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				保育士資格を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、保育内容についての基本的な考え方について指導する。					
授業のねらいと概要	幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている保育内容について基本的な考え方への理解を深めるとともに、子どもに関わる専門職という役割を理解する。保育に対する幅広い視野をもち、保育の各分野に関する専門知識・技能などを身につける。								
到達目標	(1) 乳幼児期の保育における見方・考え方について、具体的な事例を挙げて説明できる。 (2) 遊びを通して総合的な指導の意義と保育者の役割が説明できる。 (3) 子どもの心に寄り添う幼児理解の方法と援助の在り方について説明できる。 (4) 幼稚園・保育所・認定こども園の保育と小学校教育との円滑な接続について理解している。 (5) 保育における指導計画の考え方を理解し、子どもの発達の過程を見通した指導計画が作成できる。 (6) 子どもの実態に沿って、ものや人との関わりを深める視点から教材を工夫する。 (7) 保育記録の記述を通して、子どもを理解する力をつける。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○		○	○	○		○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	オリエンテーション 幼児教育・保育の基本				(事前) 保育所保育指針第1章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容のふりかえりをする			(事前)60分 (事後)60分
	2	幼児教育・保育の保育内容 幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育のねらいと内容				(事前) 保育所保育指針第2章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容のふりかえりをする			(事前)60分 (事後)60分
	3	保育の基盤としての子ども観 子ども観と保育の内容				(事前) 自分なりの子ども観をまとめる (事後) プリントを見返し、学習内容のふりかえりをする			(事前)60分 (事後)60分
	4	保育の1日の流れと保育内容 遊びを中心とした生活の中で子どもが経験すること				(事前) 保育の1日のながれを調べる (事後) プリントを見返し、学習内容のふりかえりをする			(事前)60分 (事後)60分
	5	子どもの育ちと3歳未満児の保育内容 0～2歳児の発達と保育内容				(事前) 保育所保育指針第2章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容のふりかえりをする			(事前)60分 (事後)60分
	6	子どもの育ちと3歳以上児の保育内容 3～5歳児の発達と保育内容				(事前) 幼稚園教育要領第2章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容のふりかえりをする			(事前)60分 (事後)60分
	7	子どもの視点に立った保育者の援助 人的環境としての保育者の役割				(事前) テキスト第9章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容のふりかえりをする			(事前)60分 (事後)60分
	8	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 保育と学童期以降の育ちのつながり				(事前) テキスト第11章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容のふりかえりをする			(事前)60分 (事後)60分
	9	発達を促す遊びの環境 子どもを取り巻く様々な環境				(事前) テキスト第8章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容のふりかえりをする			(事前)60分 (事後)60分
	10	保育の計画と観察・記録と評価Ⅰ 教育課程・全体的な計画、指導計画				(事前) テキスト第4章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容のふりかえりをする			(事前)60分 (事後)60分
	11	保育の計画と観察・記録と評価Ⅱ 省察・評価の方法				(事前) テキスト第3章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容のふりかえりをする			(事前)60分 (事後)60分
	12	園と家庭との連携 多様な保育ニーズと保育内容				(事前) テキスト第10章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容のふりかえりをする			(事前)60分 (事後)60分
	13	多様な子どもと共に育つ保育 事例を通して多様な子どもの保育				(事前) テキスト第12章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容のふりかえりをする			(事前)60分 (事後)60分
	14	保育の多様な展開 長時間保育・多文化共生				(事前) テキスト第10章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容のふりかえりをする			(事前)60分 (事後)60分
	15	保育の現状と課題 保育の質・保育者の専門性の向上				(事前) テキスト第13章を読む (事後) プリントを見返し、学習内容のふりかえりをする			(事前)60分 (事後)60分
成績評価の方法	リアクションペーパー(20%)、定期試験(50%)、授業態度(30%)								
課題のフィードバック	講義終了後、リアクションペーパーに記入された学びや疑問について次回の講義で解説し、学びを深める								
テキスト	渡邊英則、大豆生田啓友編著：『新しい保育講座4 保育内容総論』(ミネルヴァ書房)								
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説書』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』(フレーベル館)								

科目名	乳児保育Ⅱ		科目コード	1ES053	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	(演習)	
担当者	猿田 興子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				保育士資格を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、「乳児保育Ⅰ」で学んだ内容をさらに深めて解説する。					
授業のねらいと概要	乳児を取り巻く社会情勢の変化を認識し、乳幼児期が人間として成長する基礎づくりとなり心身共に成長、発達が著しく重要な時期であることを理解する。また、その育ちを支える保育者として乳児の生活や遊びの環境を含め「乳児の最善の理解」を保障するための知識や技術を「乳児保育Ⅰ」で学んだ内容をもとに知識や技術を学ぶ。								
到達目標	(1) 乳児保育における社会情勢の特徴を理解して課題を考えることができる。 (2) 乳児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解している。 (3) 養護及び教育の一体性を踏まえ、乳児の子どもの生活や遊び・保育方法及び環境について、具体的に理解できる。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○			○	○		○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーション ～乳児保育の現状と課題・乳児のための保育施設の多様化～				事前：シラバスを読んでおく 事後：課題に完成にのぞむ		事前60分 事後40分	
	2	乳児(6ヶ月未満児)の発達の特徴について ～人と関わっていくことが発達の基本～				事前：配布資料を読む 事後：課題に完成にのぞむ		事前60分 事後40分	
	3	乳児(6ヶ月未満児)の遊びと環境について ～アタッチメントを形成することの意味～				事前：配布資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ		事前60分 事後40分	
	4	乳児(6ヶ月～12ヶ月)の発達の特徴について ～園生活における保育者とのアタッチメント～				事前：配布資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ		事前60分 事後40分	
	5	乳児(6ヶ月～12ヶ月)の遊びと環境について ～子ども理解に基づく保育の展開～				事前：配布資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ		事前60分 事後40分	
	6	乳児(1歳以上3歳未満児)の発達の特徴について ～身体の発達に伴う新しい世界の広がり～				事前：配布資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ		事前60分 事後40分	
	7	乳児(1歳以上3歳未満児)の遊びと環境について ～言葉の発達に伴うコミュニケーションの広がり～				事前：配布資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ		事前60分 事後40分	
	8	乳児の生活と遊びの基本的事項 ～社会性に伴う人・もののつながり～手作り玩具～				事前：配布資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ		事前60分 事後40分	
	9	乳児の生活と遊びの基本的事項 ～生活の基本と乳児の健康・安全について～手作り玩具～				事前：配布資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ		事前60分 事後40分	
	10	乳児の生活と遊びの基本的事項 ～乳児の生活と遊びの考え方 主体となる乳児の遊び～手作り玩具～				事前：配布資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ		事前60分 事後40分	
	11	乳児保育における環境構成について ～乳児の保育に必要な環境構成～手作り玩具～				事前：配布資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ		事前60分 事後40分	
	12	乳児保育における保育者間の連携について ～現場保育者の実践例から学ぶ～【みそのべビー保育園畠山氏の講義】				事前：配布資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ		事前60分 事後40分	
	13	乳児保育における全体的な計画と保育の記録について ～指導計画に基づく保育実践 保育記録の重要性～				事前：配布資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ		事前60分 事後40分	
	14	一人一人を健やかに育てていくために ～子育て支援について 子どもの育ちを連携して支援する～				事前：配布資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ		事前60分 事後40分	
	15	まとめ：乳児保育における保育者の専門性 ～乳児保育に携わる保育者の資質向上に向けて～				事前：配布資料を読む 事後：課題の完成にのぞむ		事前60分 事後40分	
成績評価の方法		レポート・小テスト(60%)、作品(20%)、授業態度・参加(20%)							
課題のフィードバック		レポート・小テスト・手作り玩具は採点して評価に生かす。評価終了してから返却する。欠席者と未提出者は採点に影響あり。							
テキスト		なし							
参考文献・資料		保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領							

科目名	社会的養護Ⅱ		科目コード	1ES055	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	(演習)	
担当者	初山 一彦		担当形態	演習	単位数	1	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				児童発達支援センターや医療型障害児入所施設等での相談業務の他、児童自立支援施設や児童相談所一時保護所での指導経験がある。					
授業のねらいと概要	社会的養護Ⅰでの基礎理論を踏まえ、より深く具体的に子どもと家族に対する援助方法を知るとともに、演習事例をとおして権利擁護や実践的側面に触れ、保育士の責任と役割の重要性及びその内容を理解する。								
到達目標	(1) 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容や実際について理解する。 (2) 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 (3) 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 (4) 社会的養護における虐待の防止と家庭支援について理解する。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	授業オリエンテーション 子どもの権利と社会的養護				子どもの権利条約を読む		事前事後各60分	
	2	施設養護のプロセスに求められる視点を考える				課題シートに記入する ノート・配布資料で授業内容の振り返り		同上	
	3	施設養護のプロセスの展開と留意点を考える				同上		同上	
	4	児童福祉施設の例から基本的な援助や生活プログラムを学ぶ				同上		同上	
	5	障害児入所施設の例から基本的な援助や生活プログラムを学ぶ				同上		同上	
	6	日常生活の支援について考える				同上		同上	
	7	心理的支援について学ぶ				同上		同上	
	8	自己実現・自立について考える				同上		同上	
	9	事例から自立支援計画を作成する				同上		同上	
	10	記録の役割と内容について学ぶ				同上		同上	
	11	親子関係の支援について学ぶ①(親子関係再構築を中心に)				同上		同上	
	12	親子関係の支援について学ぶ②(在宅障害児について)				同上		同上	
	13	社会的養護と地域のかかわりを考える				同上		同上	
	14	社会的養護における保育士の専門性を考える				同上		同上	
	15	子どもの権利擁護の課題				同上		同上	
成績評価の方法	提出課題(80%)、授業態度・意欲(20%)								
課題のフィードバック	提出されたレポートにコメント記入して返却します								
テキスト	なし								
参考文献・資料	社会的養護Ⅰのテキストと配布資料。その他授業の中で、配布・提示します								

科目名	卒業研究(古内)		科目コード	1ES065	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	古内 一樹		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・通年	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修を振り返り、学生の興味・関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。					
授業のねらいと概要	『身近な地域での遊びの資源マップづくりを通じて子どもと一緒に歩くモデルコースを設定する』 園や家庭が存在する地域社会に、子どもが興味・関心を示す遊びの資源(遊具の有無を問わず、かくれんぼや鬼ごっこ、どろんこ遊びや木登り等ができる場、草花や昆虫等が観察できる場、絵画や彫刻等が鑑賞できる場、絵本の読み聞かせ等が体験できる場等のモノやヒト)が、どこにどれだけあるかを調査して地域への認識を深める。								
到達目標	(1) 保育者及び保護者の立場からも、園外・家庭外の身近な地域を認識するとともに、子どもの遊びの資源についても考察する。 (2) 身近な地域での遊びの資源マップをつくとともに、子どもと一緒に歩くとしたらどのようなモデルコースが提案できるか設定する。 (3) 園外・家庭外での保育において、身近な地域の遊びの資源を活用する意義について考察する。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○		○	○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	オリエンテーション。本研究のねらいと概要及び目標について理解する。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	2	子どもにとって身近な地域での遊びにはどのような意味があるかについて考察する。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	3	子どもにとって身近な地域での自然観察や自然との触れ合い体験にはどのような意味があるかについて考察する。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	4	図書館にてOPACを利用した所蔵資料の検索の仕方を司書から学ぶ。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	5	子どもにとって身近な地域の公共施設や地域の行事等及び地域の様々な人々と接することは、どのような意味があるかについて考察する。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	6	子どもにとって身近な地域の遊びの資源で様々な体験活動を重ねる意味について考察する。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	7	子どもにとって身近な地域での遊ぶ場A(遊具の有無は問わず、かくれんぼや鬼ごっこ、泥んこ遊びや木登り等ができる場やモノ等)を地図上で探す。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	8	子どもの身近な地域での遊びの資源を求めて、大学周辺を歩いて調査し、資源の内容とその活用方法について考察する。大学周辺での巡検①				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	9	子どもに身近な地域で遊び等の体験活動をさせる際の保育者としての留意点について考察する。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	10	子どもの身近な地域での遊びの資源を求めて、大学周辺を歩いて調査し、資源の内容とその活用方法について考察する。大学周辺での巡検②				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	11	大学周辺の巡検①②で調査して分かった遊びの資源について整理するとともに、子どもと一緒に歩く際に留意しなければならないことについてまとめる。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	12	大学周辺の巡検①②で調査して分かった遊びの資源について整理したモノやコトについて、地図上に表現する。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	13	前期のまとめと夏休み中の課題及び後期の予定について説明を聞き、スケジュールを立てる。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	14	夏休み中の課題「自宅周辺の遊びの資源についてのフィールドワーク」についてねらいと具体的な計画を立てる。				事前：計画等立案 事後：振り返る。			各90分程度
	15	経過報告及び計画等についての確認と修正をする。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	16	夏休み中の課題「自宅周辺の遊びの資源についてのフィールドワーク①」				事前：計画の確認と準備 事後：調査結果の記録			各90分程度
	17	夏休み中の課題「自宅周辺の遊びの資源についてのフィールドワーク②」				事前：計画の確認と準備 事後：調査結果の記録			各90分程度
	18	夏休み中の課題「自宅周辺の遊びの資源についてのフィールドワーク③」				事前：計画の確認と準備 事後：調査結果の記録			各90分程度
	19	夏休み中の課題「自宅周辺の遊びの資源についてのフィールドワーク④」				事前：計画の確認と準備 事後：調査結果の記録			各90分程度
	20	夏休み中に実施したフィールドワークについて、何が分かったのか、どのようなことに気付いたかなどを文にして整理する。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	21	夏休み中に実施したフィールドワークについて、子どもの遊びの資源にはどのようなモノがあったかについて文にして整理する。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	22	大学周辺と自宅周辺のフィールドワークのどちらを卒業研究の対象とするかについて検討する①。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	23	大学周辺と自宅周辺のフィールドワークのどちらを卒業研究の対象とするかについて検討する②。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	24	大学周辺と自宅周辺のフィールドワークのどちらを卒業研究の対象とするかを決定したら、遊びの資源マップの下書き(構想案)に取りかかる①。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	25	大学周辺と自宅周辺のフィールドワークのどちらを卒業研究の対象とするかを決定したら、遊びの資源マップの下書き(構想案)に取りかかる②。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	26	卒業研究としてまとめるためのスケジュールと本物のマップづくりに必要な物品を注文する。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	27	卒業研究論文と遊びの資源マップを作成する①。論文やマップ作成上の相談ができる期間				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	28	卒業研究論文と遊びの資源マップを作成する②。論文やマップ作成上の相談ができる期間				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	29	卒業研究論文と遊びの資源マップを作成する③。論文やマップ作成上の相談ができる期間				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
	30	卒業研究論文と遊びの資源マップを完成させて提出する(最終締切は2月8日:月とする)。				事後：授業資料を基に振り返りを記録する。			90分程度
成績評価の方法	研究内容(60%)、取組意欲・態度と活動状況(20%)、成果物の出来映え(20%)								
課題のフィードバック	(1) 夏休み中の課題についてチェックし、コメントを付けて返却する。 (2) 卒業研究論文と資源マップを最終提出する前に、全員から事前状況を報告させ、それに対するアドバイスを添えて返却する。								
テキスト	なし(必要に応じて資料を提供する)								
参考文献・資料	必要に応じて、適宜資料等を提供する。								

科目名	卒業研究(蛭田)		科目コード	1ES065	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	蛭田 一美		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・通年	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。					
授業のねらいと概要	『子育て支援 ～みそのもくもく』 子育て支援と保育の関連性を理解する。 保育者に求められる保育実践力、責任感、コミュニケーション力、気遣いなどの人間としての基礎力を磨く。 子育て支援室“みそのもくもく”、学外の子育て支援活動の企画、進行、振り返りを繰り返し実践する。 多様な経験を重ねながらチームとして協働していく重要性を実体験を通して学ぶ。								
到達目標	(1) 保護者支援と保育の関連性を体験的に学び、保育士としての専門知識を身に付けることができる。 (2) 子育て支援活動の計画立案、進行、振り返り、自己評価を行い、次の活動に向けた改善をすることができる。 (3) 内面的な面において基礎的な人間力の向上を目指すことができる。 (4) 卒研のチームの一人として、協働的に取組み、お互いに共感し合いながら同僚性を高めることができる。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	オリエンテーション 卒業研究の意義と授業内容、到達目標について理解する。							
	2	保育所保育指針における「子育て支援」の内容について理解を深め、子育て家庭のニーズ、実情について調べる。				インターネットや著書で子育て家庭の現状について調べる。			120分
	3	自分なりに保護者とのかかわりについての目標を設定する。							
	4	子育て支援室“みそのもくもく”開催についての計画をグループで立案する。				立案に必要な資料を集める			120分
	5								
	6								
	7	○子育て支援室“みそのもくもく” 第1回～第4回の実施							
	8	(1) 計画・立案を通して開催準備を行う ゆっくりとくつろげる環境設定について考える							
	9	(2) 具体的な役割分担をイメージしリハーサルを行い、イメージを持ちながら準備を進める。							
	10	(3) 実施(前後の清掃・消毒、自分の役割を行う。(受付・進行・記録)				・記録、資料はすべてファイリングし、1週間以内に提出する。			
	11	(4) 実践後の省察							
	12	自己評価を基にメンバーで共有し、省察を深める。							
	13	(5) 保育アドバイザーからの助言				・補助資料の配布の際は関連する著書を用いて事前に調べる。			
	14								
	15	※ 実施の4回を振り返り、反省評価を共有し、今後の計画に生かす。				・もくもく開催日は終了時間が延長となる。			
	16								
	17	○子育て支援室“みそのもくもく” 第5回～第9回の実施							
	18	(1)～(5)を実施する				・卒研規定日以外の日程や学外での実施日もある。			
	19								
	20	○子育てトーク							
	21	・託児の実際と保護者とのコミュニケーションを深める。							
	22								
	23	○外部においての保育実践及び子育て支援活動							
	24	北秋田市・鹿角市において保育実践、				主体的に、自分の役割をイメージする準備を行う。			
	25	鹿角子ども未来センターにおけるディスカッション研修							
	26	○外部においての保育実践及び子育て支援活動							
	27	聖園もくもく in アルヴェ				宿泊研修の実施			
	28	外部において実施する準備、企画、運営				記録はすべてノートにまとめる。			
	29	保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について学んだ事を、保育アドバイザーも交えて、お互いに共有する。				最後の振り返りとして、ノートにまとめる。			
30									
成績評価の方法	記録(50%)、実施態度・準備・片付け・意欲(30%)、出席(20%)								
課題のフィードバック	記録、省察したノートに対して毎回、コメントを記入し返却する。								
テキスト	適宜、資料を配布する。								
参考文献・資料	保育所保育指針解説・保育用語辞典 聖園学園短期大学研究紀要 第47号 第52号								

科目名	卒業研究(東海林)		科目コード	1ES065	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	東海林 美代子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・通年	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。					
授業のねらいと概要	『ピアノ・オルガン』 ピアノの練習曲集である『ブルクミュラー25の練習曲』やバロックの小品をピアノとオルガンで演奏する。ピアノやパイプオルガンの構造を知り、演奏法を学ぶ。演奏し聴き合うことで音色や響きの違いを感じ取る。								
到達目標	(1) ピアノとパイプオルガンの構造を学び、理解できる。 (2) 『ブルクミュラー25の練習曲』の中から数曲、あるいはバロックの小品をピアノ・電子オルガン・パイプオルガンで演奏し、響きや音色の違いを感じ取ることができる。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○		○	○		○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	授業の進め方 使用するテキストについて							360分
	2	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う							360分
	3	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う							360分
	4	電子オルガン(マリアホール)の演奏体験 電子オルガンの使用の仕方 今後の活用について							360分
	5	各自の演奏曲について電子オルガン(マリアホール)でレッスンを行う							360分
	6	パイプオルガン(聖堂)の演奏体験				各自の演奏曲については毎回十分に練習をして臨むこと			360分
	7	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う							360分
	8	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う				できるだけ毎日練習することが望ましい			360分
	9	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う				取り組む曲数については各自が目標を設定する			360分
	10	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う							360分
	11	各自の演奏曲について電子オルガン(マリアホール)でレッスンを行う							360分
	12	各自の演奏曲について電子オルガン(マリアホール)でレッスンを行う							360分
	13	各自の演奏曲について電子オルガン(マリアホール)でレッスンを行う							360分
	14	各自の演奏曲についてパイプオルガン(聖堂)でレッスンを行う							360分
	15	パイプオルガン(聖堂)で演奏発表をする 夏休みの課題について							360分
	16	前期の振り返りと夏休み課題を提出する 夏休みに取り組んだ曲についてピアノで個人レッスンを行う							360分
	17	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う							360分
	18	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う							360分
	19	各自の演奏曲について電子オルガン(マリアホール)でレッスンを行う							360分
	20	各自の演奏曲についてパイプオルガン(聖堂)でレッスンを行う							360分
	21	各自の演奏曲についてパイプオルガン(聖堂)でレッスンを行う				各自の演奏曲については毎回十分に練習をして臨むこと			360分
	22	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う							360分
	23	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う				できるだけ毎日練習することが望ましい			360分
	24	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う				取り組む曲数については各自が目標を設定する			360分
	25	各自の演奏曲について電子オルガン(マリアホール)でレッスンを行う							360分
	26	各自の演奏曲について電子オルガン(マリアホール)でレッスンを行う							360分
	27	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う							360分
	28	各自の演奏曲についてピアノで個人レッスンを行う							360分
	29	各自の演奏曲について電子オルガン(マリアホール)でレッスンを行う							360分
	30	演奏発表と振り返り							360分
成績評価の方法	毎回の課題への取り組みと意欲(60%)、演奏発表(40%)								
課題のフィードバック	全体への指導と個人指導を繰り返し、次回への取り組みに生かす								
テキスト	『ブルクミュラー25の練習曲』 出版社の指定はしない 所有している楽譜を使用してもよい								
参考文献・資料	必要に応じてプリントを配布する								

科目名	卒業研究(猿田)		科目コード	1ES065	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	猿田 興子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・通年	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。					
授業のねらいと概要	『保育者の専門性を求めて』 子どもは日々の事象に心を動かし、面白さを感じる中で成長している。そこに寄り添う保育者も、子どもとともに面白さを実感することが結果的に質の高い保育につながる。この授業では定期的に保育の中で、幼児の姿や幼児を取り巻く環境を撮影し理解していく過程を体験することで、幼児理解につながる知識・技能・表現力・実践力を身につけることを目標とする								
到達目標	(1)保育中の観察や研究をねらいとして、乳幼児の認識・発達・思考及び動き等を写真に記録する方法を学び、その記録を活かして幼児理解につながる過程を実感できる (2)乳幼児の様々な表現を記録・協議することを通し、幼児の育ち読み解いていく過程から幼児理解を実感し、視野を広げていくことができる								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○			
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	オリエンテーション 本演習の到達目標と概要・今後の予定について～				卒業研究用説明等で選択シラバス参照・確認			事前60分 事後40分
	2	『保育者の専門性を求めて』 ～保育現場の現状を協議する中で写真活用する意味を理解する～				事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す			事前60分 事後40分
	3	外部講師による講義と質疑応答 ～『安心して生活できる環境と乳幼児の姿』を中心に撮影する際の留意点とともに				事前：質問事項を考える 事後：課題完成を目指す			事前60分 事後40分
	4	その方法等を聴講する～							
	5	子どもの表情や動きから読み取る ～写真を用いてその状況を想像し、乳幼児への関心を深める～				事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す			事前100分 事後60分
	6	子どもの表情や動きから読み取る ～子どもの思いを読み取り、コメント等を書き起こす～				事前：配付資料を読む 事後：課題完成を目指す			事前60分 事後40分
	7								
	8	テーマ「乳幼児の姿から一遊びと生活で学ぶ姿を探る」				撮影写真を現像・整理			事前180分 事後120分
	9	～実際の園生活の写真撮影実施～				再確認する			
	10								
	11								
	12	テーマ「乳幼児の姿から一遊びと生活で学ぶ姿を探る」				撮影写真を現像・整理			事前180分 事後120分
	13	～実際の園生活の写真撮影実施～				再確認する			
	14								
	15								
	16	テーマ「乳幼児の姿から一遊びと生活で学ぶ姿を探る」				撮影写真を現像・整理			事前180分 事後120分
	17	～園生活の写真撮影を行う～				再確認する			
	18								
	19	「乳幼児の姿から一遊びと生活で学ぶ姿」内の写真を活用し				必要な資料・研究文献・作成文具等を準備する			事前120分 事後100分
	20	ドキュメンテーションの表現活動を行う							
	21	～協議・考察を中心に～							
	22	「乳幼児の姿から一遊びと生活で学ぶ姿」内の写真を活用し				必要な資料・研究文献・作成文具等を準備する			事前120分 事後100分
	23	ドキュメンテーションの表現活動を行う							
	24	～保育者の専門性・保護者支援に活かす写真～							
	25	「乳幼児の姿から一遊びと生活で学ぶ姿」内の写真を活用し				必要な資料・研究文献・作成文具等を準備する			事前120分 事後100分
	26	ドキュメンテーションの表現活動を行う							
	27	～保育者同士で保育の振り返りを共有しあう意味や重要性について～							
	28	完成ドキュメンテーションをもとに提案・協議 ～これまでの学びを振り返り、他学生の作品から視野を広げる～				作品のまとめ 作品の提案について			事前60分 事後40分
	29	完成ドキュメンテーションをもとに提案・協議 ～ファイルの整理・展示実施・その内容確認～				作品のまとめ 作品の提案について			事前60分 事後40分
	30	完成ドキュメンテーションから年間の学びについて振り返りを行う ～ファイル返却・作品の復元～				作品のまとめ			事前60分 事後40分
成績評価の方法	表現作品{ドキュメンテーション}(40%) 課題ファイル(40%) 撮影・研究に取り組む姿勢(20%)								
課題のフィードバック	時間外において学外園での撮影・調査に積極的に取り組むことが不可欠で評価の対象とする。 ファイル作成用の課題も採点・評価対象となる。(デジタルカメラ等撮影カメラ必要：貸し出し可)								
テキスト	なし(必要に応じて資料を提示予定)								
参考文献・資料	参考文献：神永直美「フォトランゲージで学ぶ 子どもの育ちと実習記録・指導計画」(萌文書林) 保育ナビ(フレール館) 請川滋大：保育におけるドキュメンテーションの活用(ななみ書房)								

科目名	卒業研究(加藤)		科目コード	1ES065	必修・選択	必修	授業形態	(演習)				
担当者	加藤 順子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・通年				
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。								
授業のねらいと概要	『保育における食育』 食を食べることは生きるための源であり、心と体の健康に密接に関係している。乳幼児期の食に関する今日的課題や子どもの育ちを支える食育の重要性について理解を深め、保育における食育に関する文献研究や教材研究等を通して実践力の向上を目指す。											
到達目標	(1) 乳幼児期の食に関する現状や今日的課題について理解している。 (2) 保育における食育の意義について理解している。 (3) 子ども一人一人の状況や発達過程、家庭や地域社会の状況を踏まえた食育の在り方について理解している。 (4) 保育における食育の実践について具体的に理解し、保育を構想する力や実践する力など食育の担い手としての力を身に付けている。											
DPとの関連	人間性		専門性			社会性						
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力			
	○		○	○	○		○		○			
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)			
	1	オリエンテーション 授業の概要や進め方について				シラバス・配付資料を確認する。			60分			
	2	保育における食育について				配付資料や新聞記事等により、乳幼児の食について視野を広げる。			60分			
	3	乳幼児期の食や保育における食育の現状、課題について							60分			
	4	研究テーマの設定、活動計画立案 共通テーマ「楽しく食べる子ども」の下、各自の研究テーマ設定				研究テーマや活動計画を確認し、必要な資料を集めたり材料等を準備したりする。			60分			
	5	活動計画立案、活動準備							60分			
	6	研究活動 共通テーマ：楽しく食べる子どもに				食に関心をもち、視野を広げる。 自ら計画を確認し、主体的に進めることを期待する。			60分			
	7	各自の研究活動							60分			
	8	《予想される研究テーマの例》 ・食事と健康 ・食事を楽しくするための環境、指導・援助の在り方							60分			
	9	・食文化との出会い ・郷土食 ・行事食の由来							60分			
	10	(正月、節分、ひな祭り、端午の節句、七夕、月見 等)							60分			
	11	・子どもと一緒に作るクッキングメニュー ・「食」に関わる絵本、お話に出てくる食べ物							60分			
	12	・「食」に関わる手遊び、歌 ・栽培活動と「食」 ・食生活に関わる基本的な生活習慣							60分			
	13	・「食」に関する子育て支援 ・食育に生かす教材、教具、資料等の作成							60分			
	14	(エプロンシアター、手袋シアター、パネルシアター、紙皿シアター、ペープサート、カルタ、紙芝居、絵本、ぬいぐるみ、レシピ集 等)							60分			
	15	経過報告 活動についての自己評価・報告、以後の活動についての確認							研究活動について振り返る。 以後の計画を確認する。			60分
	16	計画の確認・修正 計画の確認・修正・補足、準備							活動に見通しをもち、必要に応じて準備をする。			60分
	17											60分
	18								自ら計画を確認し、主体的に進めることを期待する。			60分
	19	研究活動の継続、補足										60分
	20								60分			
	21					研究発表の準備をする。			60分			
	22					乳幼児の食事や間食についての資料を集める。			60分			
	23	共同研究				実習の準備をする。			60分			
	24	幼児の食事・間食についての調査、実習				実習の準備をする。			60分			
	25					実習後の振り返りをする。			60分			
	26	研究のまとめ							60分			
	27	レポート(研究報告書)作成				活動全体について確認し、まとめる。			60分			
	28	研究発表				自身の発表や他のメンバーの発表について振り返る。			60分			
	29	研究成果の発表							60分			
30	まとめ 研究活動の振り返り、自己評価				自身の研究活動について振り返り、今後につなげる。			60分				
成績評価の方法		提出課題(60%)、レポート(20%)、授業態度・意欲(20%)										
課題のフィードバック		個人活動時には、毎時間進捗状況を確認し、必要に応じて指導・助言する。 提出された課題等にコメントを記入して返却する。										
テキスト		なし										
参考文献・資料		必要に応じて提示する。										

科目名	卒業研究(鎌田)		科目コード	1ES065	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	鎌田 悟		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・通年	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。					
授業のねらいと概要	『造形表現』 ・製作活動を通して、様々な素材の扱い方や特徴、造形的な表現方法を理解する。 ・環境構成に関する情報を収集したり、それを基に制作したりする力を身に付ける。								
到達目標	(1) 造形表現につながるいろいろな素材やその生かし方について探り、多様な表現ができる。 ①布や木等の様々な素材を集めたり、その可能性について調べたりすることができる。 ②表現の仕方を工夫しながら、主体的に製作活動に取り組むことができる。 (2) 保育実践の場を想定した環境構成や、幼児の造形表現活動支援できる。 ①幼稚園・保育園の季節に応じた環境構成やその方法について関心を持つことができる。 ②幼児の心を動かすものづくりを考えながら楽しむことができる。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○		○			○		○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	ガイダンス演習の方針と年間活動計画を理解する				シラバスとテキストに目を通しておく			120分
	2	テーマと製作計画を構想する				卒研テーマを考えてくる			120分
	3	「校内の案内掲示板をつくらう」・・・グループ製作 ①設置する場所を実際に探してスペースや空間などを確認する				身の回りの掲示板を調べてくる			120分
	4	②構想(デザイン、色、形、メッセージ等)を練る 下書きをする				下書きの完成			120分
	5	③掲示板を製作する 収集した素材の特徴を活かした製作				製作する			120分
	6	④掲示板を製作する。 収集した素材の特徴を活かした製作				製作する			120分
	7	⑤完成した作品を掲示板や壁などに展示し、鑑賞する				製作する			120分
	8	「窓辺に飾ろう」・・・グループ製作する ①意見交換をしてアイデアを出し合い、窓辺に飾る物を決める				ステンドグラスについて調べる			120分
	9	「窓辺に飾ろう」・・・グループ製作する ②意見交換をしてアイデアを出し合い、窓辺に飾る物を決める				ステンドグラスについて調べる			120分
	10	③どこに飾るのか、どのようにして飾るのかを考える				どこに飾るのか、どのようにして飾るのかを考える			120分
	11	④グループごとに製作する 下書き				製作する			120分
	12	⑤グループごとに製作する レイアウトの決定				製作する			120分
	13	⑥グループごとに製作する レイアウトの決定				製作する			120分
	14	⑦グループごとに製作する レイアウトの決定				製作する			120分
	15	⑧完成した作品を掲示板や壁などに展示し、鑑賞する				ポートフォリオ等から前期の取り組みの評価をする。			120分
	16					各自のテーマやアイデアに沿って製作する			120分
	17					各自のテーマやアイデアに沿って製作する			120分
	18					各自のテーマやアイデアに沿って製作する			120分
	19					各自のテーマやアイデアに沿って製作する			120分
	20	「○○をつくる」・・・個人製作する				各自のテーマやアイデアに沿って製作する			120分
	21	・製作テーマ決定 ・アイデアスケッチ				各自のテーマやアイデアに沿って製作する			120分
	22	・試作 ・材料準備				各自のテーマやアイデアに沿って製作する			120分
	23	・製作 ・相互鑑賞				各自のテーマやアイデアに沿って製作する			120分
	24	・レポートの書き方について知る ・レポート作成				各自のテーマやアイデアに沿って製作する			120分
	25					各自のテーマやアイデアに沿って製作する			120分
	26					各自のテーマやアイデアに沿って製作する			120分
	27					各自のテーマやアイデアに沿って製作する			120分
	28					各自のテーマやアイデアに沿って製作する			120分
	29	製作レポートを提出する 展示準備				製作レポートの作成			120分
30	作品、レポートを展示する				製作レポートの作成			120分	
成績評価の方法	提出課題(60%)、授業態度・意欲(40%)								
課題のフィードバック	製作全体を見渡せるように ①途中の鑑賞会 ②展示方法についての意見交換 を実施。								
テキスト	『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携認定こども園教育・保育要領解説』								
参考文献・資料	随時、自作のプリントを作成し配付する。								

科目名	卒業研究(大原)		科目コード	1ES065	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	大原 かおり		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・通年	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。					
授業のねらいと概要	『児童文学』 児童文学および文学関連の作品・作家・各種テーマについて研究し、作品を読み味わう知識と技能を身に付け、広い視野で作品を理解し造詣を深めることができる。								
到達目標	(1) 児童文学について理解する 1) 児童文学の概要を理解する 2) 各ジャンル・テーマについて理解する (2) 表現活動を通して、作品を読み味わう力や創作する力を養う 1) 作品について自分の考えを述べる 2) 表現活動の成果を生かし知見を広げて、自身の表現活動や研究に生かすことができる								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○		○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	オリエンテーション ー児童文学研究について				【事前】シラバスを確認する。 【事後】資料を読み、復習する			各30分
	2	ブックトーク ー好きなジャンル・おすすめの作品				【事前】作品を選び、トーク内容を考える。 【事後】トーク内容を振り返る。			各60分
	3	講義1 児童文学とは ー「子ども」という概念の誕生				【事後】講義内容を復習し、作品を読む。			30分
	4	講義2 冒険物語について				【事後】講義内容を復習し、作品を読む。			30分
	5	講義3 泣ける絵本について				【事後】講義内容を復習し、作品を読む。			30分
	6	講義4 怖い絵本について				【事後】講義内容を復習し、作品を読む。			30分
	7	活動・研究計画				【事後】講義内容を復習し、作品を読む。			30分
	8	研究準備1 テーマ探し1				【事前】研究テーマ・作品を探す。			30分
	9	研究準備2 テーマ・作品探し2				【事前】前回調査を元に参考文献などを探す。			30分
	10	研究・活動計画作成				【事前】資料を揃える。 【事後】助言を参考に計画を見直す。			各30分
	11	ブックトーク 研究対象関連の作品について				【事前】トーク内容を考える。 【事後】トーク内容を振り返る。			各60分
	12	個人研究1 テーマを深める1				【事前】研究テーマを深めるための材料探しをする。			30分
	13	個人研究2 テーマを深める2				【事前】研究テーマを深めるための材料探しをする。			30分
	14	個人研究3 テーマを深める3				【事後】考察結果をまとめる。			60分
	15	第1次レポート提出				【事前】レポートを書く。 【事後】アドバイスを振り返る。			各60分
	16	オリエンテーション ー児童文学研究レポートについて				【事前】シラバスを確認する。			20分
	17	ブックトーク ー研究対象関連の作品について1				【事前】トーク内容を考える。 【事後】トーク内容を振り返る。			各60分
	18	ブックトーク ー研究対象関連の作品について2				【事前】トーク内容を考える。 【事後】トーク内容を振り返る。			各60分
	19	研究・活動計画作成				【事前】資料を揃える。 【事後】助言を参考に計画を見直す。			各60分
	20	個人研究1 レポート執筆				【事前】執筆のための資料準備、相談内容などをまとめる。			60分
	21	個人研究2 レポート執筆				【事前】執筆のための資料準備、相談内容などをまとめる。			60分
	22	個人研究3 レポート執筆・完成部分の仮提出				【事後】添削の結果を受け、修正する。			60分
	23	個人研究4 レポート執筆				執筆する。			60分
	24	個人研究5 レポート執筆・完成部分の仮提出				【事後】添削の結果を受け、修正する。			60分
	25	個人研究6 レポート執筆				執筆する。			60分
	26	個人研究7 レポート執筆				執筆する。			60分
	27	個人研究レポート提出				【事後】添削・点検の結果をふまえ、推敲する。			60分
	28	個人研究レポート完成				レポートを完成させる。			60分
	29	個人研究発表会				【事前】発表準備をする。			60分
	30	まとめ 個人研究振り返り				自己の研究成果を振り返り、他者の研究についての見解を持つ。			60分
成績評価の方法	提出課題(70%)、授業態度・意欲(30%)								
課題のフィードバック	適宜、添削・点検をして返却する。								
テキスト	適宜、提示、配布をする。								
参考文献・資料	適宜、提示、配布をする。								

科目名	卒業研究(藤原)		科目コード	1ES065	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	藤原 法生		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・通年	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。					
授業のねらいと概要	『コミュニケーションと相談援助』 対人援助の基礎となるコミュニケーションと専門的な相談援助の方法について研究する。実際に活用できるマニュアルを作成し、それを活用したロールプレイを行うことで基本的な技能を身に付けることを目標とする。								
到達目標	(1) コミュニケーションの基本を理解している (2) 相談援助の原則について理解している (3) 相談援助の基本的な技能を身に付けている								
DPとの関連	人間性		専門性				社会性		
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○		○	○		○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	研究テーマと研究方法				事後：自身の研究テーマを明確化する			30分
	2	アイスブレイクと相互理解(ディスカッション)				事後：活動を振り返る			30分
	3	アイスブレイクと相互理解(ディスカッション)				事後：活動を振り返る			30分
	4	アイスブレイクと相互理解(ディスカッション)				事後：活動を振り返る			30分
	5	コミュニケーションの基本① 非言語的コミュニケーションの方法と効果				事前：具体的な方法と効果について検討しておく			30分
	6	コミュニケーションの基本② 非言語的コミュニケーションの活用方法				事前：具体的な活用方法について検討しておく			30分
	7	コミュニケーションの基本③ 人間観察(表情や行動からの学び)							
	8	コミュニケーションの基本④ 人間観察(表情や行動からの学び)				事後：観察内容を振り返る			60分
	9	コミュニケーションの基本⑤ 人間観察の振り返り				事後：全体での共有内容を振り返る			30分
	10	コミュニケーションの基本⑥ 自分観察(自己覚知)				事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する			30分
	11	相談援助(面接)の実際(DVD視聴)				事後：具体的な活用方法について検討する			30分
	12	非言語的コミュニケーションの活用マニュアル作成				事前：具体的な活用方法について検討しておく			30分
	13	非言語的コミュニケーションの活用マニュアル作成				事前：具体的な活用方法について検討しておく			30分
	14	非言語的コミュニケーションの活用マニュアル作成				事前：具体的な活用方法について検討しておく			30分
	15	非言語的コミュニケーションの活用マニュアル作成				事前：具体的な活用方法について検討しておく			30分
	16	研究内容と目標の確認				事前：目標達成に向けた研究方法等について検討する			30分
	17	コミュニケーションの基本⑦ 言語的コミュニケーションの方法と効果				事前：具体的な方法と効果について検討しておく			30分
	18	コミュニケーションの基本⑧ 言語的コミュニケーションの活用方法				事前：具体的な活用方法について検討しておく			30分
	19	言語的コミュニケーションの活用マニュアル作成				事前：具体的な活用方法について検討しておく			30分
	20	言語的コミュニケーションの活用マニュアル作成				事前：具体的な活用方法について検討しておく			30分
	21	言語的コミュニケーションの活用マニュアル作成				事前：具体的な活用方法について検討しておく			30分
	22	言語的コミュニケーションの活用マニュアル作成				事前：具体的な活用方法について検討しておく			30分
	23	相談援助(面接)の実際(DVD視聴)				事後：学びを振り返り、演習の準備をする			30分
	24	相談援助(面接)演習①(ロールプレイと相互評価)				事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する			30分
	25	相談援助(面接)演習②(ロールプレイと相互評価)				事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する			30分
	26	相談援助(面接)演習③(ロールプレイと相互評価)				事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する			30分
	27	相談援助(面接)演習④(ロールプレイと相互評価)				事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する			30分
	28	相談援助(面接)演習⑤(ロールプレイと相互評価)				事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する			30分
	29	クレーム対応の方法(DVD視聴)				事後：学びを振り返るとともに、日常生活で意識的に活用する			30分
	30	まとめ、研究成果の評価				事後：全体の振り返りと自己評価			30分
成績評価の方法	提出課題・演習実技等(50%)、研究(演習)態度・意欲(50%)								
課題のフィードバック	演習実技については、その都度評価と助言を行う								
テキスト	なし								
参考文献・資料	直島正樹、原田句哉 編著：『図解で学ぶ保育 社会福祉』(萌文書林) F.P.バイスティック 著：『ケースワークの原則』(誠信書房)								

科目名	卒業研究(声楽)		科目コード	1ES065	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	櫻庭 優佳		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・通年	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。					
授業のねらいと概要	『声楽』主體的に自らの声と向き合い、「発声」について探求心をもって取り組むことにより、音楽への造詣を深める。歌うことの楽しさや喜びを子どもと分かち合えるように、自信をもって歌唱するための技術の習得を目指す。授業者の専門である「声楽」について個人レッスンを含む学びを積み重ね、イタリア歌曲などの専門的な作品にも挑戦することを目標とする。								
到達目標	(1)「発声」について、より専門的な知識や技術を習得することができる 1)自分の「声」に対して常に課題意識を持って取り組むことができる 2)より良い発声(特にベル・カント唱法)に興味を持ち習得しようと取り組むことができる 3)美しい言葉の発音について理解し実践しようと努めることができる (2)作品や楽曲に対する分析や解釈を深めることができる 1)作曲家や作詞家について知識・理解を深めることができる 2)作品の音楽的な内容を理解することができる		3)詩の内容について理解し、解釈を深めることができる (3)子どもの心身の成長に音楽が働きかける重要性について理解を深め、実践することができる 1)「聴く」「歌う」「動く」等が相互作用し合うことを理解し、表現することができる 2)自らが心からの楽しさや喜びを感じ、また周りの人と分かち合うことができる						
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	オリエンテーション 各自、「声楽」に関する自らの課題を設定し、どんな研究内容にしたいかを考える				シラバスの精読 レポート課題に取り組む			60分 60分
	2	発声基礎Ⅰ① コンコーネ等を用いて発声の基本に取り組む				コンコーネの譜読み 発声基礎の反復練習			60分 60分
	3	発声基礎Ⅰ② コンコーネ等を用いて発声の基本に取り組む				コンコーネの譜読み 発声基礎の反復練習			60分 60分
	4	発声基礎Ⅰ③ コンコーネを用いて、発声の基本を歌唱に生かす				コンコーネ等の譜読み 発声基礎の反復練習			60分 60分
	5	発声基礎Ⅰ④ コールユープンゲンを用いてソルフェージュの力を高める				コールユープンゲンの予習 コールユープンゲンの復習			60分 60分
	6	発声基礎Ⅰ⑤ コールユープンゲンを用いてソルフェージュの力をさらに高める				コールユープンゲンの予習 コールユープンゲンの復習			60分 60分
	7	発声基礎Ⅰ⑥ コールユープンゲンを用いてソルフェージュの力をさらに高める				コールユープンゲンの予習 コールユープンゲンの復習			60分 60分
	8	「子どもの歌」の表現あそびの実践と報告① 保育実習の中で各々が体験してきた音楽表現活動についてレポートにまとめる				課題内容の精読と理解 課題への取り組み			60分 60分
	9	「子どもの歌」の表現あそびの実践と報告② 保育実習の中で各々が実践してきた音楽表現活動についてレポートにまとめる				課題内容の精読と理解 課題への取り組み			60分 60分
	10	「子どもの歌」の表現あそびの実践と報告③ まとめたレポートの発表会を行い、互いの発表から学び合う				課題への取り組み 発表会の振り返り			60分 60分
	11	声楽作品へのアプローチⅠ① 課題曲を相談の上選曲し、譜読み・練習に取り組む				課題曲の譜読み 作品について調べる			60分 60分
	12	声楽作品へのアプローチⅠ② 課題曲の練習に取り組む				課題曲の練習 指導内容の反復と練習			60分 60分
	13	声楽作品へのアプローチⅠ③ 課題曲の練習に取り組む				課題曲の練習 指導内容の反復と練習			60分 60分
	14	声楽作品へのアプローチⅠ④ 発表に向けて課題曲の練習に取り組む				課題曲の練習 指導内容の反復と練習			60分 60分
	15	声楽作品へのアプローチⅠ⑤ 互いの成果を発表し合い、学び合う。				発表に向けての準備 発表会の振り返り			60分 60分
	16	音楽鑑賞① 演奏会を鑑賞し、気付きや感想をまとめる				演奏会の情報収集 感想レポートの作成			60分 60分
	17	音楽鑑賞② 演奏会から学んだことを報告し、互いから学び合う				レポート報告の準備 レポート発表の振り返り			60分 60分
	18	発声基礎Ⅱ① コンコーネ等を用いて発声の基本に取り組む				コンコーネの譜読み 発声基礎の反復練習			60分 60分
	19	発声基礎Ⅱ② コンコーネ等を用いて発声の基本に取り組む				コンコーネの譜読み 発声基礎の反復練習			60分 60分
	20	発声基礎Ⅱ③ コンコーネ等を用いて発声の基本に取り組む				コンコーネの譜読み 発声基礎の反復練習			60分 60分
	21	発声基礎Ⅱ④ コンコーネ等を用いて発声の基本に取り組む				コンコーネの譜読み 発声基礎の反復練習			60分 60分
	22	発声基礎Ⅱ⑤ コンコーネ等を用いて発声の基本に取り組む				コンコーネの譜読み 発声基礎の反復練習			60分 60分
	23	声楽作品へのアプローチⅡ① 課題曲を相談の上選曲し、譜読み・練習に取り組む				課題曲の譜読み 作品について調べる			60分 60分
	24	声楽作品へのアプローチⅡ② 課題曲の練習に取り組む				課題曲の練習 指導内容の反復と練習			60分 60分
	25	声楽作品へのアプローチⅡ③ 課題曲の練習に取り組む				課題曲の練習 指導内容の反復と練習			60分 60分
	26	声楽作品へのアプローチⅡ④ 課題曲の練習に取り組む				課題曲の練習 指導内容の反復と練習			60分 60分
	27	声楽作品へのアプローチⅡ⑤ 課題曲の練習に取り組む				課題曲の練習 指導内容の反復と練習			60分 60分
	28	声楽作品へのアプローチⅡ⑥ 発表に向けて、課題曲の練習に取り組む				課題曲の練習 指導内容の反復と練習			60分 60分
	29	声楽作品へのアプローチⅡ⑦ 互いの成果を発表し合い、学び合う。				発表に向けての準備 発表会の振り返り			60分 60分
	30	卒業研究「声楽」のまとめ 自らの成長と今後の課題をレポートにまとめ、発表する				課題への取り組み 発表の振り返り			120分 60分
成績評価の方法		実技発表40%、提出物20% 授業態度・意欲(練習や個人レッスンへの参加態度など)40%							
課題のフィードバック		実技の習得は毎時間がフィードバックの連続です。授業者からの指導、助言が技術の向上に生きるよう、互いに良い集中力の中で楽しく学んでいきましょう。発声技術の習得には忍耐力が必要となりますが、分からないことや質問はいつでも受け付けますので、大いに積極的に取り組んでください。レポート等の提出課題にはコメントを記したのちに返却します。							
テキスト		その都度提示や紹介・配布をする							
参考文献・資料		その都度提示や紹介・配布をする							

科目名	卒業研究(佐々木)		科目コード	1ES065	必修・選択	必修	授業形態	(演習)	
担当者	佐々木 啓子		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・通年	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				各分野の専門的な知識を有する教員が、それぞれの業務経験や知見を生かし、これまでに学習した教育・保育専門科目の履修をふり返り、学生の興味関心のある内容や不足している内容について少人数で指導する。					
授業のねらいと概要	『身の回りの環境を活用した保育』 保育者が行う援助・環境構成は子どもの遊びに大きな影響力をもっており、心身ともに健やかな発達を遂げるために保育者は子どもの目線に立った指導計画を考える必要がある。子どもにふさわしい援助や環境構成を考えるために、保育者に必要な知識・技能について広く取り上げ、文献や教材の研究を通して調査・研究を行い、実践力を身につける。								
到達目標	(1) 自分なりの保育者像をもち、豊かな人間性や社会性を身につける。 (2) 周囲の環境に主体的にかかわりながら、コミュニケーション能力や表現力の向上を図り、保育者に必要とされる資質・能力を身につける。 (3) 具体的な遊びや活動を直接体験しながら、子どもが環境を取り入れて遊ぶ活動を体験的に学ぶ。 (4) 子どもの発達を理解するために必要な保育者の視点について考えることができる。 (5) 5領域の特性に応じた保育実践力の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 (6) 乳幼児の遊びを理解し、発達年齢にふさわしい遊びとその指導方法や技能を身につける。 (7) 子どもが主体的に身近な環境にかかわって遊びを展開していくための多様な指導法を身につける。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
		○	○	○	○	○		○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習			時間(目安)
	1	オリエンテーション 卒業研究の意義と1年間の計画							
	2	自然物を使った製作 春の園外保育「草花の葉」製作							
	3	自然物を使った製作 園外保育「草花の葉」製作活動の指導計画作成							
	4	自然の中で遊ぶ 【グループワーク】ネイチャーゲーム「カモフラージュ」調査・準備							
	5	自然の中で遊ぶ 【グループワーク】ネイチャーゲーム「カモフラージュ」							
	6	自然の中で遊ぶ 【グループワーク】ネイチャーゲーム「カモフラージュ」指導計画							
	7	科学遊び 【グループワーク】 「バブルアート」調査・準備							
	8	科学遊び 【グループワーク】 「バブルアート」							
	9	子どもと園行事 子どもと創る行事の環境「たなばた飾り」製作							
	10								
	11	科学遊び 【グループワーク】 「スライム」調査・準備				(事前) 毎回の授業事前に指示された内容について調べる また、指示がある回には事前に指導計画作成をすること、活動に必要な材料や道具の準備をすること			
	12	科学遊び 【グループワーク】 「スライム」							
	13	科学遊び 【グループワーク】 「スライム」指導計画作成							
	14	動物園見学 フィールドワーク計画							
	15	動物園見学 フィールドワーク指導計画作成							
	16								
	17	動物園見学 大森山動物園フィールドワーク							
	18								
	19								
	20	動物園見学 大森山動物園クイズブック作成							
	21								
	22	子どもと園行事 「ビリビリかぼちゃ」製作							
	23	科学遊びⅢ 「スノードーム」調査・準備							
	24	科学遊びⅢ 「スノードーム」指導計画作成							
	25	科学遊びⅢ 「スノードーム」製作							
	26								
	27								
	28	各自のテーマで自主研究・製作							
	29								
30	研究のまとめ 自主研究発表会				(事後) 授業内容をふりかえり、復習する 活動後には作品やレポートを完成する			(事前) 60分  (事後) 60分	
成績評価の方法	レポート・課題(30%)、研究発表(50%)、授業態度・意欲(20%)								
課題のフィードバック	提出された課題をもとに学生と担当者がコミュニケーションを取りながら学生自身の成果や改善点をふりかえり、自分の課題を見つけることができるようにする								
テキスト	なし								
参考文献・資料	必要に応じてプリントを配布								



# 実 習



科目名	教育実習指導 I		科目コード	1ET095	必修・選択	選択(幼免必修)	授業形態	実習	
担当者	佐々木 啓子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				幼稚園教諭免許を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、教育実習について指導する。					
授業のねらいと概要	講義や映像、附属幼稚園見学等の体験を通して、実習の意義や目的を理解するとともに、実習を円滑に進めるための心構えや実践的知識を理解する。さらに幼稚園、認定こども園の役割や機能、保育内容等を総合的に学び、実践を通して自らの保育の課題を明確にし、保育者になるうえでの能力や態度を身につける。								
到達目標	(1) 実習生が遵守すべき義務について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に取り組むことができる。 (2) 実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までに習得することが必要な知識や技能等を理解する。 (3) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領および子どもの実態を踏まえ発達段階を考慮しながら子どもと関わることができる。 (4) 保育に必要な基礎的技術を実地に即して身につけるとともに、保育の環境や保育者の役割について理解する。 (5) クラス担任の役割と職務内容を実地に即して理解する。 (6) 様々な活動の場面で適切に子どもと関わることができる。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○		○	○	○	○	○	
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	教育実習とは 実習の意義・目的				(事前)テキスト第2章を読む (事後)プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする		(事前)60分 (事後)60分	
	2	教育実習の位置づけ 2年間の実習予定(実習の種類、内容、日程等)				(事前)実習の手引き1,2を読む (事後)プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする		(事前)60分 (事後)60分	
	3	実習園の選択 実習園の選択と留意点				(事前)自分が実習したい園を考え、園の情報を調べる (事後)プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする		(事前)60分 (事後)60分	
	4	幼稚園とは 保育所・認定こども園との違い				(事前)テキスト第1章を読む (事後)プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする		(事前)60分 (事後)60分	
	5	幼稚園の生活 幼稚園の1日の流れ				(事前)テキスト第6章を読む (事後)プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする		(事前)60分 (事後)60分	
	6	実習の方法と理解 DVD『保育者を目指すあなたへ』視聴				(事前)自分がなりたい保育者像についてまとめる (事後)DVDを視聴して感じたことをまとめる		(事前)60分 (事後)60分	
	7	実習オリエンテーション 内容、連絡方法、オリエンテーションのマナー				(事前)実習の手引き4を読む (事後)プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする		(事前)60分 (事後)60分	
	8	幼稚園教育要領を見るⅠ 環境を通して行う教育				(事前)幼稚園教育要領第1章を読む (事後)プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする		(事前)60分 (事後)60分	
	9	幼稚園教育要領を見るⅡ 遊びを中心とした保育				(事前)幼稚園教育要領第1章を読む (事後)プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする		(事前)60分 (事後)60分	
	10	幼稚園教育要領を見るⅢ 幼稚園の特性(小学校の指導方法との比較)				(事前)幼稚園教育要領序章を読む (事後)プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする		(事前)60分 (事後)60分	
	11	実習における基本的態度・マナーⅠ 実習中の生活、健康管理の重要性				(事前)テキスト第4章を読む (事後)プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする		(事前)60分 (事後)60分	
	12	実習における基本的態度・マナーⅡ 実習生の社会性、コミュニケーション能力				(事前)実習の手引き5を読む (事後)プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする		(事前)60分 (事後)60分	
	13	附属幼稚園の見学 子どもの園生活の姿の理解				(事前)実習の手引き10を読む (事後)プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする		(事前)60分 (事後)60分	
	14	実習記録の記述 教育実習Ⅰの実習記録の記述方法と留意点、保育の用語				(事前)実習の手引き6-(1)を読む (事後)プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする		(事前)60分 (事後)60分	
	15	実習に必要な書類の作成 事前に準備すること(持ちもの、手遊び、季節の歌)				(事前)実習の手引き6-資料6を読む (事後)プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする		(事前)60分 (事後)60分	
成績評価の方法	実習評価(40%)、実習記録(30%)、提出課題(10%)、授業態度(20%)								
課題のフィードバック	実習事後に評価面談を行い、成果と課題を明確にして次の実習に活用できるようにする								
テキスト	大豆生田啓友/高杉展/若月芳浩:『最新保育講座12 幼稚園実習 保育所・施設実習』(ミネルヴァ書房)								
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『保育用語辞典』(フレーベル館)								

科目名	教育実習指導Ⅱ		科目コード	1ET096	必修・選択	選択(幼免必修)	授業形態	実習
担当者	佐々木 啓子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				幼稚園教諭免許を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、教育実習について指導する。				
授業のねらいと概要	教育実習Ⅰの経験を踏まえて、幼稚園教諭・保育教諭に必要な実践的知識を理解する。実習事後にはディスカッションやエピソード記録等の方法により省察を行い、保育者としての資質向上を目指し学びを深める。さらに自分が目指す幼稚園教諭像・保育教諭像を明確にし、保育観・子ども観を具体的に述べるができるようになる。							
到達目標	(1) 実習生が遵守すべき義務について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に取り組むことができる。 (2) 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までに習得することが必要な知識や技能を理解する。 (3) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領および子どもの実態等を踏まえた適切な指導計画を作成し、保育を実践することができる。 (4) 保育に必要な基礎的技術を实地に即して身につけるとともに、子どもの体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用できる。 (5) クラス担任の役割と職務内容を实地に即して理解する。 (6) 様々な活動の場面で適切に子どもと関わることができる。							
DPとの関連	人間性		専門性			社会性		
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力
	○	○	○	○	○	○	○	○
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)
	1	責任実習とは	保育者の動き、指導計画と環境構成		(事前) テキスト第2章2を読む (事後) プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする	(事前) 60分 (事後) 60分		
	2	指導計画作成①	指導計画に活かす教材・素材		(事前) テキスト第5章を読む (事後) プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする	(事前) 60分 (事後) 61分		
	3	指導計画作成②	指導計画に活かす活動		(事前) テキスト第5章を読む (事後) プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする	(事前) 60分 (事後) 62分		
	4	指導計画作成③	責任実習、部分実習、導入の意義		(事前) 実習の手引き6-資料5を読む (事後) プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする	(事前) 60分 (事後) 63分		
	5	教育実習Ⅱの記述	教育実習Ⅱの実習記録の記述と留意点		(事前) 実習の手引き6(2)を読む (事後) プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする	(事前) 60分 (事後) 64分		
	6	実習園への提出書類作成	誓約書の内容と意味の確認		(事前) 自己PRや長所・特技をまとめておく (事後) 提出書類の見直し・確認をする	(事前) 60分 (事後) 65分		
	7	実習園からの評価	評価の観点の確認・理解		(事前) 実習の体験・実習記録を基に、実習のふりかえりをまとめる (事後) ディスカッションでの気づきや学びをまとめる	(事前) 60分 (事後) 66分		
	8	教育実習Ⅱを終えて	自己評価を通じた教育実習Ⅱのふりかえり		(事前) 実習記録や自己評価票の見直しをする (事後) 教育実習Ⅱの成果と課題を具体的な視点でまとめる	(事前) 60分 (事後) 67分		
	9	実習のふりかえり①	グループディスカッションを通じた実習の省察		(事前) 話し合いの視点について、自分の考えをまとめておく (事後) ディスカッションの内容のふりかえりをする	(事前) 60分 (事後) 68分		
	10	実習のふりかえり②	実習エピソードによる実習の省察		(事前) 実習の体験・実習記録を基に、最も印象に残ったエピソードをまとめる (事後) エピソードから客観的に学びをまとめる	(事前) 60分 (事後) 69分		
	11	実習のふりかえり③	責任実習の成果と課題		(事前) 指導計画の見直しをする (事後) 責任実習の成果と課題を具体的な視点でまとめる	(事前) 60分 (事後) 70分		
	12	実習のふりかえり④	保育者としての自覚、専門性についての理解		(事前) 幼稚園教育要領第1章1節を読む (事後) プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする	(事前) 60分 (事後) 71分		
	13	園と家庭の連携	家庭と園の信頼関係構築のための取り組み		(事前) 幼稚園教育要領第1章6節を読む (事後) プリントを見返し、授業内容のふりかえりをする	(事前) 60分 (事後) 72分		
	14	保育の記録	保育現場の様々な記録とその方法の理解		(事前) 保育の様々な記録について調べる (事後) 記録の受容性について自分なりにまとめる	(事前) 60分 (事後) 73分		
	15	連絡帳の重要性	連絡帳を親育ちに繋げるために		(事前) 保護者との連携の具体的な事例を書き出す (事後) 2年間の学習内容の見直しをし、保育者としての課題をまとめる	(事前) 60分 (事後) 74分		
成績評価の方法	実習評価(40%)、実習記録(30%)、指導計画(20%)、授業態度(10%)							
課題のフィードバック	実践力に結びつけられるよう教育実習Ⅰの経験をふりかえるとともに、実習後には面談を行い2年間の実習の総括をする							
テキスト	大豆生田啓友/高杉展/若月芳浩:『最新保育講座12 幼稚園実習 保育所・施設実習』(ミネルヴァ書房)							
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『保育用語辞典』(フレーベル館)							

科目名	保育実習指導Ⅰ(保育所)		科目コード	1ES099	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	(演習)	
担当者	猿田 興子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・後期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				保育士資格を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、保育実習(保育所)について指導する。					
授業のねらいと概要	実習に向け児童福祉施設の目的と機能を理解し、実習を円滑に進めていくための実践的知識や心構えを会得する。さらに実習の内容を理解し、自らの課題を明確にするとともに実習の事前事後授業を通して保育者として必要な資質・能力・技術の理解を深める。保育の実際を体験的・総合的に理解し、保育実践並びに保育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。								
到達目標	(1)事前指導では実習生として実習施設の保育活動に意欲に参加する意識を持ち、事後指導では実習の成果と課題等を省察することができる。 (2)実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに実習の意義を相互的に理解できる。 (3)実習までに学んだ保育に関する専門的な知識・理論・技術等を保育内にて実践するための基礎づくりができる。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○		○	○	○		○	○	○
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	オリエンテーション －通年における保育実習の回数・期間・種類と準備について－				実習の手引きを読む 授業後内容確認		事前40分 事後60分	
	2	各実習の内容とその位置づけ －実習の目的とその概要について－				実習の手引きを読む 授業後内容確認		事前40分 事後60分	
	3	実習園について －実習先(児童福祉施設)の事前調査と保育内容について－				説明会の学びをまとめる 課題完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	4	実習の方法と理解 －映像を通して実習をイメージする－				説明会の学びをまとめる 課題完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	5	保育所保育指針・教育・保育要領から －子どもの発達とその特徴 幼稚園教育要領との違いから－				教科書を読んでおく 課題完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	6	保育所保育指針・教育・保育要領から －子どもの生活環境と保育園での生活の流れについて－				教科書を読んでおく 課題完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	7	実習園におけるオリエンテーションについて －連絡方法・態度・持ち物・事前準備・指導案等について－				教科書を読んでおく 指導案作成に取り組む		事前40分 事後60分	
	8	実習における基本的態度・マナーと意識 －実習生の生活習慣・健康維持・マナーと生活から－				配付資料を読んでおく 指導案作成に取り組む		事前40分 事後60分	
	9	実習における基本的態度・マナーと意識 －実習生の社会性・その重要性をテーマに考え合う－				配付資料を読んでおく 指導案作成に取り組む		事前40分 事後60分	
	10	保育実習における安全管理の重要性 －守秘義務の重要性・養護と教育の実践事例を通して－				配付資料を読んでおく 指導案作成に取り組む		事前40分 事後60分	
	11	保育実習記録の記述を中心に －保育所の目的と機能・保育のねらいについて－				配付資料を読んでおく 指導案作成に取り組む		事前40分 事後60分	
	12	保育実習記録の記述を中心に －保育所生活の流れ・保育の見方・子ども理解につながる記録－				配付資料を読んでおく 指導案作成に取り組む		事前40分 事後60分	
	13	保育実習記録の記述を中心に －保育用語・記録法・記録時の留意点について－				配付資料を読んでおく 指導案作成に取り組む		事前40分 事後60分	
	14	乳児保育における養護と教育について －乳児への保育者のまなざしと望ましい援助について－				乳児保育Ⅰ教科書読む 課題完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	15	0・1・2歳児の生活と遊び －その特徴と配慮点を深める・適切な環境について－				乳児保育Ⅰ教科書読む 課題完成に取り組む		事前40分 事後60分	
成績評価の方法	レポート・小テスト(30%)、授業態度・意欲(20%)、実習評価(30%)、実習記録(20%)								
課題のフィードバック	保育実習活用のため「実習ノート」作成して学修に活用するとともに採点に活かし、その後返却する。授業内の課題は提出状況と内容を評価に活かし、その後返却する。								
テキスト	大豆生田啓友／三谷大紀／松山洋平：『新しい保育講座⑫ 保育・教育実習』(ミネルヴァ書房)								
参考文献・資料	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育用語辞典								

科目名	保育実習指導 I(施設)		科目コード	1ES100	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	(演習)	
担当者	猿田 興子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				保育士資格を有し現場経験のある教員と各種福祉に関する資格を有する教員が、現場での知見を生かし、保育実習(施設)について指導する。					
授業のねらいと概要	実習に向け児童福祉施設の目的と機能を理解し、実習を円滑に進めていくための実践的知識や心構えを会得する。さらに実習の内容を理解し、自らの課題を明確にするとともに実習の事前事後授業を通して保育者として必要な資質・能力・技術の理解を深める。保育の実際を体験的・総合的に理解し、保育実践並びに保育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。								
到達目標	(1)事前指導では実習生として実習施設の保育活動に意欲に参加する意識を持ち、事後指導では実習の成果と課題等を省察することができる。 (2)実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに実習の意義を相互的に理解できる。 (3)実習までに学んだ保育に関する専門的な知識・理論・技術等を保育内にて実践するための基礎づくりができる。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○		○	○	○		○	○	○
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	3・4・5歳児の生活と遊び －その特徴と配慮点・適切な環境について－				指導案の見直しと準備物 実習の振り返りと提出物		事前60分 事後40分	
	2	保育実習を終えて －学生同士の協議・省察・報告書記述で振り返り－				事後作業(実習記録) 報告書完成に取り組む		事前60分 事後40分	
	3	児童福祉施設(施設)実習に向けて －学生同士の協議を通してイメージの伝え合いをする－				教科書を読む 課題完成に取り組む		事前60分 事後40分	
	4	児童福祉施設(施設)実習に向けて －施設の種類とその特徴－				教科書を読む 課題完成に取り組む		事前60分 事後40分	
	5	児童福祉施設(施設)実習に向けて －施設の生活と保育者の援助 実習生の援助－				教科書を読む 課題完成に取り組む		事前60分 事後40分	
	6	児童福祉施設(施設)実習に向けて －施設職員の職務内容と保育士の役割について－				教科書を読む 課題完成に取り組む		事前60分 事後40分	
	7	施設別実習事前オリエンテーション －学生・施設別担当教員による協議を通しての学び－				配付資料を読む 課題完成に取り組む		事前60分 事後40分	
	8	施設別実習事前オリエンテーション －学生・施設別担当教員による協議を通しての学び－				配付資料を読む 課題完成に取り組む		事前60分 事後40分	
	9	施設実習記録の記述について －施設別先輩実習生から実践事例を聞く－				配付資料を読む 課題完成に取り組む		事前60分 事後40分	
	10	施設実習記録の記述について －施設別先輩実習生から実践事例を聞く－				配付資料を読む 課題完成に取り組む		事前60分 事後40分	
	11	施設実習を終えて －学生・施設別担当教員による協議を通して省察する－				配付資料を読む 課題完成に取り組む		事前60分 事後40分	
	12	施設実習を終えて －学生・施設別担当教員による協議を通してエピソードにまとめる－				配付資料を読む 課題完成に取り組む		事前60分 事後40分	
	13	保育所保育指針・教育・保育要領から －子育て支援の現状と保育者の役割について学ぶ－				教科書を読む 課題完成に取り組む		事前60分 事後40分	
	14	保育所保育指針・教育・保育要領から －保育者の専門性について 実習体験のまとめ－				教科書を読む 課題完成に取り組む		事前60分 事後40分	
	15	2年間を通した保育実習のまとめ －乳児・幼児・入所児の内面理解と自身の変化について－				これまでの実習記録を読む ゆりかご作成に取り組む		事前60分 事後40分	
成績評価の方法	レポート・小テスト(30%)、授業態度・意欲(20%)、実習評価(30%)、実習記録(20%)								
課題のフィードバック	保育実習活用のため「実習ノート」作成して学修に活用するとともに採点に活かし、その後返却する。授業内の課題は提出状況と内容を評価に活かし、その後返却する。								
テキスト	大豆生田啓友/三谷大紀/松山洋平:『新しい保育講座1 保育・教育実習』(ミネルヴァ書房)								
参考文献・資料	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育用語辞典								

科目名	保育実習指導Ⅱ		科目コード	1ES062	必修・選択	選択(保資必修)	授業形態	(演習)	
担当者	猿田 興子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期	
担当者の実務経験の概要、授業科目との関連性				保育士資格を有し現場経験のある教員が、現場での知見を生かし、保育実習(保育所)について指導する。					
授業のねらいと概要	これまでの実習体験を活かしながら部分・責任実習に向け指導計画の理解・作成・実践・評価について総合的に学び理解する。さらに実習事後のグループ討議・省察を通して保育の観察の為て・記録の仕方及び自身の保育を振り返ることで指導計画における評価と保育の改善について実践的に深める。								
到達目標	(1)事前指導では実習生として実習施設の保育活動に意欲的に参加する意識を持ち、事後指導では成果と課題等を省察するとともに資格取得に向け修得すべき知識や技能等について理解できる。これらを通して保育実習の意義を総合的に理解することができる。 (2)これまで学んだ保育に関する専門的な知識・理論・技術等を活かして実践するための基礎を身につけている。								
DPとの関連	人間性		専門性			社会性			
	人間尊重・他者理解	自己理解	意欲・探究心	使命感・責任感	知識・技能	思考力・判断力・表現力	社会的常識・一般教養	コミュニケーション能力・人間関係能力	地域貢献力
	○	○	○	○	○	○	○		
授業計画	授業回数	授業の内容				事前・事後学習		時間(目安)	
	1	保育所保育指針から －指導計画の理解・作成・実践・評価について総合的に考える－				指導計画作成に取り組む 課題の完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	2	指導計画について －幼児理解と「教育」「養護」の関連について－				指導計画作成に取り組む 課題の完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	3	保育実習における計画と実践・評価 －附属幼稚園児 模擬保育を通して(活動と遊びの姿を捉える)－				指導計画作成に取り組む 課題の完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	4	保育実習における計画と実践・評価 －附属幼稚園児 模擬保育を通して(計画と実践の関係性について)－				指導計画作成に取り組む 課題の完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	5	保育における活動の捉え方について －保育者の願いと子どもの思い 事例から考える－				指導計画作成に取り組む 課題の完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	6	保育における活動の捉え方について －子どもの興味関心・発達段階・季節・経験から考える－				指導計画作成に取り組む 課題の完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	7	遊びを通した総合的な発達とは －遊びと生活の実践例から考える－				教科書や配付資料を読む 課題の完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	8	遊びを通した総合的な発達とは －事例を通して記録・振り返り・評価・保育の展開へとつなぐ学び－				教科書や配付資料を読む 課題の完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	9	子どもの生活する姿を通して －事例を通して記録・振り返り・評価・保育の展開へとつなぐ学び－				教科書や配付資料を読む 課題の完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	10	保育実習における活動の捉え方 －園生活の実態と指導計画について－				教科書や配付資料を読む 課題の完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	11	望ましい環境構成と主体的遊びについて －子どもの立場から環境を捉え直す－				教科書や配付資料を読む 課題の完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	12	保育実習に向けた指導計画立案と作成 －まとめとして 発達・時期・興味・関心と子どもの姿を中心に－				教科書や配付資料を読む 課題の完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	13	保育実習の振り返り －責任実習を通して他学生との協議を通して視野を広げる－				教科書や配付資料を読む 課題の完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	14	保育実習の振り返り －保育における計画と記録・そして評価を考える 保育要録記述－				教科書や配付資料を読む 課題の完成に取り組む		事前40分 事後60分	
	15	2年間の学びと自身の変容について －まとめ 子どもを理解するための視点－				これまでの実習記録を読む 課題の完成に取り組む		事前40分 事後60分	
成績評価の方法	レポート・小テスト(30%)、授業態度・意欲(20%)、実習評価(30%)、実習記録(20%)								
課題のフィードバック	保育者に求められる基本的な実践力を養うために「実習ノート」も採点対象とし返却する。授業ごとに実習に関する課題も採点し、その後実習用に使用・返却する。								
テキスト	大豆生田啓友/三谷大紀/松山洋平:『新しい保育講座 12 保育・教育実習』(ミネルヴァ書房)								
参考文献・資料	保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育用語辞典								





